「八幡史学館」資料　第5シリーズ　平成22年

番号	表題	内容	実施日	講師	備考
		八幡史学館			
1	◎	第１回講座＝「古文書にみる八幡の歴史	平成22年6月8日	山岸弘明	
		①5年目迎えた八幡史学館、②市原の古文書研究会、古ふすま下張りは古文書の宝庫、④菊間若宮八幡神社旧神官家文書調査			
		菊間八幡神社旧神官家文書			
		「天皇御璽印」のある位記、徳川将軍家朱印状、2年間しかなかった木更津県文書、生類憐みの令を緩める			
		神仏混淆の廃止、若宮八幡神社別当寺			
		やわた名所100選　パブリシティニュース			
		小出惣治さんにインタビュー、本多正純、やわたと俳句、菊間藩庁舎、浜本町参道石橋、天正18年奢上げ八幡宮絵図			
2	◎	第2回講座＝菊間若宮八幡神社旧神官文書のことなど	平成22年7月27日	山岸弘明	
		①八幡若宮寺が菊間若宮神社別当職を譲渡証文、八幡旧家所蔵の身売り奉公人(人身売買)にかかわる書付			
		②江戸図に見る 沼津(菊間)水野藩江戸藩邸と菩提寺真珠院墓所			
		③飯香岡八幡宮絵馬			
3	◎	第3回講座			
		飯香岡八幡宮宝蔵庫絵馬など調査	平成22年9月14日	山岸弘明	
		写真でみる八幡五大力船	平成22年9月14日	佐倉東雄	
4	◎	第2回講座＝現地巡見「柳楯の里を歩く」	平成22年11月9日	山岸弘明＋佐倉東雄	
		飯香岡八幡宮柳楯神事ＶＴＲ、市原八幡宮にかかわる、柳楯の起こり、引き継がれる伝統、柳盾の調整			

		現地巡見「柳楯の里」を歩く　(コース図＝バスで山木スタート)			
		いちはらの地名を考える、今日廻る４地区(八幡、五所、山木、市原)、房総往還にらむ市原城と外郭白船城、			
		八幡や五所の水田を潤した灌漑用水、柳楯を調整した柳楯司家、戦国の平山城土の城、国分寺より古い古代寺院、			
		柳楯神事の小路、万葉の里阿須波神社、条里制遺跡と古代官道、阿須波神社で解散、有志で柳楯の道を歩く			
		辰巳公民館主催事業「江戸東京歴史散策」			
5		第1回「江戸城とその城下」	平成22年6月25日	山岸弘明	
6		第2回バス研修＝「貨幣博物館と江戸城を歩く」	平成22年6月29日	山岸弘明	
		辰巳公民館主催事業「すこやかカレッジ」			
7		バス研修＝相撲と忠臣蔵の両国と江戸東京博物館	平成22年10月6日	山岸弘明	

市教八公第2－4
平成22年 4 月 15 日

山岸弘明様

市原市立八幡公民館
館長　正司 博徳

八幡公民館主催事業の講師について(依頼)

時下、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素、公民館事業に関し格別なるご協力を賜り厚くお礼申しあげます。
さて、当公民館主催事業「八幡史学館」を下記のとおり開催いたします。
ご多用のおり恐縮ですが、事業の講師としてご指導を賜りたく、よろしくお願いいたします。

記

1，依頼日時　　平成22年6月8日（火）7月27日（火）9月14日（火）
11月9日（火）

2，場　所　　市原市立八幡公民館

3，内　容　　八幡、市原地区の歴史をほりおこし、その背景を学ぶ。

4，受講対象者　　４０人

5，その他　　・受講者への配布資料や公民館で用意するものにつきましては、
事前にご連絡いただけましたら幸いです。
・講座の当日ご印鑑をお借りいたしますので、ご用意をお願いいたします。

〒２９０－００６２
市原市八幡１０５０－１　担当　熊谷　嘉子
ＴＥＬ　０４３６－４１－１９８４
ＦＡＸ　０４３６－４３－７４５７
Ｅメール　y-kumagaya@city.ichihara.chiba.jp

八幡公民館主催事業「八幡史学館」①古文書にみる八幡の歴史

旧若宮（菊間）八幡宮の幕府関連文書から郷土史とのかかわりと背景を探る

平成２２－６－８（火曜日）　山岸弘明

解体前の旧神官 根本邸

昨年の「八幡史学館」から引き続いて参加された方なら、秋の「菊間地区現地巡見」のコースとなった「古民家邸」を覚えておられるのではないだろうか。

「元若宮（現菊間）八幡宮神官・根本邸」跡で、明治維新の時、菊間５万石城主水野忠敬（ただのり）が、１年間余りにわたって仮藩邸とされたことを紹介した。

＊

その後、宅地造成を進められた近藤商事社の近藤和夫さんにお会いしたところ、取り壊された旧宅のタンスなどに保管されていた古文書を預かっておられることがわかり、根本家の御子孫や地元町会長の菅勇栄さんのご協力をえて、一部を複写させていただいた。

文書は江戸中期から明治までのおよそ　千点、内訳は神道関係文書が中心であったが、神社の由緒、社領、年貢、人別、質地など貴重な郷土資料多数が含まれていた。「市原の古文書研究会」で解読を進める。本講座ではその一部、将軍朱印状や幕府触達などを紹介し、郷土史とのかかわりや背景などを探る。郷土市原、八幡の歴史は、中央政治の一断面であることを古文書の１枚１枚が物語っている。

協力＝
根本家、近藤和夫様、菅勇栄様、瀧本平八様、秋葉平様
市原の古文書研究会、八幡史学館名所１００選チーム、飯香岡八幡宮

明治中期の若宮（菊間）八幡宮境内図

（菊間）八幡神社

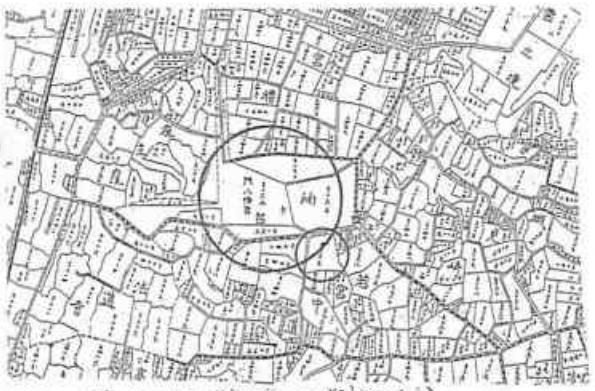
内部

解体工事中

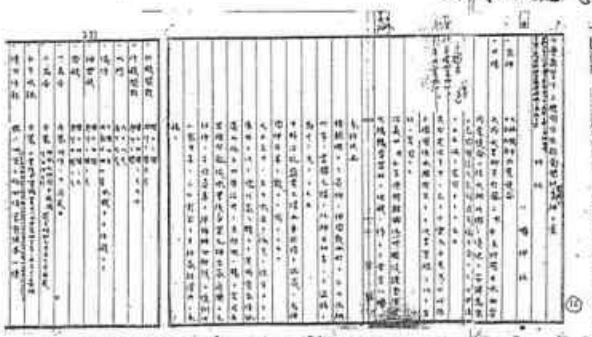
千葉氏からの寄進状

根本家歴代の墓所

使われていた木材と礎石



古い地籍図（戦前？）



千葉県神社台帳（部分）

古民家木材で再生住宅

「古き良き」ニーズに照準

31日、市原でモデル公開

アクア値下げなど

昨年見学時の古民家邸

現況

1）郷土八幡の歴史を学ぶ ―― ５年目を迎えた「八幡史学館」

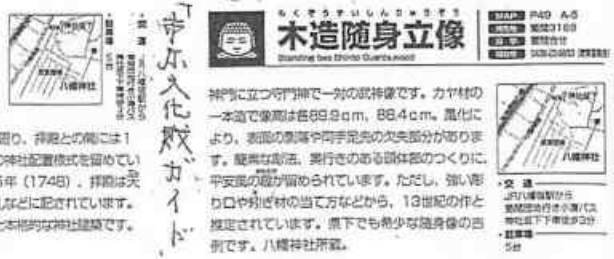
①次回＝第２回（７月27日＝火曜日）９時30分～11時30分
　やわた名所百選、菊間城のことなど

②第３回（９月14日＝火曜日）９時30分～11時30分
(1)八幡宮柳楯神事と巡行
(2)八幡と五大力船（ゲスト講師＝佐倉東雄）

③第４回（11月９日＝火曜日）９時30分～16時　八幡公民館集合、弁当持参
(1)午前（八幡公民館）＝現地巡見コースのみどころ、昼食、路線バス移動
(2)午後（現地巡見）＝市原と柳楯神事の道を歩く（詳細は第３回で説明します）

八幡神社社殿棟札

本殿は三間社流造、拝殿は間口3間奥行き3間の入母屋造です。
本殿軒廻には延長27間の玉垣が廻り、拝殿との間には1間1戸の唐門があるなど、古式の神社配置様式を留めています。本殿・玉垣は延享5年（1748）、拝殿は天保4年（1833）の建造と、棟札などに記されています。それぞれ当初の形態を良く保った本格的な神社建築です。



木造随身立像

神前に立つ門神で一対の武神像です。カヤ材の一本造で像高は各89.9cm、88.4cm。風化により、表面の彫等や両手足先の欠失部分があります。鎧兜は剛法、実行きのある団体部のつくりに、平安風の殿が留められています。ただし、強い彫り口や刳ぼ材の当て方などから、13世紀の作と推定されています。県下でも希少な随身像の古例です。八幡神社所蔵。

「市文化財ガイド」

3

2）八幡地区の古文書を掘り起こす ―― 市原の古文書研究会

①市原の古文書研究会（秋葉平、上田洋子、佐野彪、高澤恒子、山岸弘明）

＊目的＝郷土の埋もれた古文書を掘り起こし、活字として記録する

②第１集＝今関勘四郎・鶴舞井上藩仮藩邸御用留

第２集＝金杉浜塩田資料集成（五所斉藤家、今井家、君塚斉藤家文書）

第３集＝勝間、能満（森山家）、君塚（県文書館）、八幡村（飯香岡八幡宮、八幡鈴木家）文書

第４集＝飯香岡八幡宮、八幡満徳寺、勝間深山家、畑木高石家文書

③第５集（４月刊行）＝県立中央、市原中央、八幡、辰巳図書館などで閲覧できます

＊飯香岡八幡宮文書（連載＝第６集以降に継続）

＊八幡・寺嶋家（寺島医院＝旧名主）文書（　〃　）

＊八幡・梅谷家文書　ほか

④現在、解読中の八幡地区文書（第６集以降に紹介予定）

＊八幡・市川本店文書（飯香岡八幡宮由緒本記ほか）

＊〃　・片町区有文書

＊教育会館南洞文庫（明治３年菊間水野藩、五井村年貢割付ほか）

＊五所・今井家文書（金杉浜新田名主文書）

＊〃　・藤田家文書（富士講関連文書）

＊菊間・根本家文書（菊間八幡宮旧神官文書）

＊〃　・天羽家文書（　〃　）

＊〃　・岡田家文書（旧菊間藩士文書）

＊勝間・佐野家文書（海土有木村年番名主菊間藩御用留め）

3）下張りは古文書の宝庫 ―― 古ふすまを捨てないでください

①松尾太田藩（掛川５万石）重臣・古谷はな家ふすま下張り文書の解読

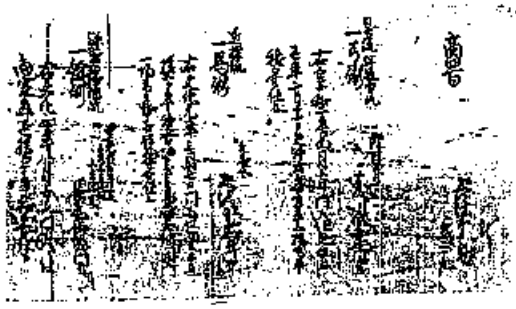
（古建築研究家瀧本平八氏とタイアップ、ご協力をえた）

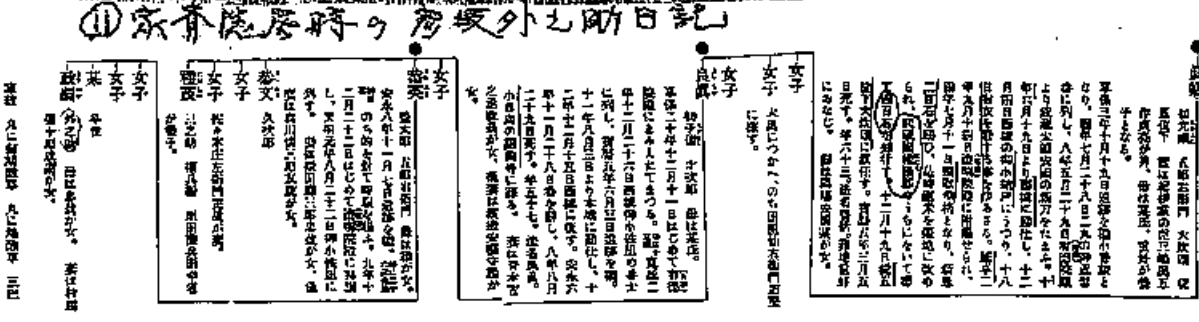
＊旗本400石彦坂大炊頭家文書が混在。現在のところ古谷家との関係は不詳

紀伊から８代将軍吉宗にしたがった重好が 200俵を得、真卿（あきちか）の時、家重の小納戸頭取 400石に進んで、子孫が小姓組、書院番などで明治維新を迎えた。

＊４代外之助政嗣の江戸城執務日記（部分）、書院番カ日誌（部分）、武道修行など

②みなさんのお宅に古文書や古ふすまはありませんか。解読して記録を残しましょう。





4）およそ1000点 —— 菊間・根本家（若宮＝現菊間八幡宮神官）文書

①旧若宮八幡宮神官・根本邸取り壊しの時、残存文書が発見された。

②根本家、近藤商事社などのご協力でうち主要と判断した500枚ほどを複写した。

③寛文４年（1664）～明治時代のもので内訳はおおむね

＊根本家の叙位に関する文書

祝詞（のりと）など神道関係文書

＊徳川将軍家朱印（写し）と、朱印改めに関する文書

＊神社由緒、沿革、別当寺に関する文書

＊朱印社領、年貢、人別に関する文書

質地、借用などに関する証文

その他に分類できる。調査は＊印を中心とした。県文書館寄託をお勧めしている

④残念ながら菊間藩水野忠敬仮藩邸に関する文書や書き上げなどの諸帳面はなかった。

主要文書は後継神主に引き継いだり、別途移管されたとみられる。

5）引き継かれた若宮八幡宮旧神官文書 —— 一部写し文書を入手

①明治18年根本家は病気のため神主を退任され、現在は天羽家（旧社家）が勤めている。

②平成８年「八幡神社社殿付けたり棟札」修理にともなう調査＊時の神官家資料（天羽家文書コピー）を入手

＊文化11年（1814）上総国市原郡八幡村正八幡宮、若宮八幡宮両社別当若宮寺無住につき満徳寺より神主根本河内相手取り候一件の控え（関係文書を含む）

＊慶応４年（1868）貞享元年（1684）御神領水帳写し

（慶応４年太政官御触達、神祇事務局出状を含む）

水帳＝江戸時代年貢の基礎資料となった検地台帳

＊明治６年　千葉県あてカ若宮八幡宮明細（表紙欠落）

＊大正14年　内務省神社局長あて社格昇進願い

由緒や沿革、建造物、宝物、古文書などを記す

③参考＝その他の基礎資料

＊千葉県神社台帳（明治10年代～昭和戦前使用＝県文書館所蔵）

＊八幡神社修理工事に関する覚え書（市原地方史研究第19号＝瀧本平八）

5

6）「天皇御璽」印のある位記 —— 菊間は大炊頭、飯香岡は伊賀守に

①若宮八幡宮位記天皇御璽

(1)享保６年７月＝勅許、上総国市原郡八幡宮神主平治胤、今度大炊頭、従五位下

〃　　＝託宣、〃

このほかの(1)寛延元年、根本治胤従五位上勅許、(2)宝暦９年、根本佳胤従五位下常陸介勅勅許、(3)寛政５年、藤原吉梁従五位下には天皇御璽はない

＊位記＝天皇が授与する叙位の文書

＊御璽＝天皇の印鑑で天皇御璽の４文字を刻む。上位の位記や諸国に下す公文書に使用

＊託宣＝神の御告げ

＊根本治胤、胤満の墓＝菊間神道墓地に所在、亀扶型、功績を刻んだ行状碑

＊「若宮八幡宮明細」は神主代々位階、免許を記している

②飯香岡八幡宮「手水鉢」も寛文２年伊賀守（従五位下カ）を彫るが位記は現存しない

③全国の神社は大化の改新以来の官庁である神祇官が総管した。神主の位階は神祇官が任命し従五位以上は天皇御璽をうけた。大変貴重な文書といえる。

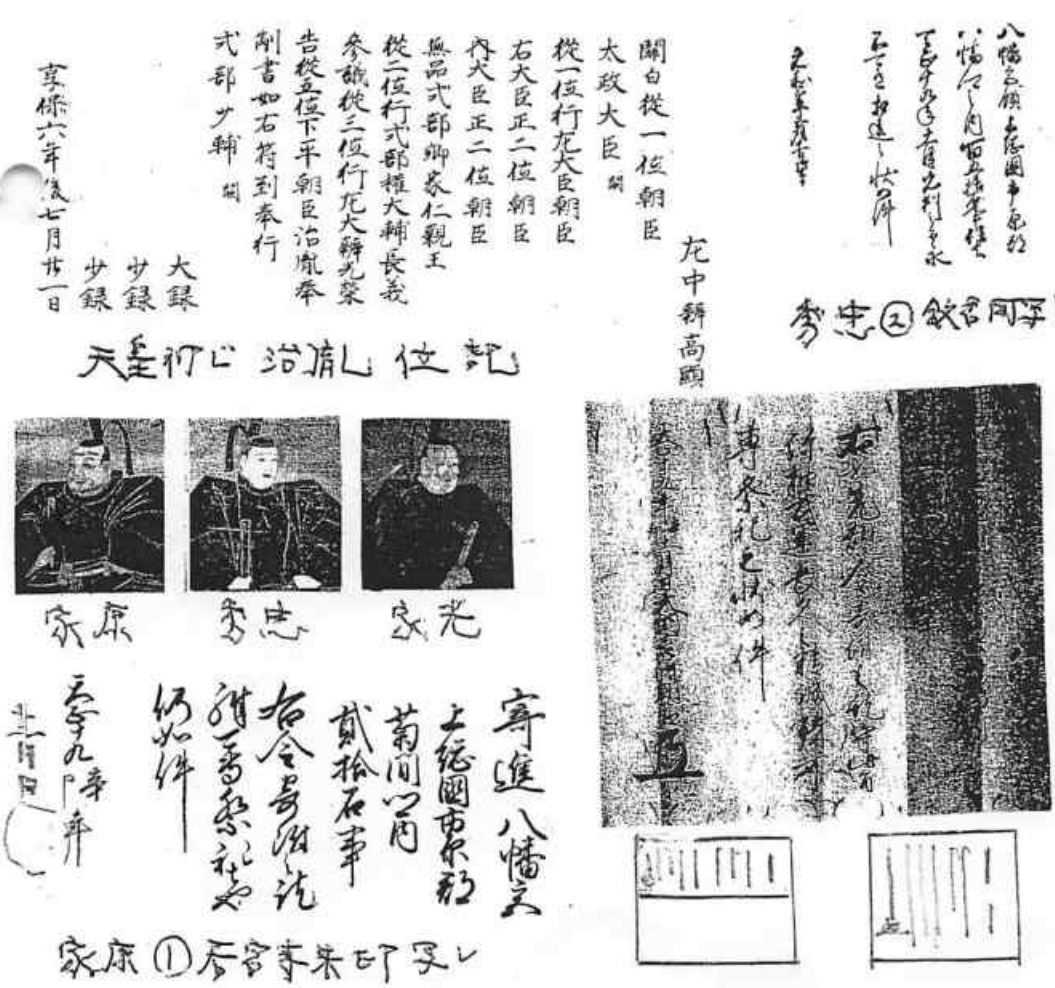
7）徳川将軍家朱印状の写し —— 飯香岡八幡宮文書と比較

①朱印状は将軍家が発行した所領安堵の文書をいう。代替わりごとに「朱印改め」が行われ、改めて朱印状が下付された。朱印高が飯香岡八幡宮は八幡郷（村）の内150石、若宮八幡宮は菊間郷（村）の内20石であった。

②家康（権現様）判物写し

＊飯香岡八幡宮＝寄進、八幡宮、上総国市原郡八幡郷の内百五十石のこと。
右先規のごとくこれを寄付せしめ訖（おわんぬ）。この旨を守り、いよいよ武運長久の精誠に抽（ぬきんで）ことに祭祀を専らにすべきの状、くだんのごとし。
天正十九辛卯十一月日　大納言源朝臣（花押）　竪紙カ

＊若宮八幡宮＝寄進、八幡宮、上総国市原郡菊間郷の内二十石のこと。
右これを寄付せしめ訖（おわんぬ）。ことに祭祀せしむべきものなり。よってくだんのごとし。
天正十九辛卯十一月日（朱印カ）　竪紙折り紙カ



6

③歴代将軍朱印写し

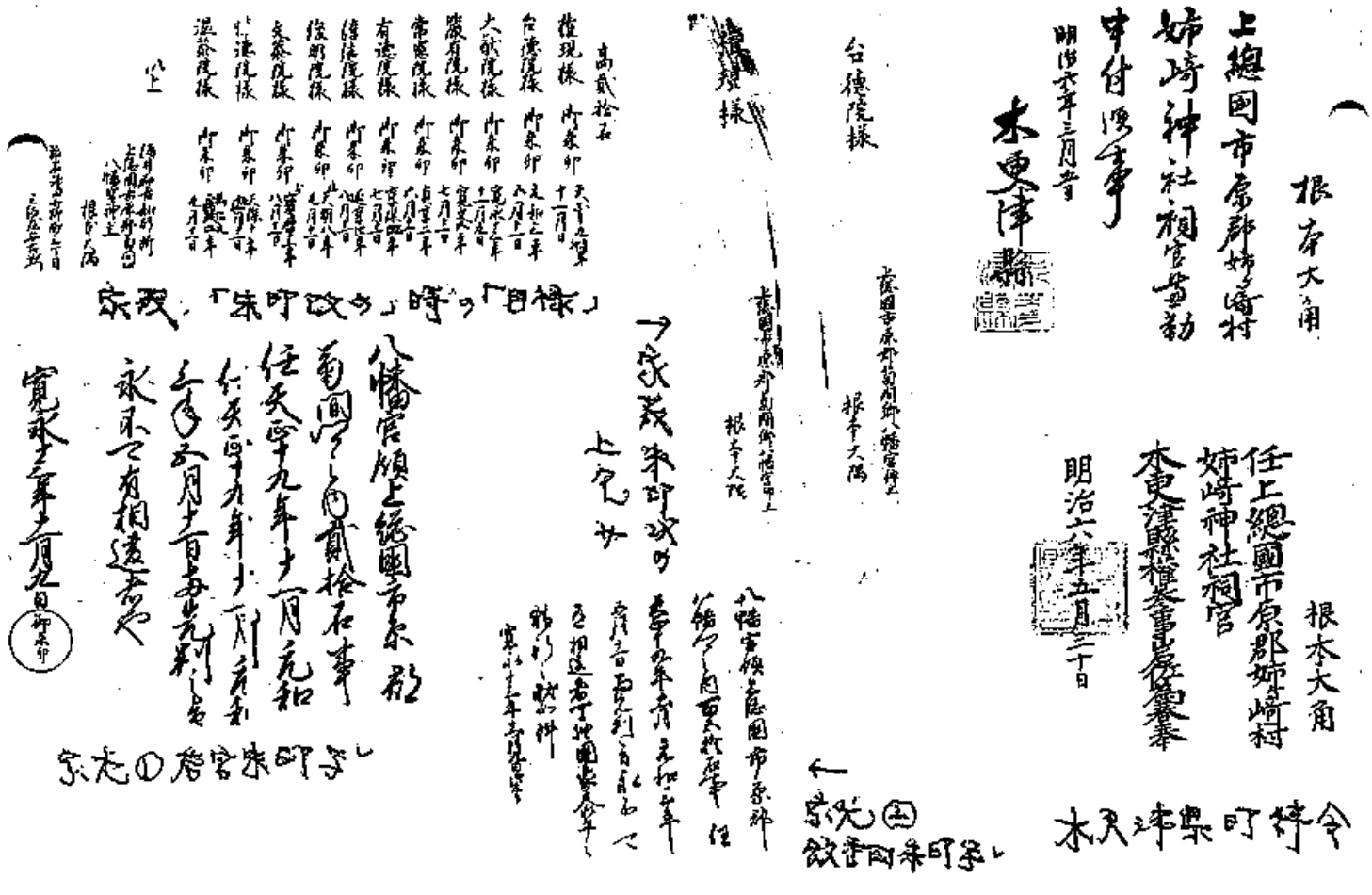
(2)秀忠（台徳院）朱印　元和３年５月（若宮の方がやや簡略文）
(3)家光（大猷院）〃　寛永13年11月　〃
(4)家綱（厳有院）〃　寛文５年７月　〃
(5)綱吉（常憲院）〃　貞享２年６月　〃
(8)吉宗（有徳院）〃　享保３年７月　〃
(9)家重（淳信院）〃　延享４年８月　〃
(10)家治（凌明院）〃　宝暦12年８月　〃
(11)家斉（文恭院）〃　天明８年９月　〃
(12)家慶（慎徳院）〃　拝領記録はあるが写しは未確認
(13)家定（温恭院）〃　〃
(14)家茂（昭徳院）〃　〃

＊６代家宣、７代家継、15代慶喜は朱印状を発行していない
＊明治６年「若宮八幡宮明細」＝右徳川家代々判物本紙の儀は去る辰年（明治元年）十一月中、知県事（柴山文平）御役所へ差し上げ置き申し候
＊大正14年「社格昇進願い」＝維新の際朱印地は上地し徳川家代々の御朱印御証文十一通返上す
＊飯香岡八幡宮は返上したかどうか不明、姉崎・榊原家が家康の原文を保管

②朱印状は朱色の印のこと、江戸時代は将軍だけが使用した。幕府は寺社に対して所領安堵のしるしとして朱印状を下付した。
＊判物（はんもつ）は朱印の代わりに花押（かおう）を付した文書をいう

8）２年間しかなかった木更津県 ―― 県印の辞令

①明治４年７月「廃藩置県」で菊間藩は菊間県となる。
②明治４年11月、旧上総、安房国諸県を合併、木更津県となる。県庁舎は木更津の貝淵で権知事は房総知県事の芝山文平があたった。
＊明治６年３月　木更津県印辞令、姉崎神社祠官兼勤
＊〃　５月　〃　大宮神社祠官
＊〃　５月　〃　姉崎神社祠官
③明治６年６月木更津県は印旛県と合併して千葉県が誕生。木更津県は期間も短く貴重。



9）生類哀れみの令を解禁する ―― 「鉄砲改め触れ書」

①庶民の鉄砲所持は豊臣秀吉の「刀狩り」で禁止され、江戸時代に引き継がれた。
特例として猟師（またぎ）と作物害獣対策の「おどし鉄砲」が許認可されていた。

②貞享４年（1687）５代将軍綱吉（犬公方）の悪法「生類哀れみの令」はじまる。

＊世界最悪の動物愛護家？　犬猫にはじまり、蚊やボウフラへとエスカレートした

＊元禄８年姉ケ崎地区で「忠僕市兵衛事件」が起こる。迎田村など７か村で雇った猟師が百姓女房を誤射、発覚して死罪、島流しなどに。10年後市兵衛の嘆願などで釈放、綱吉は年を取り、実子誕生をあきらめ後継家宣を養子に迎えた後であった。

③宝永３年（1707）家宣の西の丸入りで緩み、６年綱吉の死去で狂想曲が終焉
根本家文書は家宣が将軍就任時に出した「鉄砲触れ書」

④丑四月（宝永６年）、幕府触れ書、作成＝寺社奉行三宅備前守康雄（三河田原１万２千石）から各寺社へ。村役人は領主経由通達されたといえる。

＊はじめの３項目、猪鹿狼など田畑を荒らす害獣への鉄砲使用は願い、届けにおよばず、解禁を意味する

＊真ん中の３項目はこれまで通り「鉄砲改め方」へ申し出て指示を受けること

＊在々や町方近くでみだりに使用しないこと、「おどし鉄砲証文（控え現存は多い）」は毎年提出のこと

＊右のとおり仰せ出され候あいだ支配支配へ相触れられべく候、とまとめている

「市原市誌」が記す「義侠市兵衛伝」

家宣の鉄砲改め触れ書

覚え

一猪鹿狼多出、田畑荒らし人馬へも懸かり候節は相窺（伺）うに及ばず玉込め鉄砲にて打たせ申されべきこと。付けたり、目付に家来付け置き候儀ならびに打ち留め候の数これあり（ても）書き付け差し出すに及ばざること。

一玉込め鉄砲免許の儀の旨、常威（おどし）鉄砲ならびに月内威し鉄砲、向後願いに及ばざること。

一猟師鉄砲相続ならびに増減の儀、鉄砲改め方へ相窺うに及ばず、御代官、領主、地頭勝手次第たるべきこと。

一用心鉄砲ならびに寄進鉄砲のこと。

一商売鉄砲ならびに質地鉄砲のこと。

一江戸の外、諸国浪人所持の鉄砲ならびに浪人稽古鉄砲のこと。

右三か條（条）は前々のとおり相心得、鉄砲改め方へ相伺い指図に任せらるべきこと。

一猟師ならびに荒らし畜類打ち候外は在々ならびに町方まで猥（みだりに）鉄砲相申すまじき旨御代官、領主、地頭方にて常づね吟味を遂げ、毎年一度改め方の証文差し出されべき候こと。

右のとおり仰せ出候あいだ支配支配へ相触れらるべく候。以上

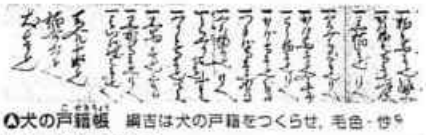
丑（宝永６年）四月

右は四月二十日、三宅備前守様仰せ渡され候

	前期（1680～84）	後期（1688～1709）
側近	大老堀田正俊	側用人柳沢吉保
政策	①学問を奨励：湯島聖堂の建設など ②仏教の保護：護国寺・護持院建立など ③仏教への帰依：生類憐みの令、殺生令 ④財政政策：貨幣の改鋳（元禄金銀）	
結果	①貨幣経済がいっそう発展 ②支出増で、幕府財政が破綻 ③貨幣価値の下落で、物価騰貴	

◀徳川綱吉（1646～1709）家光の第4子。館林藩主より5代将軍に就任。学問の奨励や幕政の刷新をおこなった。生類憐みの令を出し、犬公方ともよばれた。

◀柳沢吉保（1658～1714）綱吉の小姓より側用人。大老格へと出世。背景には、堀田正俊暗殺事件を機に、老中部屋が将軍居間と離れ、その間をつなぐ側用人の役割が重くなる事情があった。



▲犬の戸籍帳　綱吉は犬の戸籍をつくらせ、毛色・性・飼主などを記載させた。

◀犬の湯たんぽ　徳川綱吉が愛用したと伝えられる犬型の湯たんぽ。丙戌生まれで、湯たんぽにもその形を使うほど、犬を溺愛した。

10）諸大名を厳しく制約 —— 寛政の改革、松平定信の「武家諸法度」

①「武家諸法度」は大名や家臣の行動を厳しく規制するもので、元和元年（1615）大御所家康は金地院崇伝に命じて武家諸法度を定め、以後、家光の「寛永令」、新井白石の「宝永令」などで改定された。

②文書は天明7年（1787）9月の「天明令」、11代将軍家斉の就任直後、田沼政権を追放して老中首座となった松平定信が「寛政の改革」に乗り出した。田沼時代を批判、頽廃した士風回復をめざしている。

＊田沼に御三卿田安家次男から白河に出された定信のうらみが込もる

＊第1条「文武忠孝、礼を正す」からはじまり、項目は参勤交代や築城、婚姻、贈賄、衣装などに及んでいる。

＊「改革」の厳しい倹約令で一時的に幕府の権威は上昇したが、次第に庶民の不満は増大し、成功することなく終わる。

③やがて将軍家斉親政による奢侈生活が始まり、田沼時代以上に世相は腐敗していった。50年以上にもわたった「大御所時代」の政治に見るべきものはない。歳出は右肩上がりに伸び続け、幕府財政は破綻した。この時期、頽廃した享楽的風潮は庶民にも蔓延し、風紀や治安も乱れた。

11）「神仏混淆」の廃止で混乱 —— 明治維新神祇事務局の「御触達」

①慶応4年3月、徳川慶喜追討の軍を起こした新政府は3月神祇事務局、4月太政官から「神仏分離令」を発した。神祇事務局触達は「神仏混淆（こんこう）」の禁止、別当寺の廃止（社僧は還俗、復飾して神官に成る）などであった。

＊(1)大菩薩、権現などの称号廃止、(2)神前の仏像、仏具取り払い、(3)僧形の禁止

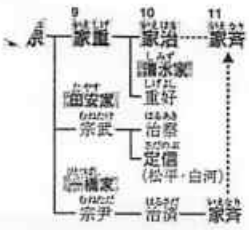
＊太政官触達は、還俗拒否者の退去を命じている

②当時、神祇官は天神と地祇を司る太政官7官の1つで、祭政一致、天皇神格化の本に国民の思想、信仰を統制しようとしていた。

③明治維新当時、新政府内に極端な神道論者が多く、神仏混こうの禁止は激しい「廃仏毀釈運動」へと展開していった。

松平定信（1758～1829）吉宗の孫。白河藩主として藩政改革に成功し、老中首座となり、寛政の改革（1787～93）を指導した。

徳川家斉（1773～1841）



特色	①享保の改革を理想とした復古的理想主義 ②農村の復興と都市政策の強化 ③士風の引き締め，幕府権威の再建
政策 農村復興	囲米・社倉・義倉を設置（1789発令） 出稼ぎ制限，旧里帰農令（1790）
政策 都市	勘定所御用達の登用（江戸の豪商10名） 江戸石川島人足寄場に無宿人を収容（1790） 七分積金の制度化（1791）
政策 財政	倹約令（1787）　棄捐令（1789，旗本・御家人の救済）
政策 思想・出版統制	寛政異学の禁（1790）　寛政の三博士の登用 出版統制令（1790）　①林子平への弾圧…『三国通覧図説』『海国兵談』（1792）　②洒落本作者の山東京伝．
結果	一時的に幕政が引き締められ，厳しい統制・倹約で，民衆の反発を招く 尊号一件（1789～93，定信は天皇の実父への尊号宣下を拒否）→幕府と朝廷の協調関係崩壊 1793，定信は家斉と対立し退陣（老中在職6年）

武家諸法度（寛永令）

一大名小名、在江戸交替、相定ル所也。毎歳夏四月中参勤致スベシ。従者ノ員数近来甚ダ多シ、且ハ国郡ノ費、且ハ人民ノ労也。向後其ノ相応ヲ以テ、之ヲ減少スベシ。……

一私ノ関所、新法ノ津留、制禁ノ事。

一五百石以上ノ船停止ノ事。（『御触書寛保集成』）

武家諸法度（元和令）

一文武弓馬ノ道、専ラ相嗜ムベキ事。……

一諸国ノ居城修補ヲ為スト雖モ、必ズ官上スベシ。況ンヤ新儀ノ構営堅ク停止令ムル事。……

（『御触書寛保集成』）

1615（慶長20（元和元））年、2代将軍秀忠の時、大御所家康が金地院崇伝（→p.147）に命じて作成させ、諸大名を伏見城に集めて公布した（元和令）。1635（寛永12）年、3代将軍家光の時には寛永令が出され、参勤交代の制度化などが追加された。また、1615年、家康は、諸大名の居城以外の城をすべて破却させる一国一城令を出した。

12）若宮・東漸院の短かかった若宮八幡宮別当の夢 —— 触達に抵抗した住職たち

①江戸時代の寺社は寺優位で神仏習合説にもとずいて付属した別当寺の強い影響を受けていた。若宮八幡宮の別当職は「若宮寺」を名乗った飯香岡八幡宮の霊応寺が兼務したが、神官側の力が強く名目だけに止まっていた。

＊正徳３年、文化11年などで別当寺が若宮側を訴え、若宮寺が勝利している

＊寛政７年（1795）「上総国新義真言宗本末帳」＝若宮寺、満徳寺両寺支配寺

市原郡菊間村　徳性院　御朱印二石二斗社領配分

同所　　東漸院　御朱印四石社領配分（両寺は建前上別当寺に付属した）

②江戸後期文久２年（1862）両者は話し合いの上、別当職の権利を30両の協力金で菊間八幡宮方の社僧・東漸院に譲渡した。

＊別当職譲渡の議定書＝菊間方（若宮）は冥加料として30両を八幡若宮寺へ助金する。頭金20両は只今八幡村方が預かり、後金10両は許可後支払う。

③慶応４年触達への東漸院（兼徳性院）有実移住願いと寺上げ一札

＊別当寺僧へ復飾（剃髪→有髪）を命じられたが、持病の逆上（かっとなりやすい）があり、やむをえず立ち退き、今般福寿院の留守居になった。

④徳性院は八幡宮南隣、東漸院も八幡宮に隣接していたとみられるが詳しい旧地は不詳。

＊福寿院は現存（無住）。元若宮寺の末寺で、新義真言宗（現在豊山派）、南北朝時代の延徳２年開基という。「菊間のお地蔵さま」の名で親しまれている。

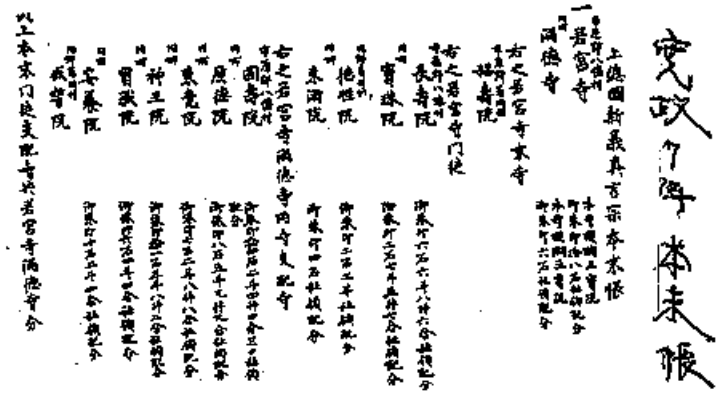
⑤東漸院にとって夢でもあった若宮八幡宮別当職は文久２年～慶応４年までのわずか６年間に終わった。

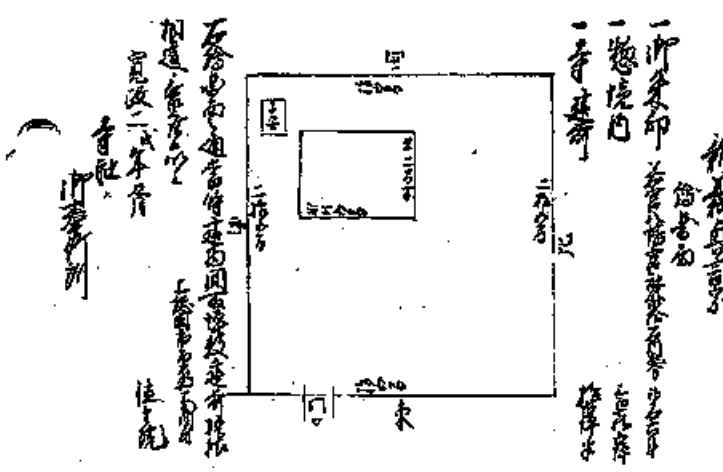
⑥一方、飯香岡八幡宮の別当・霊応寺（若宮寺）は本触達後の８月に病死、その後継をめぐるトラブルも重なり「廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）」の嵐の中で破壊された。

⑦明治新政府の「神仏混こう禁止と別当寺廃止」は仏教界に大混乱をもたらせたが「御一新」の大変革の中で考える時、天皇神格化の一過程に過ぎなかったともいえよう。

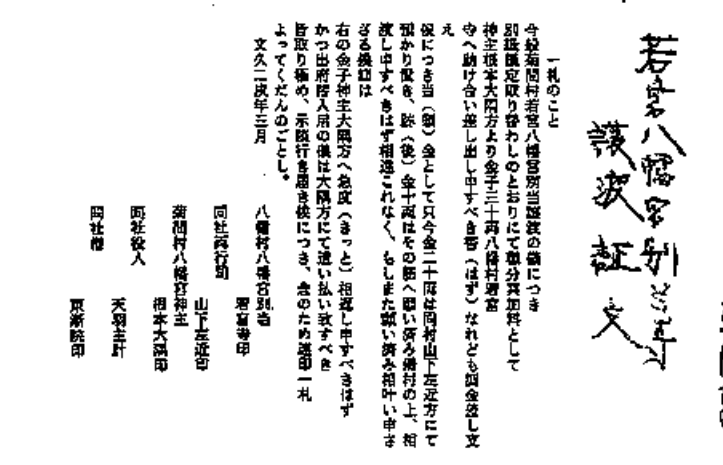
＊江戸時代の寺優位寺社行政はここに終焉した

⑧この時住職の多くが復飾して神主に転じたが、この人のように職を捨て、無言の抵抗を試みた僧侶も数多かったに違いない。　以上


寛政七年　本末帳



一札之事


若宮八幡宮別当寺議定証文

「神仏混淆ヲ、別当寺廃止」の「新政府諸達」

御触達の写し

このたび御一新につき、石清水、宇佐、箱崎等、八幡大菩薩の称号止めさせられ、八幡大神と称し奉り候よう仰せ出され候こと。
ただし、
勅祭の神社、伺いの上相改め申すべきこと。
勅額等これある向きはこれまた伺い出、その上にて御沙汰あるべく候、その余の社は殿判、鎮台、領主、支配等へ申し出べく候こと。
仏像をもって神体と致し候神社、已（以）来申し（出ヤ）べく候こと。
付けたり
本地仏などと唱え、仏像を神前に懸け、あるいは鰐口（わにぐち）、梵鐘（ぼんしょう）、仏具等の類差し置き候分は
早々致り除き申すべきこと。
今般
王政復古、旧弊御一洗あらせられ候につき、諸国神社において僧形にて別当あるいは社僧などと相唱え候輩は、復飾仰せ出され候あいだ、復飾の儀、余儀なく差し支えの分は申し出べく候。
この段相心得べく候こと。
ただし、
別当、社僧の輩復飾の上はこれまでの僧位、僧官返上はもちろんに候、官位の儀は追って沙汰あらせらるべく候あいだ、当今のところ衣服は浄衣にて勤仕いたすべく候こと。
右のとおり相心得、復飾いたし候わば当局へ届け出申すべきものなり。

辰三月　神祇事務局

今般
諸国大小の神社において、神仏混淆（こんこう）の儀は御廃止に相成り、別当、社僧の輩（やから）は還俗の上神主、社人等の称号に転じ、神道において勤仕致すべく候、若（もし）また拠（よんどころ）なく差し支えこれあり、仏教
信仰にて還俗の儀止むをえざる輩は神勤相止め立ち退き申すべきこと
ただし還俗の者、僧官返上はもちろんに候、官位の儀は追って沙汰これあるあいだ、当分のところ、風折烏帽子、浄衣、白差貫着用勤め致すべく候こと。
これまで神職相勤めおり候席順の儀はそれぞれ伺い出申すべきこと。

閏四月　太政官

一王政御一新については、宮廟、諸侯ならびに神社寺院等領地高の儀御改め仰せ出られ候あいだ、これまで旧幕府より請対の料物、急々御用これあるあいだ同国事務局へ差し出し候よう仰せ出られ候こと。

閏四月　神祇事務局

別紙のとおり神祇道の遵し向き等諸々触頭等未だ取り極めざる事につき、
神職の者、家内に至るまで神葬祭に相改め申すべきこと。
今般、別当、社僧還俗の上は神職に立ち交わり候節も神勤頂席等、まずこれまでのとうり相心得申すべきこと。

閏四月　神祇事務局
諸国神職へ

諸寺、諸山住寺職の儀、これまで朝廷へ願い出候向きはもちろん、その地（他方）旧幕府において許状を請け来たり候諸寺においても、向後太政官代へ願い出べく候こと。
諸末寺住職の儀は本山より伺いの上、本山より申し付けべく候こと。この外寺院触れ数か条これを略す。

福寺院

寺請一札のこと

一今般拙僧儀、別紙をもって申し上げ候とおり拠（よんどころ）無き次第につき
福寿院寺務留守居に相成り候につき東漸院
寺請げ仕り候、よりては書き上げ候外賀掛、借財等
一切ござなく候。後日のため寺請げ一札、よってくだんのごとし。

明治元辰年十一月

若宮
東漸院有光印

根本大隅様

寺請げ一札のこと

一今般拙僧儀、別紙をもって申し上げ候とおり拠（よんどころ）無き次第につき東漸院
福寿院寺務留守居に相成り候につき、借財等
寺請げ仕り候、よりては書き上げ候外賀掛、
一切ござなく候。後日のため寺請げ一札、よってくだんのごとし。

明治元辰年十一月

若宮
東漸院印

根本大隅様
御社役中

書付をもって願い申し上げ候

今般王制復古旧弊御一洗あらせられ候につき、諸国神社において寺院僧形の儀は復飾仰せ出され候旨、謹承奉り候加儀には候えども拙僧儀、生得（しょうとく）逆上の病いにて復飾の儀やむをえざる
口（儀カ）と当惑仕り候、よりてはこれまで永住まかりあり、今さら右よう成る儀申し出て候段
本位を失い候儀には候えども拠（よんどころ）無く他寺へ転住仕りたく存じ候、よりては先般
差し疑（もつれ）につき、在府入用等多分相掛かり借財（財）未済方相成りかね、ほとんど
難渋まかりあり候、ついては拙寺田徳米はもちろん、兼帯得世
読田徳米
申し受け、右借財皆返済相成り候よう、希（こいねがい）奉り
たく存じ候あいだ、なにとぞ格別の
御慈愛をもって右前願の始末御賢察の上御聞き届け相成り
拙僧速やかに転住相成り候わばありがたき仕合（幸せ）に存じ
奉り候。恐惶謹言（きょうこうきんげん）。

明治元辰年十一月

若宮
東漸院印

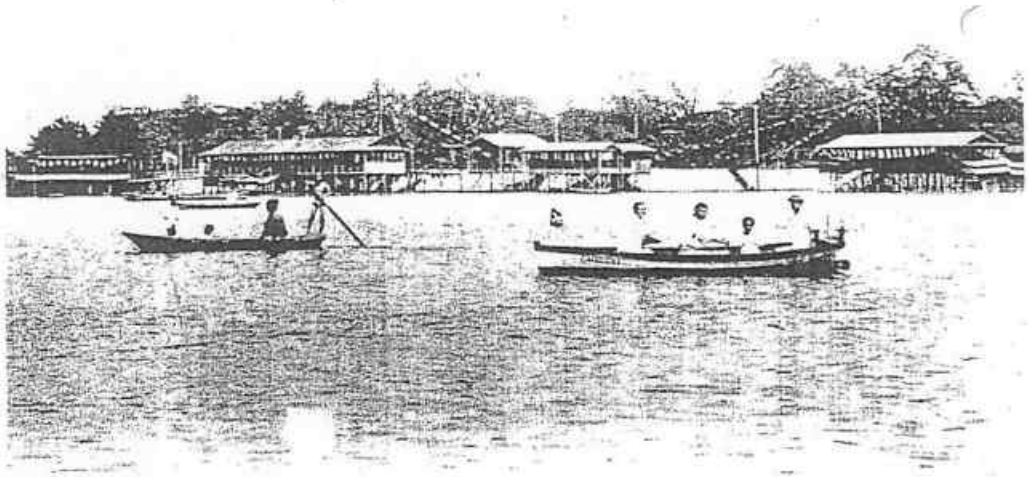
根本大隅様
御社役中

福寿八幡宮別当寺の廃止

やわた名所百選

八幡史学館名所１００選チーム会報＊パブリシティニュース

第１号＝平成２２年５月



やわたむかし写真館＝昭和はじめの八幡海岸

満潮の海から八幡海岸と飯香岡八幡宮の森を遠望＝昭和はじめころ

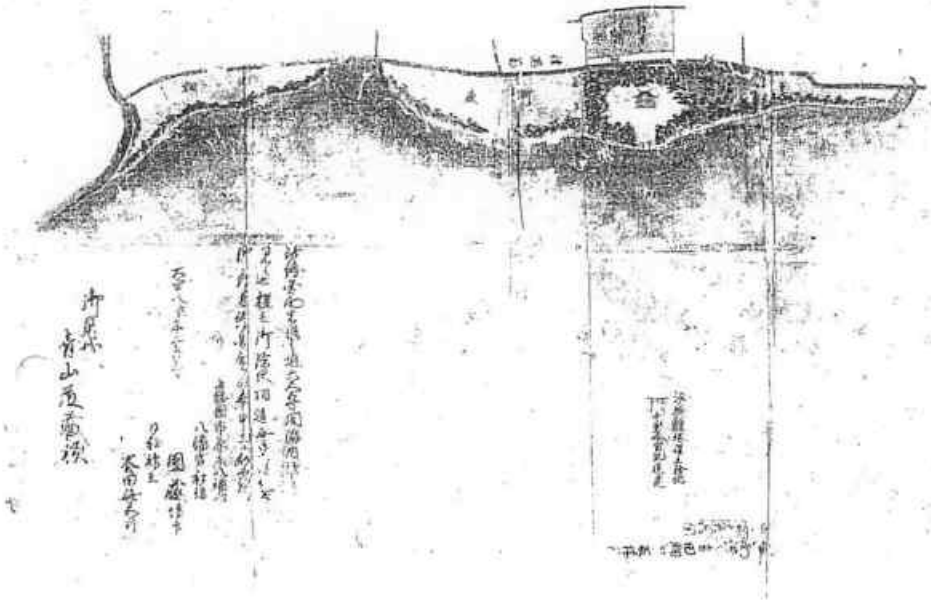
埋め立て造成前の八幡海岸は波静か、干潮時は海面4㎞ほどが砂浜で、満潮時は八幡運動公園の岸壁まで波が押し寄せた。八幡海岸は大正、昭和戦前、戦後期を通じ、潮干狩りや海水浴、簾立て遊びなど海の町として賑わった。海面をレジャーボートが走り、手こぎ櫓やのり取り舟がゆく、後方運動公園の岸壁の「海の家」は八幡の夏の風物詩であった。

写真の地はいま工業地帯で面影はない。かつての海岸岸壁がわずかに当時を忍ばせている。

（八幡海岸跡）

写真に歴史あり ―― 「やわたむかし写真館」を八幡公民館１階ロビーで展示しています

絵図にみる八幡の歴史　①天正１８年「飯香岡八幡宮書き上げ絵図」



現存する八幡最古の絵図。天正18年豊臣秀吉の小田原攻略と徳川家康江戸打ち入りにかかわる八幡宮文書の1枚。家康を先鋒とする秀吉軍は北条氏政、氏直が籠城する小田原城を完全包囲し、一方で木村重高、浅野長政らが武蔵、下総に進攻した。市原の諸城は北条方として小田原に集結したので戦闘体制がとれず、無抵抗のまま降伏している。絵図裏書きによれば3月小田原の家康陣中にこの絵図面を差し出したとする。南北に伸びる往還筋に沿って町並みが連なる。八幡宮正面鳥居までが海、町屋が切れる雁田川や新田川ではバス通り旧道まで潮が押し寄せていたこともわかる。発展途上の中世の町並みがみてとれる貴重な絵図といえる。

飯香岡八幡宮文書１３７

あ・と・が・き

八幡に「名所」を作ろう ―― 八幡公民館の主催事業「八幡史学館」受講者の有志11人で始まった活動が3年目に入りました。まだまだ道のりは遠いが、一人でも多くの方々に応援していただきたい、そんな願いを込めてPRを兼ねた「会報」第1号を編集しました。八幡は歴史の町です。私たちは先人たちが残した豊かな歴史文化を大切に育んで行きたいと考えています。ご支援をお願いいたします。

１００選チームメンバー＝青木くに、朝倉久江、石井　勇、北島勝代、小出愈治、佐倉東雄、高沢　毅、多村勝彦、山岸弘明、山越恒吉、鷲津寛子（あいうえお順）

八幡史学館名所１００選チーム＝事務局・市原市八幡北町２－12－12－501 山岸弘明

協力＝八幡公民館、飯香岡八幡宮、市原の古文書研究会、八幡の石造物研究会

歴史の町・市原市八幡地区（旧市原町）の「名所」を選ぼう――
「やわた名所百選」は八幡公民館のホームグランドである八幡地区の名所を選定し、その歴史文化を一般の人たちに広げようというものです。「ガイドマップ」や「散策コース」を足掛かりに、「案内表示」などにも結び付けていきたいと考えています。以下その要旨とチームの活動状況を紹介します。

歴史の町＝八幡地区（旧市原町）の名所を選ぼう

市原市立八幡公民館のホームグランドである旧市原町は昭和30年の八幡町、菊間村、31年市原町大部分との合併で誕生した昔の行政名で、昭和38年五井町と合併して市原市になった。

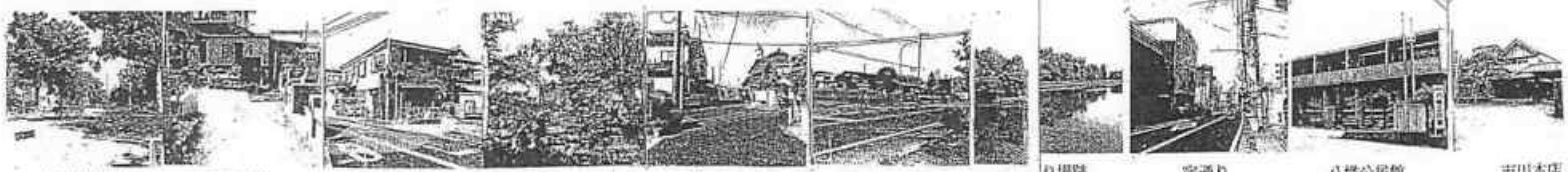
市原の地名起源には「いちい」の木、広い原などの諸説がある。古くは市原郷、市原郡、現在の市名もこの市原に由来し、市原に置かれた「上総国府所在地」とする考えも有力だ。

菊間は古代「菊麻国造（くくまのくにのみやつこ）」の本拠で「菊間古墳群」が現存し、明治維新のころ沼津から水野5万石が転封して菊間藩を称した。

また八幡も飯香岡八幡宮に由来し、江戸時代、上総の玄関口、水陸交通の要衝として栄えた。それぞれに時代こそ違え、上総や市原の中心地としての豊かな歴史文化を継承しているといえる。

「八幡名所百選」はJR八幡宿駅と地域文化の中心地八幡公民館を「扇の要」に町の歴史を100の名所にまとめる。1昨年、八幡公民館の主催事業「八幡史学館」参加者11名が「100選チーム」を立ち上げ、以後毎月1、2回のペースで現地調査や選考会議を重ねてきた。

今般、別掲のような「ガイドマップ八幡宿地区」の見本版も出来上がった。今は試作だが、微調整をへて最終版に、一目でわかる手作りの名所案内をめざす。八幡宿地区では、これまでの選考会議で決まった飯香岡八幡宮、村田川の渡し場、浜本のみお、倉町の町並み、宿通り、八幡海岸跡など44か所が入っている。完成はまだ先だが、マップ図のほか散策モデルコースやボランティアガイド、案内標識などを検討している。「百選」の選定には地区みなさんのバックアップが欠かせません。ご協力をお願い致します。



徳川家康も帰依した八幡さま，五大力船が出入りした八幡浦，大名行列が進んだ宿通り

八幡名所１００選　①八幡宿

やわた名所百選

①八幡宿地区　ガイドマップインYAWATAJUKU

それぞれの地域には，少なからずその地域の歩みがあります．その歩みが有形無形を問わず，急ぐように変化しています．
市原市八幡地区においても同様です．漁業権を放棄したのが昭和３２年の秋のことですから，もう５０年が経ちました．
それ以来急速に町が変わりはじめました．農業も漁業も工場の操業とともに終わりを告げました．当然生活も変わりました．昔からの蔵や家ののいくつかは現存していますが，家のほとんどが立て替えられました．庚申塔などは顧みられなくなりました．
それらの現状を踏まえ，かつての八幡および周辺地域の歩みをたどるべく多くの中から百か所を選んでみました．<ガイドブック>と言ってもよいでしょう．箇所箇所の説明も短いながら付け，何枚かの写真も添えました．参考になると思います．
ＪＲ八幡宿駅から歩いてます飯香岡八幡宮でしょう．境内には見るべきものが沢山あります．百選を１日で巡ることは無理ですが，この百選の案内を手に持ち，天気のよい日を選んで数回に分け，ゆっくりと歩かれたら

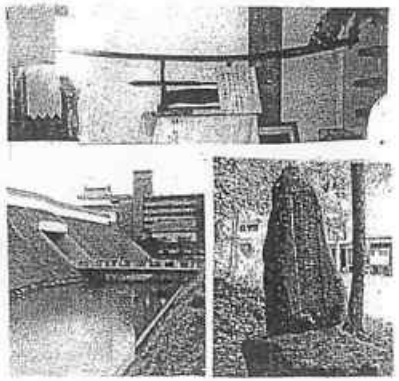
④

栄光の座から挫折へ

家康謀臣親子――→吊り天井事件廃絶

慶長ころの八幡領主は本多正信、正純父子と永井直勝の3人。いずれも家康や秀忠側近として活躍した。その1人正純波瀾の生涯は？

幽閉の地・横手で
無念の最後を遂げた元八幡領主
本多正純



寄進大太刀と宇都宮城、正純の墓

歴史好きの人なら江戸幕府創設期、徳川家康の側近として活躍した本多正純（まさずみ）をご存じの方も多いだろう。慶長19年（1614）、金地院崇伝と「方広寺鐘銘事件」を画策、「大坂冬の陣」で大坂城惣堀を埋め、「夏の陣」で豊臣家の息の根を止めた。家康の死後、宇都宮15万石に栄進、引き続き秀忠の首座老中として敏腕を振るったがほかの幕閣たちとの折り合いが悪く失脚、巷間これを「宇都宮吊り天井事件」とする。横手に配流、寛永14年73才で没した。

飯香岡八幡宮の宝蔵庫に、市指定文化財の「徳川家康銘大太刀」が展示されている。全長163㎝、銘に「大納言源家康、武運長久、特は今度唐入り、早速凱陣、丹誠の旨趣よってくだんのごとし、上総国市原郡八幡宮寄進奉るものなり、天正二十年壬辰八月十八日、使者、本多彌八郎正綱」を刻む。

飯香岡社に大太刀を奉納

県史や市史は原文のまま記載し、『いちはら文化財ガイド』は正綱を正信とするが正しくは正信の長男正純。永禄8年（1565）誕生、17才のとき徳川家康の小姓となった。天正18年（1590）小田原攻略に従い、大太刀は天正20年（文禄元年）、大陸制覇の野望に燃えた豊臣秀吉の朝鮮侵略で出陣する家康の武運長久を所領の源氏氏神である飯香岡八幡宮に祈願したもの。正純も当然家康に従軍したとみられる。銘文の「唐」は朝鮮の古称、家康は半島に出兵することなく前線基地の肥前名護屋城にあって、泥沼化する「文禄の役」の推移を見守っている。

正綱を正純とする根拠は『寛政重修諸家譜』にある。本多家は代々彌八郎を名乗る。正純も天正11年、父佐渡守正信の彌八郎を引き継ぎ、慶長6年従五位下上野介、小山など3万石を得ている。飯香岡八幡宮には江戸はじめのころ、正純が八幡を所領とした文書類がある。慶長18年正純にあてた「境内宗（総）間（検）地書き上げ」、また慶長19年の「蔵屋敷貸し地、運送みお地拝借証文」には当時の八幡領主を本多佐渡守（正信）、本多上野介、永井信濃守（老中格直勝）の3人を明記している。正純が八幡周辺を所領した時期は旗本から小山3万石時代の天正20年ころから元和はじめといえよう。

秋田県横手市、市街地から続く丘陵地の中ほどに正純の墓が寂しげに佇んでいる。栄光の座から挫折へ、幽閉の地で非業の最後を遂げた本多正純の無念の思いが忍ばれる。辞世句の一首が伝わる。

日だまりを　恋しと思ううめもどき
日陰の赤を見る人もなく（合掌）

⑤

八幡の郷土史を学ぶ
「八幡史学館」日程

ことしの八幡公民館主催事業「八幡史学館」スケジュールは次の通りです。テーマは八幡の郷土史を学ぶ――人気講座で毎年キャンセル待ちが出ます。受け付け当日早めに申し込みください。

八幡公民館主催事業「八幡史学館」4回シリーズ（対象＝一般成人40人）

①6月8日（火）9時30分～11時30分
古文書にみる八幡の歴史発見

②7月27日（火）9時30分～11時30分
やわた名所百選、菊間城②のことなど

③9月14日（火）9時30分～11時30分
八幡宮柳楯神事と巡行
八幡と五大力船（ゲスト佐倉東雄）

④11月9日（火）9時30分～16時
公民館＝現地巡検＝市原と柳楯神事の道を歩く

申し込みは5月18日八幡公民館窓口または電話41－1984

辰巳公民館主催事業「江戸東京歴史散策」2回シリーズ（対象＝一般成人40人）

①6月25日（金）9時30分～11時30分
②6月29日（火）バス研修
江戸城と大名庭園、小石川後楽園

申し込みは5月18日辰巳公民館窓口または電話74－8521

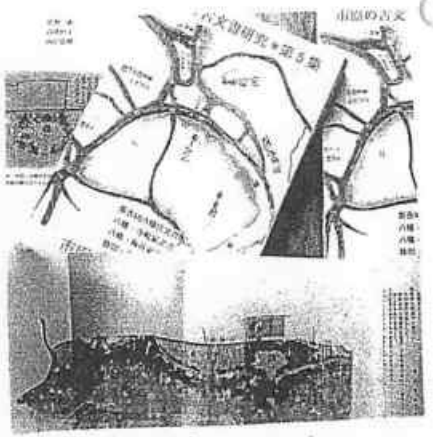
（担当講師・山岸弘明＝講座内容を変更することがあります）

昨年の八幡史学館

市原の古文書研究第5集

姉妹グループの「市原の古文書研究会」がこのほど、『市原の古文書研究・第5集』を刊行した。B5版302ページ。平成15年に創刊、第5集の今集は、飯香岡八幡宮、八幡寺鳩家（寺島医院）、八幡梅谷家、勝間深山家の保存文書100点余りを収載している。

表紙と巻頭のカラーページに八幡宮の天正18年八幡図、寛文9年周辺図などを紹介、本文は上段に原文、下段に読み下し解読文を対比し、文書ごとに考察を付している。郷土史料としての見どころは明治維新旧幕義軍による混乱を伝える往復書簡、房総知県事本陣関連資料などがある。中央図書館、八幡図書室などに寄贈される。



また、「八幡の石造物研究会」も、八幡地区に所在する石造物の悉皆調査の記録集『八幡の石造物研究』の編纂作業を進めている。

飯香岡八幡宮、無量寺、満徳寺など八幡と五所に点在するおよそ1000点の石造物を網羅する。ともに八幡の歴史にとって貴重な研究資料といえる。

八幡の歴史文化をみんなに親しんでもらいたい

五所・小出惣治さんにインタビュー

自宅で盆栽作りを楽しむ小出さん

インタビューした人＊鷲津寛子

八幡から海が無くなって久しい。工業都市に生まれ変わったかつての「海の町」にいまはもう潮の香りすらただようことはない。

むかし海があったころの八幡、五所はどんな町だったのだろうか、「100選チーム」会長で町の歴史に詳しい小出惣治さんに戦時下こどものころの思い出や暮らし、戦後の町起こしや海岸埋め立てなどを聞いた。

♡きょうは小出さんが若かったころの八幡や五所のお話しを伺いたいと思います。お生まれは？

昭和8年五所生まれの76才です。気持ちはいつも若いつもりなんですが、近ごろはどうもね。もうそんな年なのかと思うとちょっぴり寂しいね。（笑い）

♡8年というと昭和恐慌のころ？

前年に「5・15事件」があって9年には「日華事変」が始まる。日本が徐々に戦争に引き込まれていく。そんな時代でしたね。

のりとアサリが唯一の現金収入だった

♡こどものころの八幡や五所の様子はどんなでしたか

町の大半は半農半漁、うちもそうだったがみんな小作でね、たんぼは借り物で半分は年貢と税金で取られてしまう。亡くなった父はよく「いくら働いても少しも暮らしは良くならない」ってこぼしてたね。のり採りとアサリ取りが唯一の現金収入、生活は海が中心、潮に合わせて海に出て合い間に農業をやる。家はトタン屋根で8畳と6畳、それに台所とトイレ、土間。いまも17まで育った家が旧道を少し入った所に昔のまま残っているんだけど、前を通るたびにこどものころを思い出すね。

竹ヤリで米軍をやっつけるんだ

♡小学校は八幡ですね

戦時下、八幡尋常小学校と高等科といってね。いまの八幡宿駅前にあった。毎朝、上級生が引率して10人くらいずつまとまって学校へ行く。教科書は「サイタサイタ、サクラガサイタ」、音楽も国語も「ヨカレン」とか「爆弾三勇士」、外地で戦ってる兵隊さんの話ばっかりで剣道や竹ヤリ訓練もあった。「エイ、ヤー」ってやるんだけど、米軍が攻めてきたらやっつけるんだ、みんな本気で考えてたんだから恐ろしい時代だったね。

♡戦時中のこどもたちの遊びは？

どの家も貧しいからまず親の手伝い。朝「縄ない」や「のりす」作りをやってから学校へ行く。帰ってもじっさん、ばっさんのモミの片付けが待っていた。

♡遊ぶヒマがない？

手伝いのない日もある。こんな時は仲間と外で遊んだね。夏は海。いまは埋め立てられてしまったけど当時は八幡様のすぐ前までが海水浴場、潮が引いてる時はボートピアの「ショバ（製塩場）」の水門の池がプール代わり。水門から飛び込んだこともう遠い思い出だね。帰りは北川の所にあった「フーカシ」の工場へ

行く。

♡なんですか？

剝き身のあさりをふかす工場があった。みんな「フーカシ、フーカシ」って言ってた。こんこんとわき出る井戸があって風呂みたいにドブンと漬かって帰る。

♡夏以外は八幡様？

学校帰りは八幡様で、帰ってからは近くの神明様だね。木登りやチャンバラ、メンコ、ベイゴマが多かったね。遊び道具はみんな手作り、竹を切ってツリざおを作ったり、木刀を削り、パチンコや水鉄砲なんかも自分たちで作った。

空襲警報で防空壕へ飛び込む

♡戦時下の思い出といったら？

出征する兵隊があると先生が生徒をホームの下に連れていく。なにしろ学校のまん前に駅があって校庭みたいだった。「ばんざい、ばんざい」と叫んで小旗を振った。五所からも多くの人が駆り出されたけどそれきりって人もあったね。家内の兄はビルマで戦病死、マラリアだったんだろうね。位牌になって帰ってきた。

♡戦争がいよいよ激しくなる

はじめはB29、その内に九十九里海岸近くまでアメリカの大艦隊が来て艦載機のP51が超低空を飛んでくるようになった。ヤックの向かい側に探照灯陣地が作られて高射砲が設置された。みんな期待したけど最後まで1発も打たなかったね。

♡八幡に爆撃はなかったのですか？

昭和20年3月10日の東京大空襲は空が真っ赤になった。見ているだけでもそりゃー怖かったね。千葉も空襲で焼けたけどここは幸いにも大きな被害はなかった。南町で舟の手入れをしていた人が掃射されて亡くなった。P51は動く物を見つけると急降下してくる。パイロットが見えるくらいまで降りてきてパッパッと機関銃を打つ。弾が砂煙りを上げて追っ掛けるんだから浜にいたらたまんないよ。

♡学校は大丈夫でしたか

授業中にも「空襲警報」のサイレンが鳴る。みんな一斉に校庭に飛び出て防空壕に飛び込んで伏せる。もう生きた心地はしない。終戦の年は授業にもなにもならなかったね。

♡終戦の詔勅は？

昭和20年の8月は高等科の1年で12だった。正午にラジオで重大発表があるというので家中正座して聞いた。最初意味が判らなかったけど、アナウンサーの説明で終戦だとわかった。やれやれこれで戦争が終わったって内心ホッとしたね。

兵舎を解体して中学校を建てた

♡戦後、八幡の民主化運動が始まる訳ですね

先頭にたったのが民選初代八幡町長の菅野儀作さんだった。戦後の学制改革で我われ高等科の1年生が旧制2年に進むか、新制の3年生になるか選択することになった。

♡新制中学が誕生した

八幡中学校はできたが校舎がない。取りあえず1年生は小学校の新校舎、2年生は警察署道場と廃校になっていた南総中学校、3年生は商工会の所にあった町役場と青年学校に分散した。なんとか新校

舎を建てようということになって、菅野さんが習志野の旧兵舎を解体してトラックで運んできた。当時八幡様の境内だった八幡幼稚園から公民館周辺の松林を切り開いて工事が始まった。

♡ボランテイアと聞いていますが町長が先頭に立って町の人たちがみんな手伝った。学校は始まったといっても授業はない。毎日古くぎを延ばしたり工事の雑用を手伝って、卒業式は工事中の新校舎でやった。まだ残材があるというので公民館も建てることになった。当時の人たちはみんなで「八幡の町を作ろう」って張り切っていたんだ。

♡昭和32年に漁業権を放棄して八幡海岸の埋め立てを認めるわけですが、反対はなかったのですか

先祖からの海を無くしてはいけない、最初はみんな反対だったね。それが賛成に変わったのは菅野さんの「ヌシらは長男だから海の仕事でそこそこ食べていけるかもしれないが、弟やこどもたちをどうするのだ」の一言だったね。

歴史は進化しながら引き継がれる

♡八幡に海はなくなったが…

町は豊かになった。その一方で海や文化など失ったものも大きかった。その後八幡に引っ越してきた人や若い人たちに当時の話をするとみんな驚くね。八幡に海がなくなってもう50年、すっかり昔話になってしまった。

♡いまなぜ「名所百選」なのですか？

八幡は昔、陸と海の要衝として発展した歴史ある町だ。町の歴史をもっとみんなに親しんでもらいたいというのが趣旨。かつて遠浅で波静か、運動公園の岸壁までが海だった。先祖たちはこの海の幸を守り、のりや貝を採って生活していた。潮干狩りや海水浴場として賑わった時代もあった。町の歴史は進化しながら脈々と引き継がれているんです。

♡八幡は歴史の町でもある？

そうです。こうした八幡の歴史文化を大切に守って行きたいと思っています。

♡きょうはどうもありがとうございました。

八幡はかつて俳句の盛んな所であった。戦後も少しのあいだは詠む人も多かったが、今ではあまり聞かない。飯香岡八幡宮の社務所の前に献句がされている。姉崎で勉強をしている会の人たちの作品である。余分な話だが八幡にとってはいささか寂しい。

飯香岡八幡宮の境内を常日頃散策されている方は、すでに承知されていると思うが幾つかの句碑がある。

お神楽の
拍子に昇る初日かな　一徳

安政2年正月の建立。一徳の句は無量寺の奥つ城（おくつき）にも「のどかさや不二と筑波を庭にみて」があり、他にも刻まれている。一徳は八幡宮の社家を努めていた南町の市川本店の先祖にあたる。

名月や
朝鳴き鳥も起きてゐる　知雪

明治40年8月の建立。知雪は何人かの建立者からして、旧市東村の人と思える。代表者は川上秀真（規矩）。

見渡せば
花たたずむはさくらかな　万葉

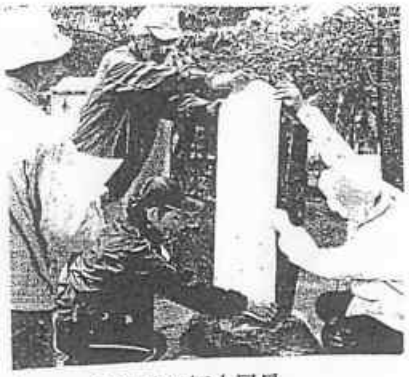
建立の年は刻まれていない。実際は「見王多せハ花イハさく良可那」である。筆は陸軍騎兵大佐従五位勲三等功五級、山本米太郎。鵜（せん）は地元八幡の安藤硯年。飯香岡八幡宮の碑の大凡（おおよそ）は、安藤硯年の鵜に拠（よ）るものだが、市原市内にも数多く見ることができる。

息災で
春の美空やはつ鴉　天名地鎮庵

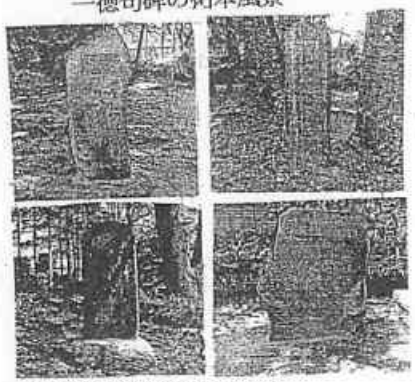
天名地鎮庵は、八幡が生んだ教育者川上規矩（南洞）の号である。この句碑と並

八幡と俳句文化

佐倉東雄



一徳句碑の拓本風景



飯香岡八幡宮境内にある
上段＝知雪句碑、万葉句碑
下段＝天名地鎮庵句碑、林文暁伝碑

んで南洞の銅像も建立されている。

私は俳句をよく知らないので、いずれの句も注釈することができない。皆さんは皆さんで大意を読み取り、書体の素晴らしさなども鑑賞されたらよろしいかと思う。歌碑を含めて。

南洞先生の銅像の前の道を挟んで「林文暁（ぶんぎょう）伝碑」がある。安政2年、子弟達が建立したものであるが、表に先生の事蹟、裏には子弟の俳句や和歌が数多く刻まれている。

私の祖父（父方）も俳句をやっており、飯香岡八幡宮の宝物殿にその作品のあることを最近知った。祖父は今は片倉歯科医院になっている場所に屋号を丸柏屋といい、川上姓の本家になる家があって、その家で句会が開かれよく行っていた。号を雪窓と言った。

私は、川上家があった時、独りで住んでいたお婆さんを郷土史の一環として訪ねたことがあった。その時、私でこの家も終わりです、よろしかったら差し上げましょう、と言って榎本其角の短冊を出してこられた。私はありがたく頂戴した。真贋のほどは定かでない。

丸柏家は八幡でも古い。先祖の一人は松尾芭蕉の時代に深川に少し住んだという。勿論（もちろん）、芭蕉から俳句を学ぶためであっただろう。

やわた名所百選
菊間藩庁舎跡

菊間藩水野忠敬5万石

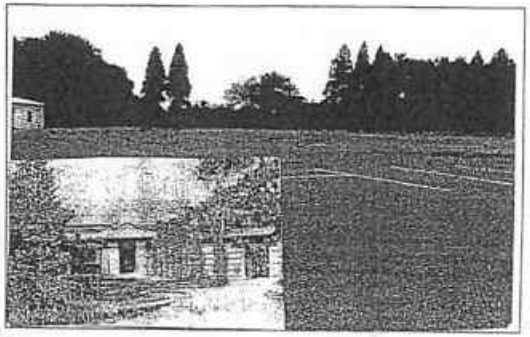
忽然と誕生し、幻のように消えた明治維新の城

水野忠敬と忠亮父子

菊間台地の一画に「菊間城（藩庁）跡」がある。明治維新直後、一寒村であったこの地で突然水野藩5万石の城作りが始まり旧領沼津から移り住んだ藩士家族およそ3千人を中心とした惣構え城下が誕生、しかしはかなく消える運命にあった。

水野家は江戸時代、徳川家康の生母・お大の実家で将軍家の外戚として重きをなした。慶応4年（1868）鳥羽伏見の戦いに敗れた15代将軍慶喜が退陣し、徳川亀之助（家達）に駿府70万石が与えられた。この結果、沼津5万石を所領した水野忠敬（ただのり）の本領駿河国内2万3千石が上地され市原へ転封が命じられたのは年号も明治と改まったこの年7月13日のことであった。

水野家は13代将軍家定の側用人で井伊直弼の側近として活躍した13代忠寛（ただひろ）が桜田門外の変後失脚したので、養子の忠誠（ただのぶ）が継ぐ。しかし、忠誠も慶応2年（1866）14代将軍家茂の老中として従った第2次長州征伐陣中で急死し、再び水野忠明の3男忠敬を養子に迎えることになった。



菊間藩庁舎跡と水野邸古写真

慶応4年明治維新の戦いが始まると沼津藩は尾張藩の指令下に入って恭順し、討幕軍の宿駅取り締まり、人馬継ぎ立て、佐幕急進派の鎮圧などにあたった。市原転封時、養祖父忠寛かぞえ62才、忠敬18歳であった。

7月27日、忠寛と忠敬は沼津城引き渡しのためいったん伊豆の戸田村に移り、8月市原へ拝領地受け取り方兼境界測量方、総普請方、屋敷割り測量方などを派遣、房総知県事柴山文平から市原の所領を引き継いだ。新城縄張り総指揮官として忠寛が船で八幡港に到着したのは9月27日早朝であった。忠寛は八幡称念寺などを宿陣として城地選定を始める。八幡も候補地の1つであったが菊間台に決定、新政府の経費援助も決まる。村田川から城地に通じる巨大空堀（引き上げ道）や新坂の開道、藩庁舎、忠寛御殿（下屋敷）工事が始まり、築城が本格化するかにみえた。

しかし、時世は大きく変わりつつあった。明治2年2月、江戸にあって推移を見守っていた忠敬は諸藩主とともに「版籍奉還」を願い出、6月菊間藩知事に任命された。しかし若い忠敬の目には新しい時代が見えたのだろう。いったんこれを辞退、慰留されたりもした。

7月26日供揃いを整えて初めての国入り。しばらく若宮神社根本神官宅に居住した後、明治4年2月本丸一画に新築された忠敬邸に移った。それは石垣、水濠を巡らせ櫓を上げ、巨大御殿を連ねた旧領沼津城とは比較できない質素な陣屋造りであった。菊間城（藩庁）の主郭部は字雲の境と呼ばれた台地東側で、空堀と土塁を巡らせ門を築き、土台を回したが明治4年7月「明治維新」となった。

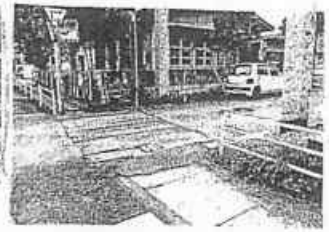
築城工事は中止され藩主家族は江戸を改称した東京に招集された。残された旧藩士の中には能満地区で大規模な開墾事業を始めたグループもあったが成功することはなかった。職を失った旧藩士たちは櫛の目が欠けるように、一人また一人と離散していった。

下屋敷や公廨（くがい＝役所）は明治6年の廃城令で廃棄されたが、工事で集められた木材や瓦はのち千葉県庁に転用された。医局は菊間村役場とされ、藩校「明親館」は初代菊間小学校に、忠敬邸は水野家の別荘として戦後まで利用され、忠敬の子爵家を継いだ忠亮が学友たちとテニスを楽しむ姿がみられたという。

菊間廃城後およそ150年、いま菊間城跡に立つと一面が畑地で所々に民家が建つ。周囲を探しても朽ち果てた「菊間藩庁杭」のほか「史跡看板」1枚見当たることはない。忽然と誕生して幻のように消えた菊間城、歴史のはかなさを感じるのは筆者一人であろうか。（山岸）

土塁一部が現存する

石橋らんかんの残欠



浜本側参道石橋跡

碑（いしぶみ）は語る＝八幡宮浜本側参道石橋らんかん

八幡宮の境外、山祇神社（石尊さま）と商工会前に飯香岡八幡宮の参道入り口を示す石柱が立ち、浜本側に石橋跡と暗渠になった小川が巡っている。八幡宮の古絵図や「由緒本記」はこれを「境内構えの堀」とする。構え堀は城郭用語で、堀、土塁、虎口の3点セットをいう。

天正20年（1692）徳川家康の許可をえた神社が掘割り2間、土上げ場2間と参道を築いた。掘割りは旧道側から八幡第1ホテルで西側に折れ、白金通りから先が海になった。

周辺を詳しく観察すると土塁一部が現存、石橋も半分ほどが残り、社務所前に欄干残欠が恰好のベンチとして利用されている。長さ250㎝の1本は完品で1本は半折、残りは確認できない。

年月をへて銘文の磨耗が激しいが、建造は文化5年（1808）で、両面にびっしりと寄付者、世話人名を刻んでいる。「八幡の石造物研究会」の拓本調査によると、町域は浜本町、観音町、仲町、片町、南町、南新田で、松田喜右衛門、寺嶋庄五郎、蔵持庄五郎、川上平十郎などおよそ50人、総額20両以上にも上っている。八幡村の名主や商家など当時の有力者が名前を連ね、大坂屋、港屋、柏屋、伊勢屋といった屋号の中に現在に引き継がれているお宅もある。碑（いしぶみ）は町の歴史をいまに伝えている。

17

八幡公民館主催事業「八幡史学館」

第２回　講座資料　　平成２２－７－２７

山岸弘明

旧若宮八幡宮神官根本家文書（前回時間切れ分のフォロー）

1）八幡若宮寺が若宮八幡宮の別当職を譲渡 ―― 江戸末期に東漸院が引き継ぐ

①前回、明治維新の「神仏分離令御触達」に抵抗した、若宮（菊間）八幡宮別当・宥実が東漸院を退去したことをお話した。

＊慶応４年３～４月新政府触達＝神仏混淆の禁止、別当寺の廃止、社僧の復飾（還俗）、拒否者への退去命令

＊若宮八幡宮別当寺東漸寺の対応＝復飾を拒否して退去し、福寿院留守居になる

＊飯香岡八幡宮若宮寺の対応＝病死、後継をめぐるトラブルが重なり「廃仏毀釈」で暴力的に破壊された。東漸寺も同時期に廃寺、廃仏毀釈の影響は不明

②平成20年の「八幡史学館③飯香岡八幡宮別当寺、霊応寺と満徳寺」では
八幡若宮寺（霊応寺、満徳寺）が飯香岡八幡宮と若宮八幡宮両社の別当職を兼務したが、若宮は神官家の勢いがつよく名目に止まっていた ―― と説明した。

＊寛政７年（1795）「上総国新義真言宗本末帳」＝若宮寺、満徳寺両寺支配寺
市原郡菊間村　徳性院　御朱印二石二斗社領配分
同所　　東漸院　御朱印四石社領配分（両寺は建前上別当寺に付属した）

③今般、神官根本家の発見文書によれば
江戸後期文久２年（1862）両者は話し合いの上、別当職の権利を30両の協力金で菊間八幡宮方の社僧・東漸院に譲渡されていた。東漸院にとってかねて念願でもあったが文久２年～慶応４年までのわずか６年間に終わる。

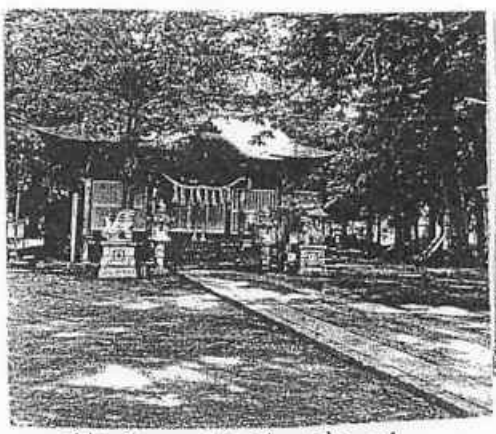
＊別当職譲渡の議定書＝菊間方（若宮）は冥加料として30両を八幡若宮寺へ助金する。頭金20両は只今八幡村方が預かり、後金10両は許可後支払う（別掲参照）

④慶応４年鳥羽伏見の戦いに勝利した新政府は「神仏分離令」を発令、社僧たちの対応は分かれた。神官たちの一部は有髪して神官に転じたが、反発する僧侶の多くは関係先の寺院に退去していった。

＊宥実寺上げ一札（要旨）＝復飾を命じられたが、生来、逆上（かっとなりやすい）の病気がありやむをえず立ち退き、福寿院の留守居を勤めることにしたい

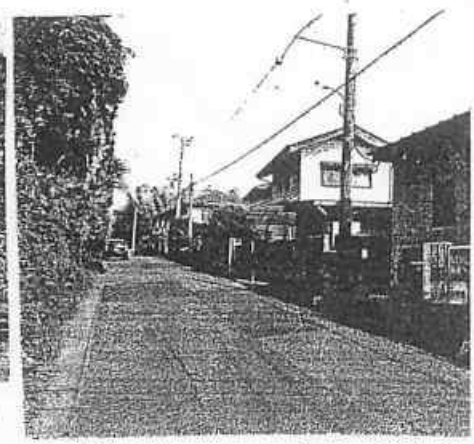
＊徳性院は八幡宮の南隣、東漸院も隣接したとみられるが詳しい旧地は不詳

＊福寿院は現存（無住）。元若宮寺の末寺で、新義真言宗（現在豊山派）、「菊間のお地蔵さま」として親しまれている



若宮八幡宮境内

旧神官根本家（取こわし前）



東漸院はこのあたりか

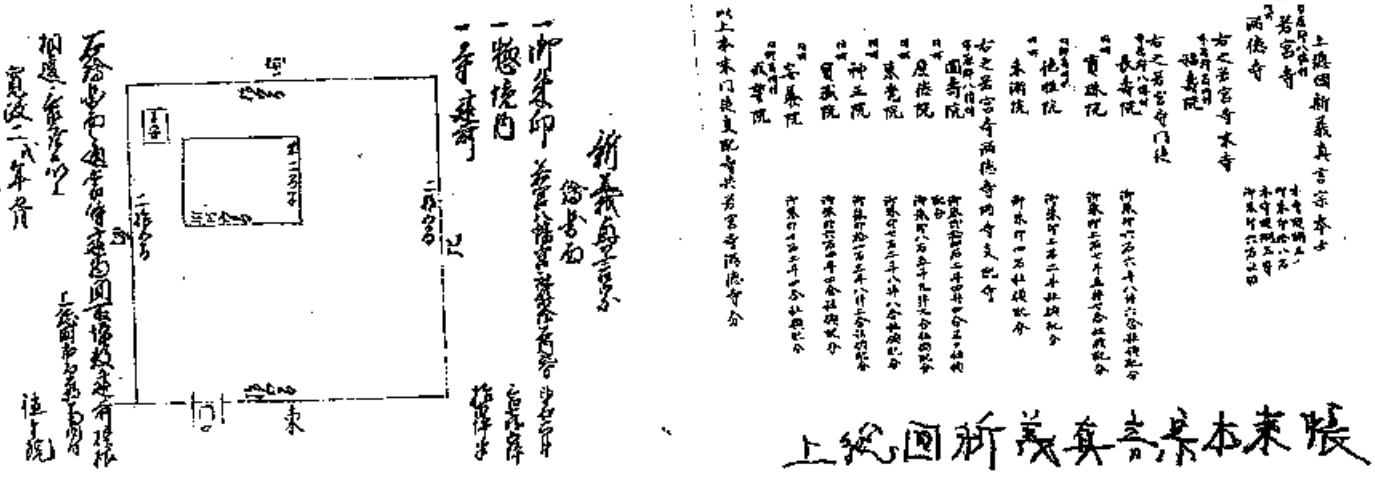
別当職譲渡証文

一札のこと

今般菊間村若宮八幡宮別当職譲渡の儀につき別紙識定取り替わしのとおりにて職分冥加料として神主根本大隅方より金子三十両八幡村若宮寺へ助け合い差し出し申すべき筈（はず）なれども調金差し支えの候につき当（頭）金として只今金二十両は同村山下左近方にて預かり置き、跡（後）金十両はその筋へ願い済み帰村の上、相渡し申すべきはず相違これなく、もしまた願い済み相叶い申さざる候節は右の金子神主大隅方へ急度（きっと）相返し申すべきはずかつ出府諸入用の儀は大隅方にて遣い払い致すべき旨取り極め、示談行き届き候につき、念のため連印一札よってくだんのごとし。

文久二戌年三月

八幡村八幡宮別当　若宮寺印
同社両行司　山下左近印
菊間村八幡宮神主　根本大隅印
同社役人　天羽主計
同社僧　東漸院印



「人身売買」が指摘された ――「古文書研究第５集」の思わぬ反響

1）梅谷家文書「身売り奉公人書付」

先般発行の「市原の古文書研究第５集」を読まれた船橋市の「市史」元担当者から「人身売買」にかかわる書付ではないか、との指摘をいただいた。

＊本書では単に女の奉公人としていた。後刷版（追加作成中）で修正したい。

2）人売買一円停止と年季奉公 ―― 日本の人身売買の歴史

①人身売買の起源は遠くさかのぼり、７世紀後期の「日本書記」に売買を禁止したことが記録されている。「律令時代」人身売買に関する法整備も進められたが、以後も「相伝の下人」と呼ばれた奴隷的身分の者の売買は一般に行われた。

＊平安末から室町時代にかけて「人商い」が横行した
戦国時代はほぼ自由に人身売買が行われていた

②戦国乱世の後期、「天下一統」を進めた豊臣秀吉が禁止。
農民対策の一環、目的は百姓が土地から離散することを防ぐことにあった。

③徳川幕府も秀吉の人売買政策を継承し、「永代売買禁止令」を徹底する。
この結果、身分としての奉公契約から有期限の雇用契約へと変化する。

＊期限ははじめ３年であったが寛永２年以降10年と変わる

3）一家の窮乏を救うため、親が金を借りて娘を売る ―― 身売り奉公人請け状

①江戸時代人身売買は禁止されたが、遊女や飯盛女などの世界にだけ残った。

＊飯盛女（道中旅籠屋飯売り女）＝旅籠の食事などを世話する人

②当時、親や家族の危機を救うため身を売る娘の行為は美談とされた。
その基盤は領主の過酷な収奪のもと、疲弊した農村にあった。

＊供給先は主に越後、越中、東北などが多いとされる

③年貢は絶対、滞納は許されない。現存する借金証文や質地証文、奉公人請け状に「御年貢上納に差し詰まり」が常套語として並ぶ。

④下女より「売女」として奉公に出した方が多額の現金を手にすることができた。

＊下女は１／10程度、引き取りに元金必要の場合も（金利分を働かされる）

⑤身売り奉公人の給金。親元の手取り

＊10年季身売り奉公人の場合（元禄16年＝島原の例）２割は諸経費に
給金＝30両（手取り23両）
諸経費＝肝入り３両、請け人１両２分、旦那寺２分、目見え着物借り賃、かご代、酒肴代、雪駄その他、合計７両

＊３年季の場合（文久２年＝長崎の例）５両

＊一生不通養子娘（養子名目での身売り）の場合（安政６年＝大坂の例）７０両

⑥「要用録」にみる「奉公人請け状」ひな形

＊全国的に類似した形式、内容がみられる

⑦苦界＝悲惨な生活、くら替え（転売）、投げ込み寺

⑧梅谷家と本書のかかわりは不明、接点はない。

⑨書状要旨＝きょう伺うつもりであったが所用のため使いの者に証文を持たせる。
証文は後出７人の「身売り奉公人請け状」のこと。手慣れた仕事運びはプロの口入れグループを窺わせる。

4）八幡某家文書「短期人請け状」

①年貢不足１両２分支払いのため実子を奉公人として差し出す。

＊寛政９年の年貢を払えず、１年間の給金を前借してあてる

②あて先、人主（父親＝名前部分を消去）請人＝証人（当然謝礼要す）

③月に15日働き、残りは自宅で百姓。
もし逃げたり、長病など、万一の場合も請人が責任をもって対処し、貴殿へ迷惑をおかけしません。
④宗門は無量寺旦那。法度の厳守。
⑤気に入れば引き続き奉公させたい。

5）借用証文、質地証文（参考資料）

身売り奉公人にかかる書付

鳥渡（ちょっと）申し上げ候、まずもって皆々様方
お揃いご機嫌克（よく）遊ばされ、珍重の
御儀に存じ奉り候、しからば明（昨カ）日は
段々お世話に預かり、ありがたき仕合（幸せ）に存じ奉り候
今日私参るべく筈のところ拠（よんどころ）なき用向きござ候
□□（まずもってカ）願いの儀申し上げ候、右のとおりにて
□□（証文カ）この者にお渡し申し候、右お礼
の儀、貴面の節申し上げ候。以上

拝借人
お菊、お光、お覚、お佳、お啓、お公、お鶴

⑯身売り奉公カ拝借人書付（年号無記、江戸後期か＝中紙）
身売り奉公とみられる拝借人書付、残念ながら差し出し人、あて先、作成年月を欠き、郷土とのかかわりも不明。幕府は人身売買を禁止したが、領主の過酷な収奪下にあった貧困農村部を中心に年季奉公という名目の売女が半ば公然と横行した。文中の証文は「身請け奉公人請け状」のこと。哀しい近世史を垣間みせる貴重な一枚といえる。

解読

相定申世物之事
一 我等身上不如意ニ付、媒誰と申し当年何歳ニ罷成候女子、当何ノ何月ゟ来ル何ノ何月迄、丸年何ヶ年限、給金何拾何両ニ相究メ、則手形之上給金残らず請取申、其元殿遊女奉公ニ差遣し候処実正也、尤も我等得心之上ニ候上ハ、親類、兄弟、云可之夫、古主人抔と申し脇ゟ奉公之違乱妨仕り候もの老人も御座無く候、
一 御公儀様御法度之宗門ニ而もこれ無く、代々何宗ニ紛これ無く、寺手形別ニ取進め候、若し此もの取逃、欠落仕り候ハバ、本人早速尋出し其の品々相弁へ手渡仕、相定之奉公相違無く相勤め申すべく候、勿論此方ゟ中途無躰之暇取り申すまじく候、若し又御勝手ニ合ひ申さず候ハバ、何国何方ニ而も、右問躰之奉公は申すに及ばず、何奉公ニ成りとも御譲替なされ、其の給金多少ニ限らず、残らず其元殿え御引取なさるべく候、私共印形入用の節は異議なく仕るべく候、且又何方の誰人ニよらず、年外来々迄御仕付下さるべく候、出世の儀に御座候ハバ、私共大度に存じ奉り候、万一病死頓死不慮ニ相果候とも、相互ニ申し分これ無く、其元殿ニて然るべき様御取り遣き下さるべく候、跡ニ而御通知下され候とも、一言の御恨毛頭御座なく候、其の外此のものニ付き、如何様の儀出来仕り候とも私共何方迄も罷り出て急度埒明け、其元殿え少しも御難儀相懸ケ申すまじく候、後日の為相請状奉公人請状、仍て件の如し、

年号　月

親　何屋　誰
母　女房　誰
受人　何屋　誰
口入　何屋　誰
奉公人　誰

何屋誰殿

現存ハ形

解説

短期人請け状

人請け状のこと

一当巳御年貢不足につき、この文七と申す者たしかなる者にござ候につき、われら請人にまかり立ち、当巳十二月二十七日より来る午の十二月限り、月々十五日ずつ御奉公致し申すべく候、給金として一両二分たしかに受け取り申し御蔵へ上納仕り候、しかる上は逃げ欠け落ち仕り候わばわれらまかり出で尋ね返し申すべく候、または長病にても仕り候わば、給金なりとも人代なりとも御勝手次第仕るべく候。

一宗旨の儀は代々浄土宗、当村無量寺旦那にまぎれこれなく候。

一御公儀様御法度の儀は申すに及ばず何にても相守らせ申すべく候。

万一この者儀につき、いかようのむずかしき事、出来候とも貴殿へご苦労申すまじく候。

右この文七末々御意に入り候わば「　」御奉公致させ申すべく候、後日のため請け状として、よってくだんのごとし。

寛政九年巳十二月日　　請人　文四郎（印）

人主　〇〇〇〇（印）

〇〇屋〇〇〇殿

文証地券

江戸図にみる水野藩江戸屋敷と菩提寺

1）オリジナル江戸絵図

①文政13年（１８３０）「御江戸絵図」
＊11代将軍家斉代、化政文化最盛期
②嘉永４年（１８５１）「江戸絵図」
＊12代将軍家慶代、ペリー来航の２年前
③安政７年（万延元年＝１８６０）「分間懐宝御江戸絵図」
＊12代将軍家定代、この年３月３日井伊直弼「桜田門外の変」で暗殺される
大河ドラマ「篤姫」、「竜馬伝」は２度目の江戸留学中。明治維新まで８年
④明治２年（１８６９）「官版」、明治維新から版籍奉還、廃藩置県へ

2）水野藩江戸屋敷の変遷

①江戸屋敷＝幕府から拝領した官舎。慶長５年関が原の合戦に先立ち、加賀 前田利長が生母まつを人質として江戸へ差し出し邸地を拝領したことに始まる。
通常上、中、下屋敷の３邸、大藩は添え屋敷、抱え屋敷、町並み屋敷などを私有した。
＊上屋敷＝本邸、藩主、正室の居屋敷で、幕府、諸藩との外交政庁舎
中屋敷＝嫡子の屋敷、上屋敷万一に備えた予備邸
下屋敷＝別荘。前藩主の隠居屋敷、蔵屋敷
＊江戸詰め幹部は敷地内に官舎を、一般藩士は単身赴任で３邸に分散、塀を兼ねた武者窓の長屋に居住した。

沼津、菊間時代の上屋敷変遷

＊８代忠友時代（若年寄、側用人、老中＝寛保２年～享和２年）
宝暦10－４～明和５－11　神田橋外2004坪＝千代田区神田錦町１－㉑日清製粉
明和５－11～寛政４－11　辰の口4447坪＝丸の内１－①ＮＫＫビル
寛政４－11～寛政８－12　三番町3557坪
＊９代忠成時代（若年寄、側用人、老中＝享和２年～天保５年）
寛政８－12～享和３－８　辰の口4447坪＝丸の内１－①ＮＫＫビル（再度）
＊10代忠義時代（天保５年～天保13年）
享和３－８～文化３－10　鍛冶橋3400坪＝丸の内１－⑪ＪＲガード
文化３－10～天保５－４　辰の口4447坪＝丸の内１－①ＮＫＫビル（再度）
天保５－４～安政６－３　外桜田4382坪＝霞が関１－②合同庁舎５
＊11代忠武（天保13年～弘化元年）、12代忠良（弘化元年～安政５年）、
＊13代忠寛時代（側用人＝安政５年～文久２年）
安政６－３～文久２－10　大名小路7080坪＝丸の内１－⑦東京駅の一部
＊14代忠誠時代（側用人、老中＝文久２年～慶応２年）
文久２－10～文久２－12　浜町3662坪＝中央区浜町（詳細未確認）
〃　２－12～〃　３－12　四谷門内3590坪＝千代田区五番町⑧番町小学校
文久３－12～慶応２－？　西久保5814坪＝港区芝公園３－⑧オランダ大使館
＊15代忠敬時代（慶応２年～明治維新）
慶応２－？～慶応３－10　なし
〃　３－10～〃　４年？　本所大川端3400坪＝墨田区横網１－③国技館前
明治はじめ　なし
中屋敷
宝暦10－４～安政６－８　浜町10,747坪＊＝中央区浜町２－①浜町公園の一部
安政５－７～万延元－７　小石川馬場上6000坪＝文京区白山２－㉒住宅地
万延元－７～明治維新　北八丁堀 150坪＝中央区八丁堀
下屋敷
文政５－９～文政５－12　目白台関口1875坪＝文京区関口
〃　５－12～天保９－３　本所中の郷3100坪＝墨田区亀戸１
天保９－３～〃　14－２　本所十間川1100坪＝吾妻橋２－㉓墨田区役所
〃　14－２～万延元－９　芝二本榎3500坪＝品川区高輪２－⑩高級住宅地
万延元－９～明治はじめ　蠣殻町5671坪＝中央区蠣殻町１－⑥交差点商業ビル街
安政６－８～〃　浜町3617坪＊＝浜町２－①住宅地（前出縮小、唱え変え）
明治はじめ　期間不明　名称不詳7790坪＝銀座３－⑪東銀座商業ビル街
仮屋敷（名称不詳）
明治元－７～期間不詳　米沢、三春、二本松上屋敷を暫定拝領
（山岸調べ＝明治はじめはほかにも存在したと考えられる＝番地、現況は代表）

↓明治2年「方世武鑑」

水野出羽守
甲部巳未酉亥六月参府
献　御太刀一腰、鈔紗五巻、
邪　巻物五
金馬代
△上　――　△中　はまち　△下
本所十間目

御紋　――

五萬石、房州■■
江戸ヶ■――

水野和泉守
甲部巳未酉亥六月参府
献　鈔紗廿巻、金馬代
拝　巻物五
△上　外さくらに　△中　青山
△下　北斗はち、丸三回

御紋　――

五萬石、羽前山形
江戸ヶ■■■九十四里■■
上山■■九十二里■

水野肥前守
辰年十二月参府、八月帰国
献　箱　看拝　――
△上　ぢふくはし内　△中　かま
から丁　△下　すがも
（？紋章）　本　多　新　平

御紋　――

一萬五千石、上越■■
江戸ヶ■十六里

水野■■■
子亥寅年申戌六月参府
献　巻物二、銀馬代
拝　巻物五
△上　出羽なんぶ坂　△下　本所
四ツめ
（？紋章）　鳥　居　平　馬

御紋　――

一萬七千石、下総結城
江戸ヶ■小山■十一里、■■■廿里

↑安政年間

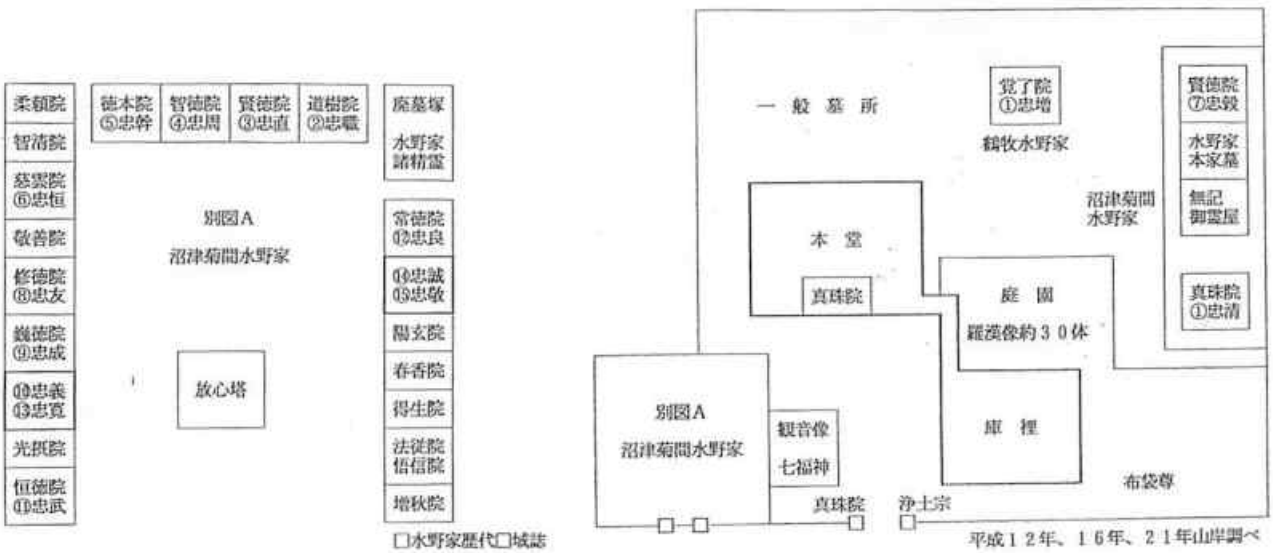
↑明治はじめ

↑明治2年「方世武鑑」（部分）

↑明治2年→安政3年）

江戸屋敷引継ぎ証文

水野家の墓所＝真珠院（浄土宗）文京区小石川３－７



沼津菊間水野家（寛政譜６－55＝54,000石）主要墓碑

①忠清＝真珠院殿前布護署源朝臣廓誉全忠居士（宝篋印塔およそ４ｍ＝正保４年）
②忠職＝道樹院殿信誉上昌玄向大居士（変形位牌型およそ２ｍ＝寛文８年）
③忠直＝賢徳院殿前布護暑大誉直生全提大居士（〃　＝正徳３年）
④忠周＝智徳院殿清誉祐光社光阿大居士（〃　＝享保３年）
⑤忠幹＝徳本院殿従四位下前［　　］、心誉仁光大居士（〃　＝享保８年）
⑥忠恒＝慈雲院殿前布護暑□誉求道謙性大居士（〃　＝元文４年）
⑦忠穀＝水野忠文家墓、賢徳院殿前羽州刺史仁誉慈□端心大居士（宝篋印塔およそ４ｍ＝寛保２年）
⑧忠友＝修徳院殿譲誉興仁□翁大居士、駿州沼津城主従四位侍従前出羽守忠友墓（変形位牌型およそ２ｍ＝享和２年）
⑨忠成、⑯忠亮合祀＝巍徳院殿光誉成栄融鑑大居士、駿州沼津城主従四位侍従前出羽守源忠成公、謙徳院殿仁蓮社寛誉耕州忠亮大居士（〃　＝天保５年、昭和８年）
⑩忠義、⑬忠寛合祀＝共徳院殿寛誉泰安義山大居士、温徳院殿良誉粛恭寛舒大居士（〃＝天保13年、明治７年）
⑪忠武＝恒徳院殿道誉昔然曜武大居士、駿州沼津城主従五位下前羽州刺史源忠武墓（〃　＝天保15年）
⑫忠良＝常徳院殿泰誉安然義道大居士（〃　＝安政５年）
⑭忠誠、同室、⑮忠敬、同室合祀＝□恭院殿勇蓮社照誉輪誠聡哲大居士、英祥院殿端蓮社光誉明慈照大姉、興徳院殿崇蓮社仁誉俊翁忠敬大居士、富岳院殿泰蓮社徳誉仁阿妙鎮大姉、駿州沼津城主従四位下源忠誠公、従三位子爵源忠敬公（〃　＝慶応３年、明治40年）

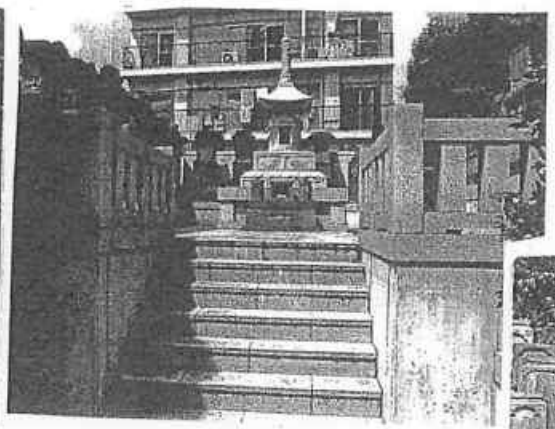
鶴牧水野家（寛政譜６－60＝15,000石）

①忠増、②忠位、③忠定ほか合祀＝覚了院殿前周州太守法誉性蓮大居士（宝篋印塔およそ３ｍ＝元禄７年）

初代忠清の墓

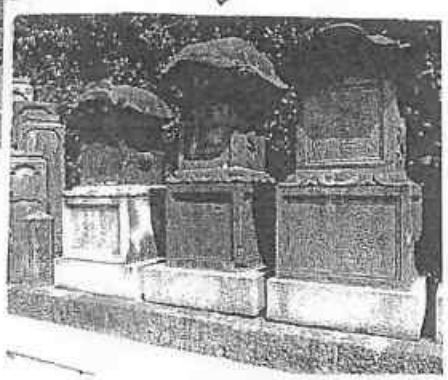
鶴牧水野家

真珠院



水野家墓所

忠敬夫妻の墓



飯香岡八幡宮の絵馬

1）神馬献上からはじまった ―― 絵馬の歴史

①絵馬＝祈願または報謝のため社寺に奉納する絵の額（広辞苑）

②往古、神霊は馬に乗って降臨するものと考えられた。馬は神の乗り物として神聖視され「神馬」が献上された。

③やがて生馬は、土や木、石で作った「馬形」、板を馬形に切り抜いて彩色した「板立て御馬」などに代わった。

④「板絵馬」は奈良時代に登場し、室町時代には図柄も変化し豪華で大型の扁額形式が誕生した。専門の絵師が生まれ、蒔絵や彫り物貼り付け絵などの技法が広がった。

⑤近世はじめ、絵馬の美術品化にともないそれを収容する絵馬堂が成立した。

＊千葉県では成田山の額堂が有名、文久元年建造、国重要文化財

＊明治３年飯香岡社差し出し帳＝神楽殿、絵馬殿２か所再建仕り候ところ、文化度絶破仕り候につき当今再建志願中にござ候（その後の再建はない）

⑥江戸時代後期、文化、文政ころ庶民の間で小絵馬が流行した。安産や商売繁盛、病気平癒などさまざまな画題が社寺に奉納された。

＊おおむね30㎝以上を大絵馬、以下を小絵馬という

⑦現在も入試合格祈願や縁結びなどの絵馬奉納が盛んに行われている。

2）宝蔵庫に３２点の大型絵馬を保管 ―― 飯香岡八幡宮の絵馬調査

①今般、「名所百選チーム」が写真撮影調査を実施した。

保存大絵馬は32点、小絵馬あわせ額１点を確認した。

＊拝殿展示　　１点（拝殿やや左側＝垣間みれる）

宝蔵庫展示　　６点（毎年３月15日に一般公開）

〃　２階収蔵　２５点＋小絵馬あわせ額１点

②２階収蔵品は便宜上下記に分類した

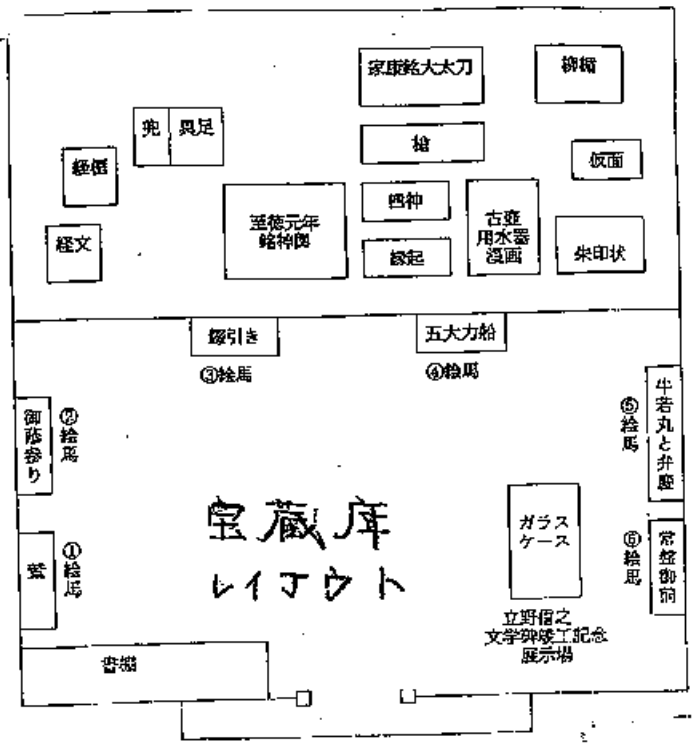
＊八幡海岸や海を画材にしたもの

参詣など各地の風景を画材にしたもの

武者絵や物語、伝承を画材にしたもの

信仰を画材にしたもの

③年代は寛政６年がもっとも古く、江戸時代は11点＋ｘ、明治が大半を占める。



④郷土史的には

＊常設展示品＝

②瀬田の大橋、④五大力船勢揃い、

＊２階収蔵品＝

①八幡神社（境内図）

②、③五大力船と蒸気船、④難船、⑤瀬田の大橋、⑩今戸、⑱三国志、㉒親子礼拝、㉕元帥と捧げ銃など資料的価値が高い作品が多い。

⑤本殿復元工事の時出てきた小絵馬合わせ額も注目。先代神主の市川教生氏が解説している。

⑥絵師は、堤一門＝等琳、栄川、秋泉、等栄、等舟、等国

昇亭北寿、藤原守雄

⑦ドロ絵の具、墨、群青、丹（に）、黄土など素朴な色調が味わい深い。

宝蔵庫常設展示中の「絵馬」

No.	題名	製作年度	作者	文字	説明文	備考
①	わし	1831	堤等栄	あり	あり	

文字＝奉納、天保二卯七月吉日、堤等栄筆、八幡様
説明＝鷲、天保二卯七月吉日
裏書、阿部山城守領分、八給内惣代名主平兵衛、河野権右衛門知行所、
同名主卯兵衛

②	近江八景、瀬田の唐橋	1830	堤栄川	あり	あり	

文字＝奉納、文政十三寅八月十五日
堤栄川、南町岩松、石太郎、幸次郎、佐吉、助次郎、伊勢松、次郎吉、磯五郎、
新田町八十八、粂五郎、長次郎、片町松次郎
説明＝お蔭参り（お伊勢参り）、筆者堤栄川、
製作期文政十三寅八月十五日
お伊勢参りの同勢の道中の行動を画いたもので旅中安全に帰郷した報賽として
奉納したもの　奉納者（同文省略）

③	曽我物語朝比奈草摺引き	1802	堤等舟	あり	あり	

文字＝享和二壬戌年十一月吉日、江戸新□□寺本茂十郎、伊藤藤兵衛、等舟筆
説明＝鍛引（しころびき）、等舟筆、享和二壬戌年十一月吉日
江戸寺本茂十郎、伊藤藤兵衛

④	五大力船勢揃い	1794	不詳	あり	あり	

文字＝奉納、海上安全、寛政六甲寅三月十五日
上総国八幡村五大力船江戸問屋角屋十兵衛仲冬木源左衛門
説明＝五大力船勢揃い、寛政六甲寅三月十五日、筆者判読不能
八幡宮春祭に八幡浦に勢揃いをして奉祝すると共に海上安全を祈った

⑤	牛若丸と弁慶	1804	堤秋泉	あり	あり	

文字＝奉納御神前、文化元子年七月、秋月門人、堤秋泉
治郎吉、卯之介、石松、七太郎、辰五郎、吉次郎、松治郎、弥惣治、半蔵、
徳治郎、久次郎、巳之蔵、蔵治郎、安治郎、金五郎、勝三郎、□蔵、
辰之介、辰五郎、□平　二十一人
説明＝牛若丸と弁慶、筆者秋月門人堤秋泉、製作期文化元子年七月
奉納者前（同文省略）

⑥	常盤御前親子都落ち	1857	探秀藤原守雄	あり	あり	

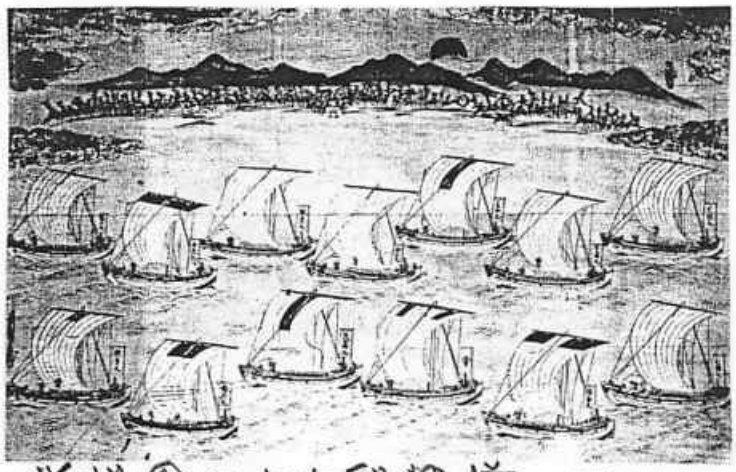
文字＝奉納、南町、市川大助、安政四丁巳孟夏応需、探秀藤原守雄
説明＝常磐御前、探秀藤原守雄筆、今若、乙若、牛若
安政四丁巳孟夏応需、奉納　南町市川大助

拝殿展示

⑦	源為朝鬼が島	1857	堤等琳	あり	あり	

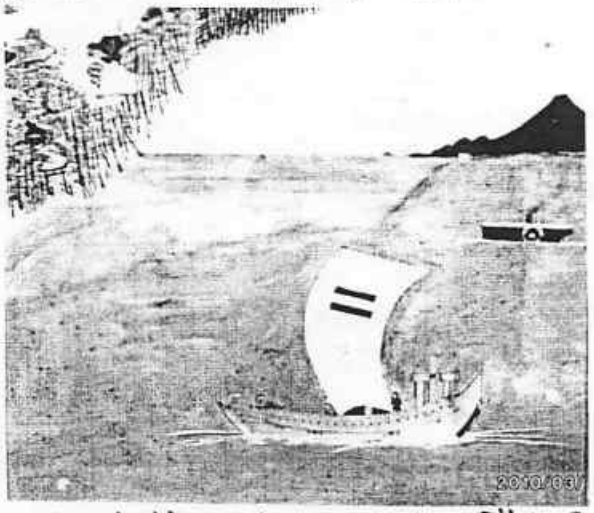
文字＝文化四年三月朔日、法橋秋月改め雪山堤等琳
説明＝源為朝の画、堤等琳筆、奉納□町鈴木太右衛門

毎年3月15日　一般公開

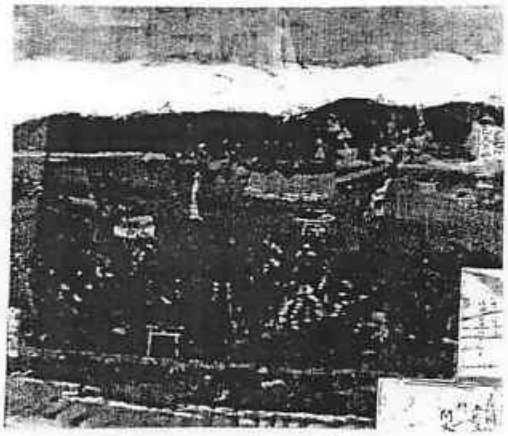


常設㊥五大力船勢揃い図

常⑥常盤御前の梶と都落ち



③八幡海岸五大力船と蒸気船

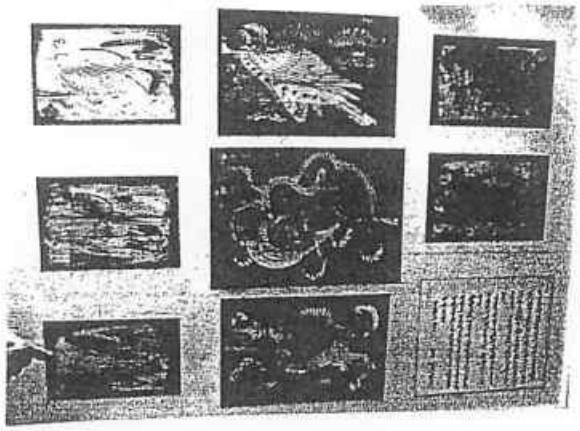


①八幡神社

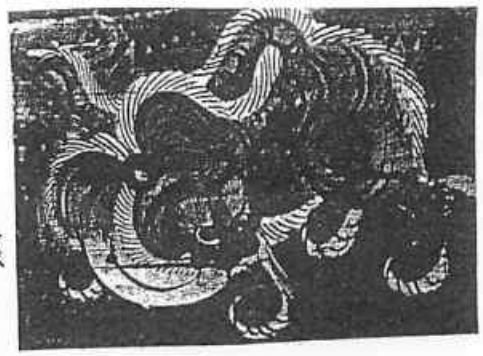
⑩隅田川と今戸

④難船

㉕元帥とささげ銃



㉖ 小絵馬 あわせ額



№	題名	製作年度	作者	文字	備考
グループA＝八幡海岸や海を描いたもの					
①	上総名所八幡神社	1886	無記	あり	

文字＝上総名所八幡神社、明治十九年旧二月十八日
上総国市原郡五所金杉邨、願主、関本伊□

②	八幡海岸五大力船と蒸気船	1891	無記	あり	

文字＝明治二十四年九月、北島豊吉

③	八幡海岸五大力船と蒸気船	明治中期	無記	なし	
④	難船〃	1903	無記	あり	

文字＝明治三十六年五月二十九日、当所、浜本町、舟主、根本吉太郎、同伴（せがれ）磯次郎、斉藤安太郎

グループB＝参詣など各地の風景を描いたもの					
⑤	瀬田の唐橋	1831	堤栄川	あり	

文字＝奉掲御宝前、天保二辛卯歳秋八月吉日、堤栄川画
浜本町、片町、国太郎、丑太郎、勘六、吉太郎、□（保カ）太郎、源次郎、吉太郎、文吉、敬白

⑥	江の島参詣	明治中期	無記	あり	

文字＝八幡、□□由登、願主山中□□

⑦	江の島参詣（江戸時代）	明治中期	無記	あり	

文字＝土屋勘三郎

⑧	紀州藤代峠	1891	無記	あり	

文字＝五井平田村、三枝［判読不能］、明治二十四年九月［判読不能］

⑨	琵琶湖カ	明治カ	無記	あり	

文字＝五所、木口

⑩	隅田川と今戸	1885	無記	あり	

文字＝奉献、今戸、当所南町住、川嶋辰五郎

⑪	伊勢神宮と金比羅参詣	江戸後期カ	無記	あり	

文字＝北［判読不能］、同行［判読不能］

グループC＝武者や物語、伝承を描いたもの					
⑫	源頼朝の富士巻刈り	1814	無記	あり	

文字＝奉叡、文化十一戌歳□月十五日

⑬	源義家と阿部貞任の問答	1884	無記	あり	

文字＝明治十七年甲申三月吉日、奉納、心願成就、当宿今井惣平

⑭	藤原秀郷のむかで退治	1882	堤等国	あり	

文字＝浜本町、仲町［判読不能］、明治十五年七月＊、堤等国＊

⑮	佐藤忠信と覚範	不明	昇亭北寿	あり	

文字＝片町鞍屋忠五郎、昇亭北寿

⑯	すさのおの尊の大蛇退治	1880	無記	あり	

文字＝明治十三年七月吉日、納、［判読不能］

⑰	不明	不明	無記	あり	

文字＝奉納

⑱	三国志人物	1819	無記	あり	

文字＝文政二己卯年、本町、伴蔵、□□郎、勘ノ助、徳太郎、留五郎
仲町、栄太郎、栄蔵　片町、寅松、初五郎、慶次郎

⑲	山	1915	無記	あり	

文字＝八幡町、きよ　奉納、大正四年九月二十一日

グループD＝信仰を描いたもの					
⑳	神功皇后と竹内宿禰の凱旋	1883	無記	あり	

文字＝奉納、出羽神社参詣同行
鈴木□助、堀口源治郎、市川重五郎、寺嶋又□郎、小川□吉、佐倉徳治郎、松田伊之吉、山中巳之蔵、東野典太郎、中島長吉、吉田政吉、伊藤吉太郎、関七五郎、明治十六癸未年八月

㉑	神功皇后と竹内宿禰の凱旋	1891	無記	あり	

文字＝明治二十四年四月二十三日、浅野正蔵

㉒	八幡神親子礼拝	1855	堤等国	あり	

文字＝安政二年卯□月吉日、□（広カ）瀬正蔵

㉓	女衆御幣礼拝	1889	無記	あり	

文字＝奉献、心願成就、八幡浜本町九人
明治二十二年十月二十二日

㉔	母子御幣礼拝	1984	無記	あり	

文字＝奉納、［判読不能］、明治十七年八月十五日＊

グループE＝その他					
㉕	元帥と捧げ銃	1903	無記	あり	

文字＝奉納、八幡、陸軍兵士、中島彦八、明治三十六年一月一日

グループF＝小絵馬					
㉖	小絵馬合わせ額	1992	市川教生	あり	

文字＝この絵馬は昭和四十二年重要文化財飯香岡八幡宮本殿解体復元工事着工中、屋根の補板を剝した中に混入されていたもので、この外多数の残片が発見された。
このようなことは信仰上の理由による□か否かは不詳であるが、珍奇なことである。
絵馬は上段右は享保三年小出氏、中央には寛延二年二月十五日丸氏、中段の中央には渡辺氏などの墨書がみえる。
平成四年九月　　宮司市川教生

参考記録（2階収蔵額）
①公民館表彰、館長御拝謁祝賀記念句会、泉吟社、昭和二十四年十一月五日、於公民館
②無題（句会）昭和二十五年三月十五日

注意＝一部を修正することがあります。引用される場合は最終取りまとめ版を利用ください

八幡公民館主催事業「八幡史学館」　平成２２－９－１４
第３回講座資料①

29

飯香岡八幡宮宝蔵庫　　山岸弘明

1)「八幡史学館名所百選チーム」による絵馬調査　（前回の続き）

＊調査日＝平成２２年６月

＊調査チーム＝青木くに、朝倉久江、石井　勇、北島勝代、小出惣治、佐倉東雄、高沢　毅、多村勝彦、鷲津寛子、山岸弘明

＊収蔵場所別所有絵馬数

拝殿展示大絵馬２点　（前回資料に左側面の文字絵馬１点を加えた）

宝蔵庫展示大絵馬６点

〃　２階収蔵大絵馬２５点＋小絵馬あわせ額１点

合計　３３点＋１点

＊仮目録（前回資料参照＝正式目録は別途とりまとめ中）

拝殿展示大絵馬

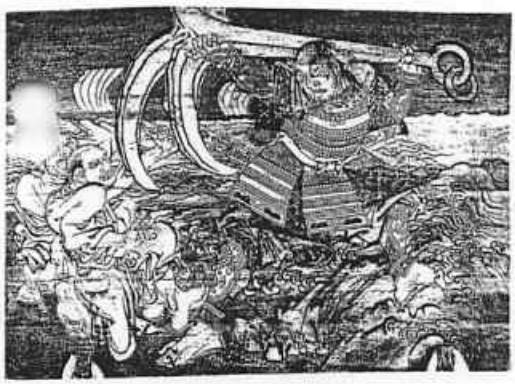
追加＝奉納文字絵馬　大正８年１９１９

文字＝飯ケ岡八幡宮、世話人須田町、通新石町、乗物町、岩本六、かじ１丁、発起人、藤森善太郎、大正八年九月の納め、櫛明書（枠内名前を省略）

変更＝２階収蔵④難船→嵐の中を突き進む五大力船

②堤等琳と堤派

初代堤等琳は、　雪舟末流を名乗る町絵師で、３代等琳が一流を形成した。絵馬や屏風などの肉質画を得意とし、「絵馬額、幟絵（のぼりえ）、提灯等の職人、すべてこの門に入りて学ぶ者多し」（増補浮世絵類考）という。江戸、房総地方の寺社に一門の絵馬が相当数現存している。



三代堤等琳「為朝図」絵馬（市原市飯香岡八幡宮所蔵）

大碇を持ち上げる武士の図。傍らに島民らしい人物を描き、海上に帆船を配置していることから、保元の乱で崇徳上皇方について奮戦した源為朝を描いたものと推定されるが、通例の島の為朝図は、大弓を島民に引かせる図であり、碇を持つ姿の出典は不明である。三代堤等琳は、天明頃から天保頃まで活動した江戸の町絵師で、幟絵、祭礼の行灯絵、絵馬、摺物、団扇絵などを制作した。その門人は、房総一円の多くの絵馬にその名を留めている。この絵馬は「法橋秋月改雪山堤等琳」と署名しているので、等琳としては比較的早い天明・寛政頃の作品とみられる。

「千葉県の歴史」↑　　「浮世絵大事典」↓

堤等琳　堤派を代表する絵師に受けつがれた名。有名なのは、初代あるいは二代等琳の門人と目い、雪舟一四世を称した三代等琳である。『増補浮世絵類考』には姓氏関係の記述はなく、『浮世絵師伝』は本姓を月岡氏とするが、同書はこれを二代等琳の姓とする説も付記している。三代等琳ははじめ秋月、後に雪山、あるいは深川斎と号した。寛政年間（一七八九～一八〇一）の滑稽本に挿絵を描いた例が知られるものの、『増補浮世絵類考』が「浅草寺に韓信の額あり、秋月と云しを三代目等琳と改名せし時の筆なり、今猶存す、雪舟の画法には似ずといへども彩色骨法一派の筆力を以て名高し（中略）門人あまたあり、絵馬や職人、幟画職人、提灯屋職人、総て画を用る職分のものは、皆此門人となりて画法を学ぶもの多し」と述べるように、絵馬や屏風などの肉筆画を得意とした。この浅草寺の韓信殿くぐり図絵馬が現存するほか、雪山等琳の署名を持つ絵馬を東京近郊の社寺に見かけることが多い。三国志に取材した屏風（千葉市美術館）も知られている。『増補浮世絵類考』には、豊舎の彩色を請け負ったり、貝細工などの見せ物までを手掛けたことが述べられるが、絵馬や幟絵などの庶民的な肉筆画を生業とする町絵師の、元締め的な存在だったと思われる。秋琳（のち勝川春章）、栄山、等栄をはじめ、多数の門人を擁した。（矢島　新）

堤派　絵馬や幟絵など町絵師的な分野で活躍した一派。雪舟末流を名乗る初代堤等琳に始まり、三代等琳の頃に一流を形成した。『増補浮世絵類考』の三代等琳の項に「絵馬額幟提灯等の職人、総て此門に入て学ぶ者多し」と記されるが、門流の多くは庶民的な肉筆画に活躍したらしく、東京近郊の社寺の絵馬に、彼らの名を見いだすことが多い。『増補浮世絵類考』所載の系図には、初代等琳の門人として等舟と等川の名が載るが、ともに複数の絵馬が確認される。等川の絵馬には「絵馬屋　巣鴨亭」と記されたものがあり、巣鴨で絵馬屋を開いていたものと思われる。三代等琳の門人として、秋琳、栄山、等明、等橋、秋月、雪仙、等栄、巣山、幡羽の名が見えるが、栄山、秋月、等栄には絵馬が確認される。堤等栄は房総地方を中心に絵馬を相当数残しており、やはり絵馬屋が本業であったかと思われる。市原市島穴神社の張飛を描いた絵馬は「雪舟十四世等琳門人雪山堤等月」と記され、三代等琳門下の等月の筆と分かるが、その後、等義、等儀と続いた等月の家系は、市原市姉崎で昭和に至るまで絵馬や凧を描いていたことが知られている。（矢島　新）

［参考文献］矢島新「近世後期の武者絵馬について」（『浮世絵芸術』一四七号）国際浮世絵学会　二〇〇四年

30

＊飯香岡八幡宮には３代等琳のほか一門の等栄、栄川、等舟、秋泉などの大絵馬が保存されている

＊一門堤等月の家系は昭和まで市原市姉ケ崎で絵馬や凧を書いた（別掲参照）

このほか小型ショーケースに

①立野信之先生文学碑竣工記念展示場

壁面などに

①飯香岡八幡宮境内図、②明治中期千葉県博覧図（飯香岡八幡宮、八幡尋常小学校、市川本店、村市）、③鎌倉時代長崎高資書状（写真）、④発掘された古道跡（写真）、⑤昔の鳥居（写真）、⑥条里制跡を示す古絵図（写真）、⑦昭和４８年境内航空写真、⑧昭和１０年ころの社殿（溝淵健爾画）などを展示している。

2-29

名　称　五大力船特輸入図
所在地　市原市八幡1057
寺社名　飯香岡八幡宮
作　者　不　詳
法　量　縦91×横153cm
年　代　寛政6年（1790）

長方形の形状で、画面上部に雲と山波と日の出、松林に洲浜が描かれ、他は画面一杯に全部で以曜の五大力船を描く。全ての船が帆を張り、水主も描かれ、丁寧な描写となっている。船名はどれも丸号で、「仁徳丸」「観音丸」「弁天丸」「山王丸」等の吉祥や神仏名を名乗る船もあれば、「鎌倉丸」のように地名を冠した船もある。

五大力船は、江戸時代に内湾の各港、現在の千葉市登戸・検川・曽我野、木更津市木更津、富津市富津、鋸南町の鋸山、館山市の那古・船形等の港から江戸へ物資を運んだ船である。この船の特徴は、江戸に着いてから川岸に直接横着けできる点で、そのため船幅が狭く、喫水が浅くできているといわれる。積載量は60石から500石まであった（石井謙治『図説和船史話』参照）。

奉納者は、「江戸問屋角屋十兵衛孫冬木源左衛門」である（村木）。

2-36

名　称　五大力船と蒸気船図
所在地　市原市八幡1057
寺社名　飯香岡八幡宮
作　者　不　詳
法　量　縦60×横73cm
年　代　明治24年（1891）

２枚の絵が重複したと思われる横図の絵である。画面左上部の洲浜の松林の中に、飯香岡八幡宮の鳥居と社殿の屋根を描くが、その海岸線が五大力船と蒸気船の浮かぶ海とは一致していない。海面は波頭を描かず一面水色に染め、画面右上に富士山を配す。

五大力船の描写は他と比べ詳細で、二引きの帆をあげ、水主３人を乗船させている。蒸気船はその後方に１艘描かれる。船体は黒色で、船縁を白色としている。

飯香岡八幡宮は、上総国府近くに鎮座する八幡宮である。社殿は海を臨んで建立されたもので、現在は埋め立てによって社殿から海を一望することはできないが、かつては海上から漁師らの遥拝を受けてきた。古来より漁師の遥拝が篤く、海上安全の祈願を示す絵馬が多く奉納され、本品はその中で新旧の船を同一画面に描いている点が特筆される（村木）。

2-50

名　称　源義家と阿倍貞任問答図
所在地　市原市八幡1057
寺社名　飯香岡八幡宮
作　者　不　詳
法　量　縦108×横160cm
年　代　明治17年（1884）

長暦３年（1039）に生まれた源義家は、前九年の役、後三年の役等で活躍した平安時代後期の武将である。武勇に秀で、和歌にも通じていたと伝え、特に八幡太郎と号し、全国の八幡社に多くの伝説を残した人物である。

本図は、永承6年（1051）に起きた前九年の役に係る故事を描いた絵馬である。安川の敗いで敗走した阿倍貞任に、矢をつがえ追う源義家が「衣のたては綻びけり」と歌いかけたところ、貞任が「年を経し糸の乱れの苦しさに」と答えた。この答に感じ入った義家は矢を納め、貞任を逃したといわれる。画面では、右側に馬上で弓をつがえる義家が描かれ、左側に刀を持つ貞任を描いている。両者の後方を流れているのは安川であろう。

奉納者は、「雲宮　今井忠平」で、「奉納　心願成就」と銘に記される（村木）。

「千葉県文化財実態調査報告書」

表148　房総に遺る堤派の絵馬（部分）

絵師名	名　称	法量(cm)	年　代	寺社名	所在地	備　考
堤□□	伊勢神宮参拝図	103×181	近世	東光院	千葉市	
堤□□	富士巻狩り図	99×130	近世	東光院	千葉市	
堤等□	三国志桃園結盟図	102×121	1848(嘉永元)年	真蔵院	千葉市	
堤等月	長坂橋の張飛図	107×167	1856(安政３)年	島穴神社	市原市	「雪舟十四世等琳門人　雲山堤等月」と署名
堤栄門	韓信股潜り図	100×140	1839(天保10)年	島穴神社	市原市	
堤等琳	為朝図(碇と武上図)	120×150(目測)	近世	飯香岡八幡宮	市原市	「法橋秋月改雪山堤等琳」と署名
堤栄川	瀬田の唐橋図	88×153	1831(天保２)年	飯香岡八幡宮	市原市	
堤秋泉	牛若丸と弁慶図	83×114	1804(文化元)年	飯香岡八幡宮	市原市	「秋月門人堤秋泉」と署名
堤等栄	寒　図	100×50(目測)	1831(天保２)年	飯香岡八幡宮	市原市	
堤等川	伊勢神宮参拝図	120×150(目測)	1830(文政13)年	飯香岡八幡宮	市原市	
堤等舟	草摺曳図	77×139	1802(享和２)年	飯香岡八幡宮	市原市	
堤等国	親子拝み図	68×87	1855(安政２)年	飯香岡八幡宮	市原市	
堤等国	俵藤太藤原秀郷百足退治図	46×63	1882(明治15)年	飯香岡八幡宮	市原市	
堤等琳	天の岩戸開き図	132×229	1847(弘化４)年	豊受神社	市川市	「堤二□山等琳」と署名
堤等玉	武田信玄身延山攻め図	78×122	1895(明治28)年	妙覚寺	佐倉市	「雪山堤等玉」と署名か
堤等琳	熊谷直実と平敦盛図	108×49	近世	皇産霊神社	佐倉市	
堤秋月	源義家霊験図	105×136	近世	新勝寺	成田市	「雪舟十五世筆孫堤秋月」と署名

→姉崎辻家（5代）

堤等月
等義
等儀（1889－1982）
辻儀三郎　号雪山
最後の堤派絵師
94才の死去まで凧絵

「千葉県の歴史」

2）飯香岡八幡宮宝蔵庫ショーケース展示品（毎年３月１５日一般無料公開）

絵馬調査と同時に宝蔵庫ショーケース展示品のリストも作成している。

①経櫃（天文年間＝１５３２ころ）

②春日版大般若経（〃　　）

生実五所足利義明一門の家運繁栄を祈り、足利庄小曽根の住、南氏が「大般若経」６百巻を２合の経櫃に納めて奉納された一部

③桃山時代＝紺糸素懸威二枚胴具足（市指定文化財）

室町時代＝伊予札紺糸素懸威二枚胴具足（　〃　）

④兜

室町より桃山、江戸初期にいたる具足11領を保管している

⑤至徳元年銘みこし（県有形文化財、伝足利義満奉納＝１３８４）

至徳元年足利義満寄進４基の１基、照り、起り（むくり）屋根、面取り角柱、板玉垣、格狭間、蛙股、垂木などに室町前期の特徴を伝えている。専門学者の調査でとくにみこし庫保存の若宮は「復元修復すれば重要文化財相当」の折り紙が付けられている。

⑥天正２０年徳川家康銘大太刀（市指定文化財＝１５９２）

豊臣秀吉の朝鮮派兵に出陣する徳川家康の武運長久を祈願した旗本本多正純が奉納したもの。正純は当時八幡村領主で、のちに２代将軍秀忠の老中首座となるが、ほかの幕閣たちと折り合いが悪く通称「宇都宮釣り天井事件」で失脚した。

⑦寛文年間、陸奥守包保作槍（１６６１ころ）

⑧光善寺薬師如来縁起（元禄年間の写本）

「柳楯神事」の起源を記す

⑨四神

大祭で四神旗の上部に取り付けられた青竜、朱雀、白虎、玄武

⑩柳楯（県無形文化財）

みこし以前の祭りの形態を伝えたものといわれている。柳楯の調整、巡行写真２点。

⑪神饌品用水器、古壺

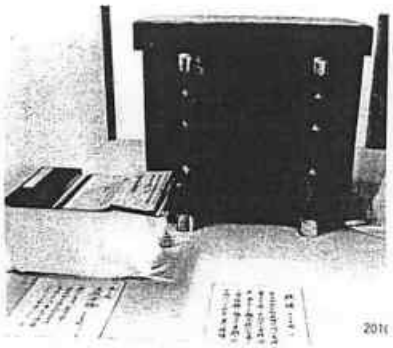
⑫北斎漫画　上総八幡のいちょう

⑬おみな、おに、おきなの仮面（寛文１０年１６７０奉納）

大祭で使用された仮面

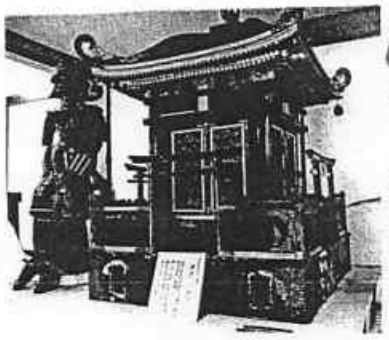
⑭徳川家康寄進状（写し）と寄進状箱（天正１９年１５９１）

家康の八幡郷の内１５０石寄進状。以後、歴代将軍もこれにならって社領を安堵した。

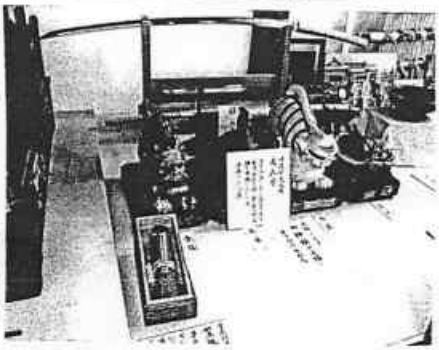


①②経櫃と経文

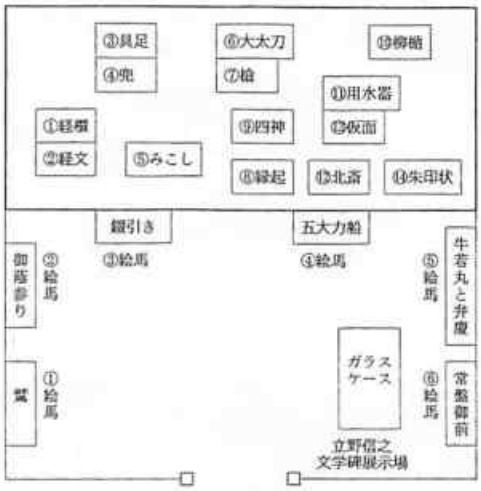
⑩柳楯など



⑤伝義満みこし



⑥大太刀と⑨四神



宝蔵庫の配置図

次回（第４回）「現地巡見」のご案内

「柳楯神事」の里を歩く

1）期日　１１月　９日（火曜日）＝集合は「八幡公民館」です
2）タイムスケジュール（予定＝変更することがあります）
　９時３０分～１０時５０分　八幡公民館視聴覚室「教室講座」
　　①飯香岡八幡宮「柳楯神事」
　　②本日のご案内コースとみどころ
　＊悪天候の場合＝１１時３０分まで講座を延ばし、午後の現地巡見を中止または縮小します。実施可否決定は午前の講座中に行ないます

１１時００分	昼食休憩（弁当持参、となりの神社利用　雨天は公民館）
１１時５７分発	八幡宿駅東口バス停集合、辰巳団地行き乗車
１２時００分着	山木坂下降車、山木坂、山木城、新田川の堰、市原城 光善寺、市原公民館（山越国臣先生）トイレ 大多喜街道、柳楯司山越家前、八幡神社 阿須波神社、万葉句碑、条里制遺跡、柳楯巡行コース遠望
１４時４０分ころ	解散（希望者は後出、柳楯巡行コースへ）
１５時ころ	山木坂下または市原坂下バス停から乗車 山木坂下（２０分間隔＝コンビニトイレ利用可能） 市原坂下（１４時３８分または１５時１０分）
１５時すぎ	八幡宿駅東口着

希望者による柳楯巡行コース（およそ６０分＝途中リタイヤ、五所からバス利用自由）
たんぼの中の道、五所小学校、五所公民館、白金通り、新宿橋、八幡公民館

3）現地巡見の持ち物と服装、注意事項
　①飲み物、筆記道具。携帯雨具や服装は当日の天候を注意して決めてください。
　②途中、車量の多い箇所があります。各自十分ご注意ください。
　　現地解散となります。けが、事故のないよう気を付けてお帰りください。
　③原則として現地への車利用はできません。ただし、特別な事情ある場合はお申し出ください。
　④参加できなくなった方は公民館にお知らせください。（通常と同じです）
　　雨天実行可否は午前の講座内で決定します。前日や朝問い合わせないでください。

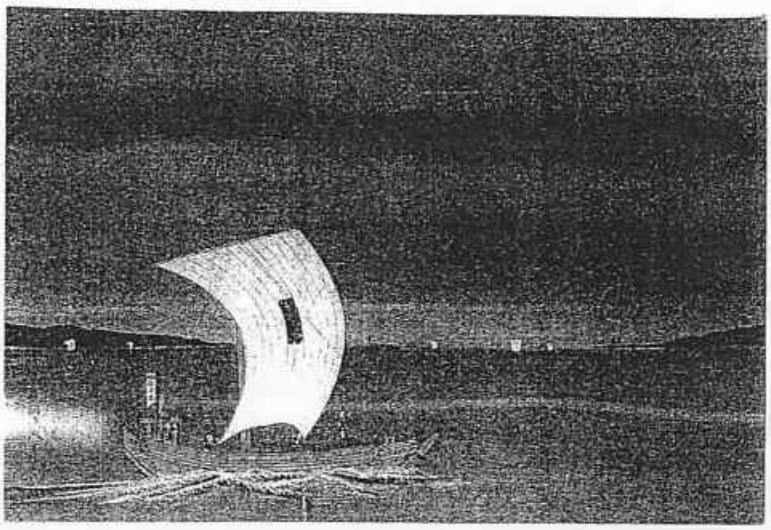
写真で見る八幡五大力船

市原市八幡在住
佐倉東雄

八幡五大力船舟歌

1 エンヤコラショー　ホイ　エンヤコラショー
沖はなぎだよ　エンヤコラショー
東風に吹かれて　角帆を上げりゃ
神の御守護かヨォ　お江戸はすぐだヨォ
大川入れば　やなぎ橋
今夜の泊まりは　仲の町
張れ　張れ　張れよ

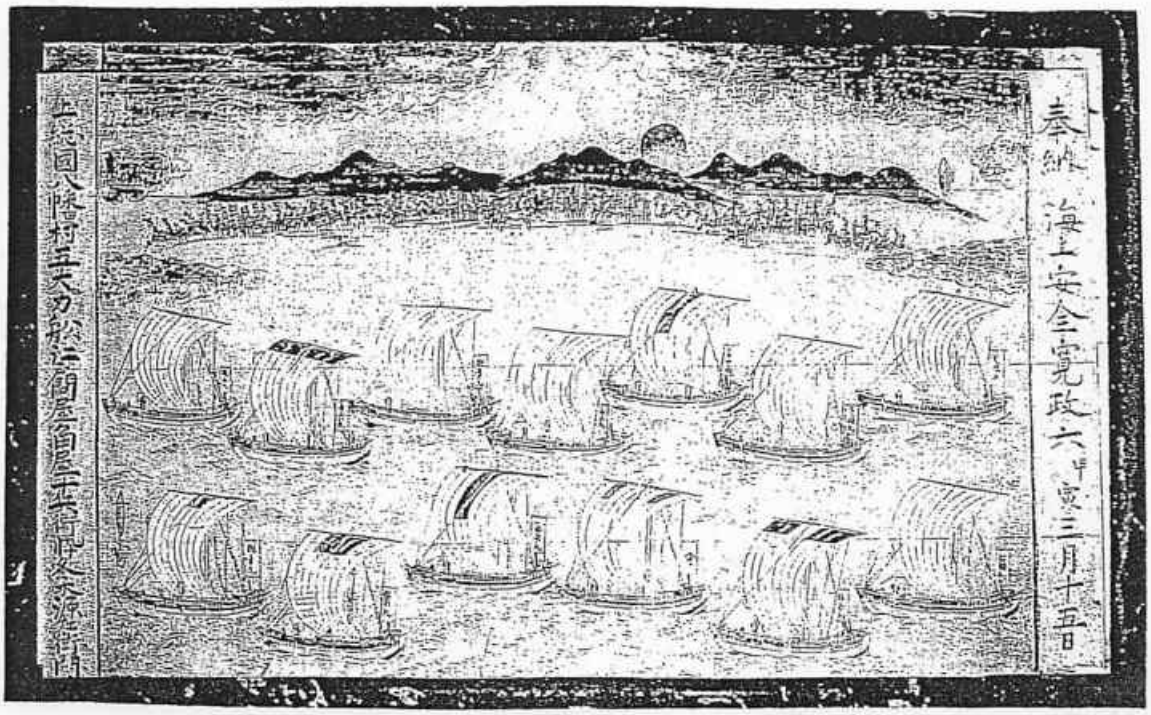
2 エンヤコラショー　ホイ　エンヤコラショー
沖はなぎだよ　エンヤコラショー
八幡恋しや　八幡様の
森が見えますヨォ　ほのぼのとヨォ
矢立の沖から　大棒木だ
大棒木過ぎれば　若さめだ
張れ　張れ　張れよ



神力丸の掛軸

八幡村の五大力船船名　※元治元年（１８６４）

上総丸・稲荷丸・山本丸・竜神丸・八幡丸・明治丸・石尊丸・小網丸・栄宝丸・浦吉丸
庚申丸・高砂丸・九龍丸・大神丸・弁天丸・神徳丸・飯岡丸・改生丸・大国丸・観音丸
清正丸・台葉丸・栄徳丸・日の出丸・龍王丸・大正丸・神力丸・三社丸



上総国八幡村五大力船絵馬

飯香岡八幡宮本殿

〈八幡1057－1〉国指定

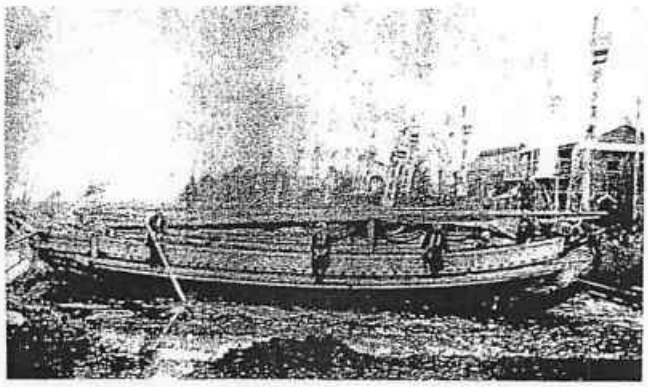
白鳳年間の創建とされ、また一国一社の国府八幡宮とよばれる由緒ある古社です。正面3間・側面2間の総丹塗、屋根は銅板葺の入母屋造です。太い木組や組物・彫刻・面取角柱などの部材は力強く簡素で、室町時代末期の特色を示しています。県内の神社建築で重要文化財に指定されているのは、香取神宮本殿と本社のみです。

〈交通〉内房線八幡宿駅下車徒歩3分。

飯香岡八幡宮拝殿〈八幡1057－1〉県指定

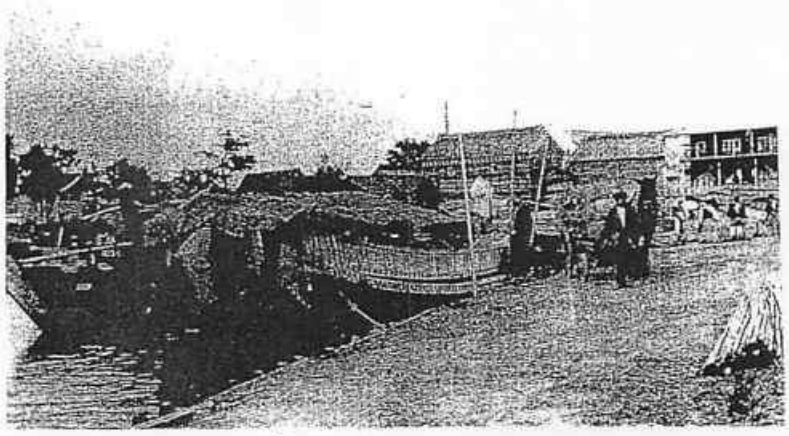
正面5間・側面3間の身舎に梁間1間の向拝(庇)が付き、本殿と同様に総丹塗の建物で、弊殿によって本殿と接続される、いわゆる権現造の形式を取っています。屋根は銅板葺の入母屋造で、正面に唐破風及び千鳥破風が付いています。細い木組、彩色された海老紅梁・木鼻・蟇股内彫刻等、本殿にくらべて華麗です。現在の建物は墨書銘によって元禄4年（1691）に再建されたことがわかりました。

〈交通〉内房線八幡宿駅下車徒歩3分。



浜本の五大力船

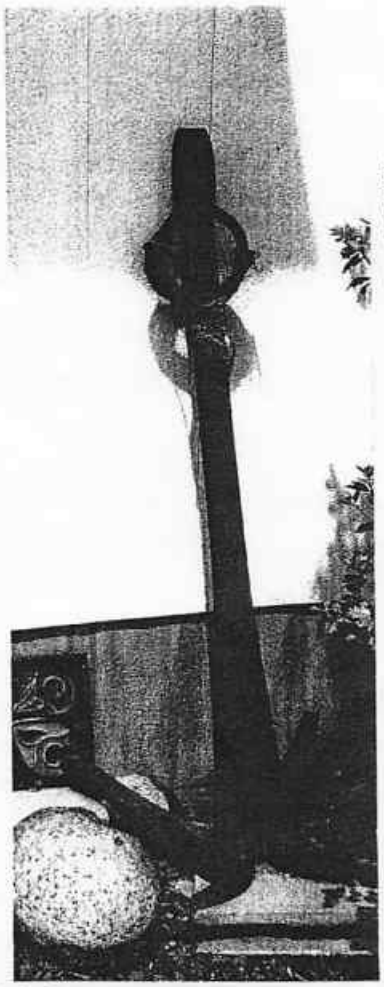
大正時代の写真。場所は八幡町の浜本。五大力船の後ろには、船名を書いた幟が沢山立っているから、八幡の秋の大祭か、元旦か正月二日の撮影ということになるが、写真は正月二日とみてよかろう。二日には、船の近くに集まった子供たちに、ミカンを投げた。浜本の五大力船が運行されたのは、江戸時代から昭和一四、五年ごろまで。明治から大正にかけての全盛期には、二〇ゾ船が二八そうもあったが、昭和に入ると五、六そうに減った。行先は東京の蠣殻町、大森、豊岸島、深川の佐賀町など。



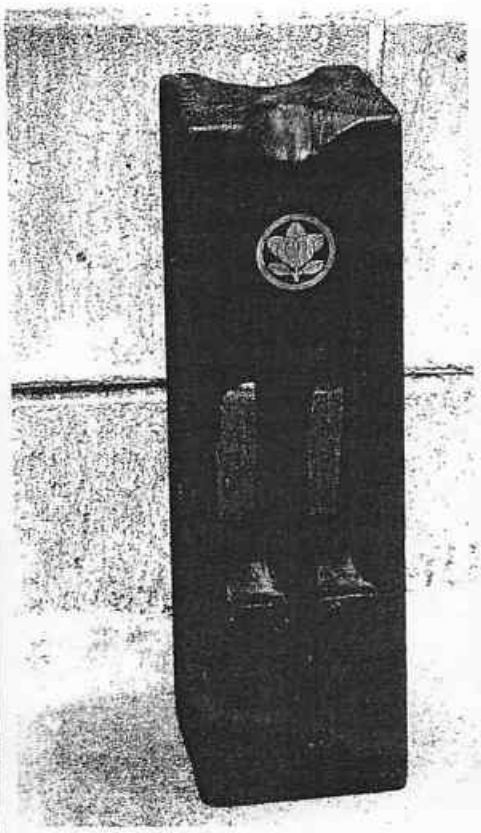
八幡の浜本海岸

大正末期の写真。五大力船は東京へ米や薪炭などを運んだ。八幡の浜本海岸には、これらを収納する倉庫が建ち並び、傍は五大力船で賑わった。五大力船は四斗俵で二五〇―二六〇俵積みが普通で、船頭は二、三人乗り組んだ。人手が不足すると、地元の漁師が臨時に乗船した。写真後方左手の建物は水神様。出航するときには、必ず水神様を拝み航海の無事を祈った。一番右の建物は魚市。次の二棟は陸屋（鰯油搾造業）の倉庫。

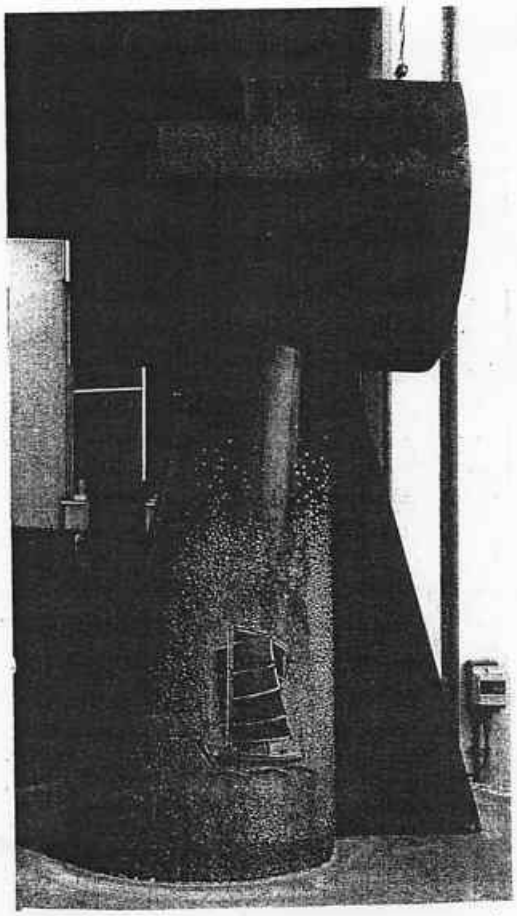
大海住神社と海津見大神の碑



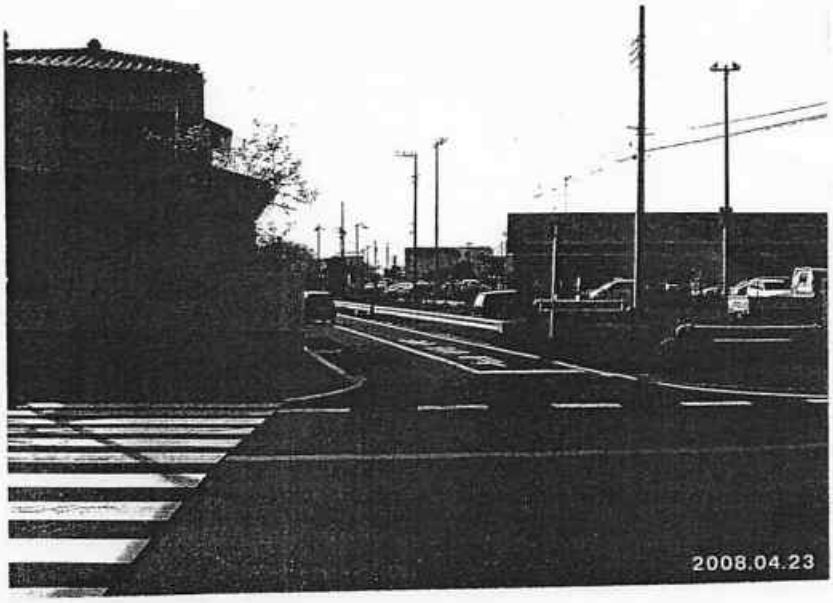
栄宝丸の錨



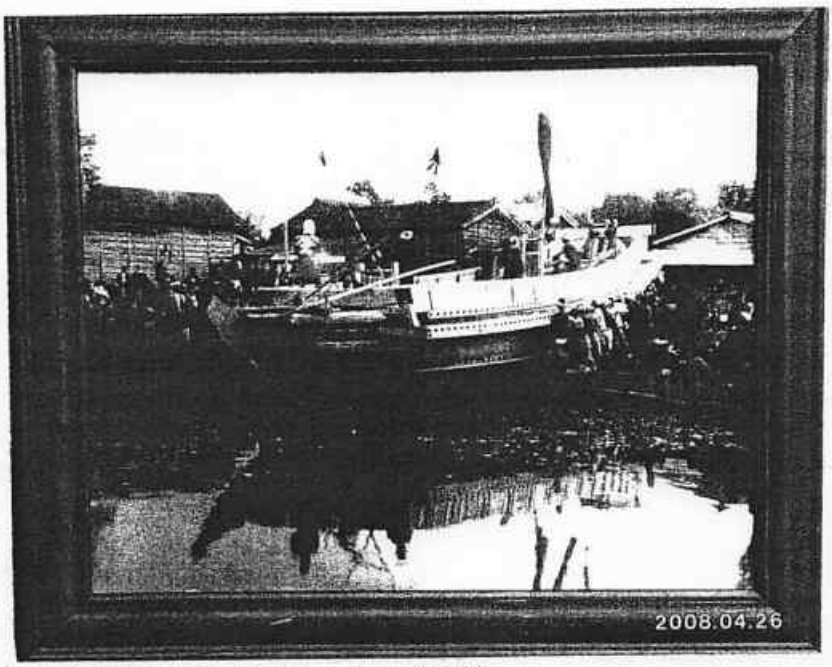
弁天丸のせび



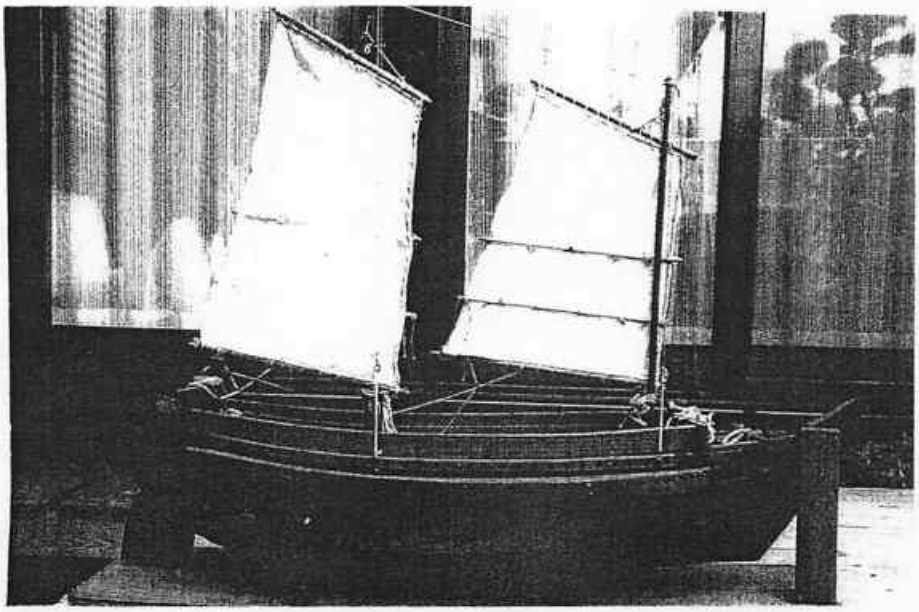
五大力船の彫られたモニュメント



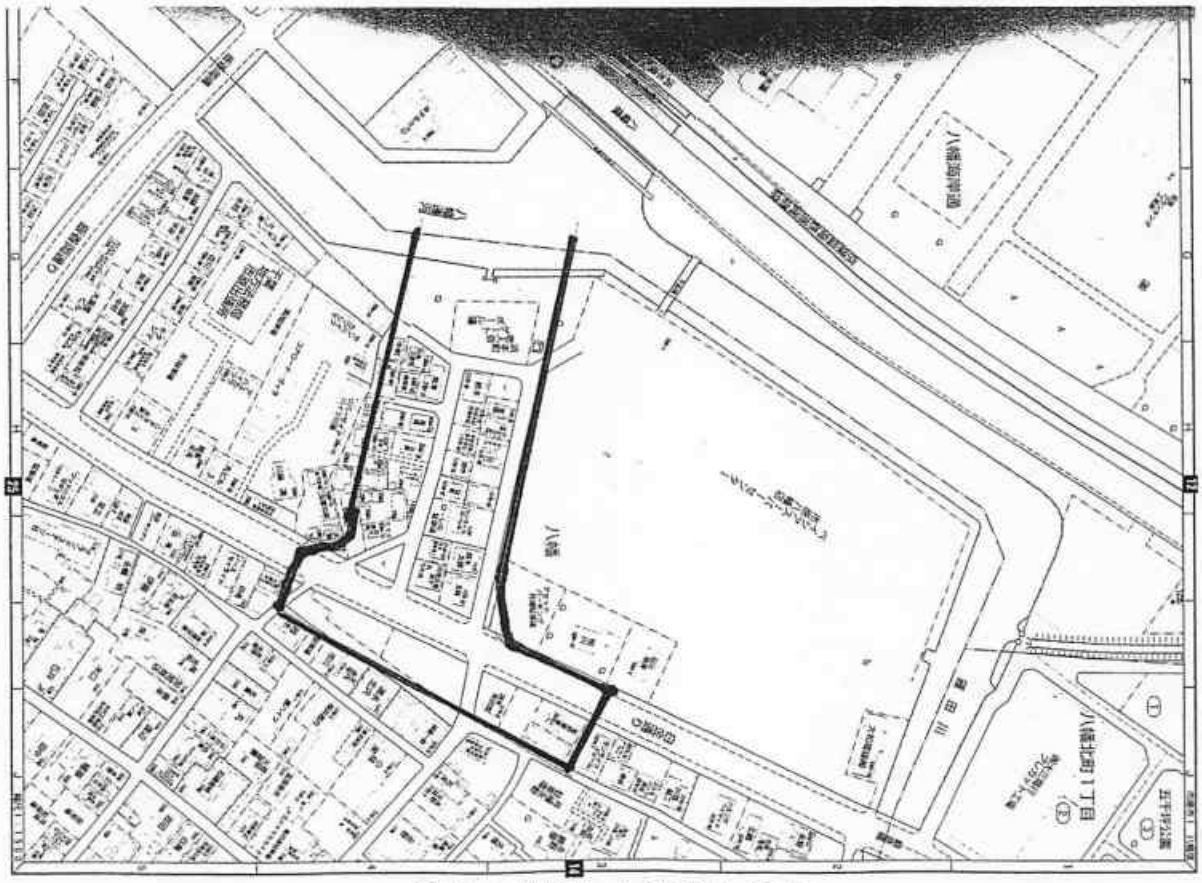
現在の八幡港跡



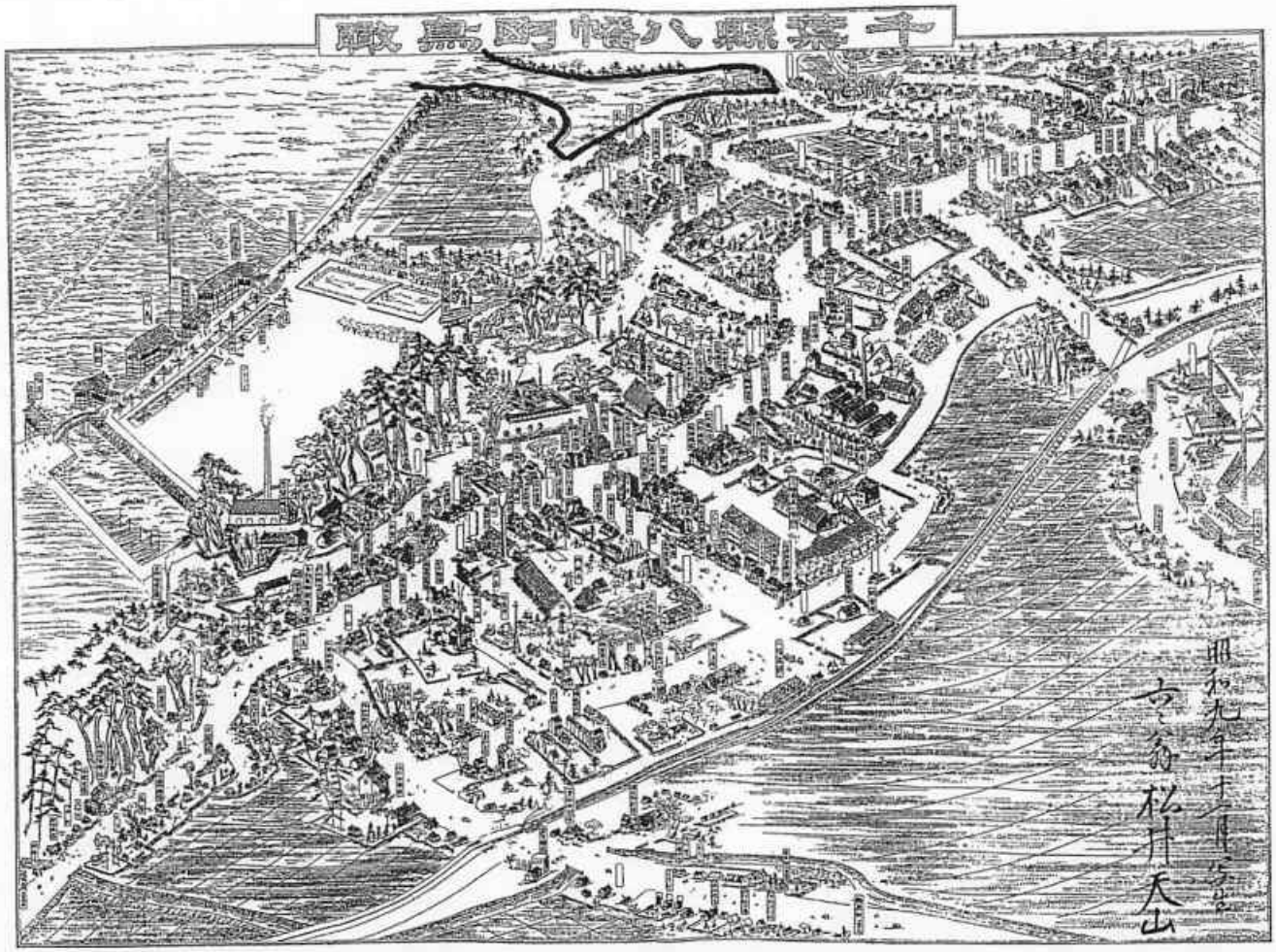
栄宝丸の舟下ろし（明治の終わり頃）



栄宝丸の模型



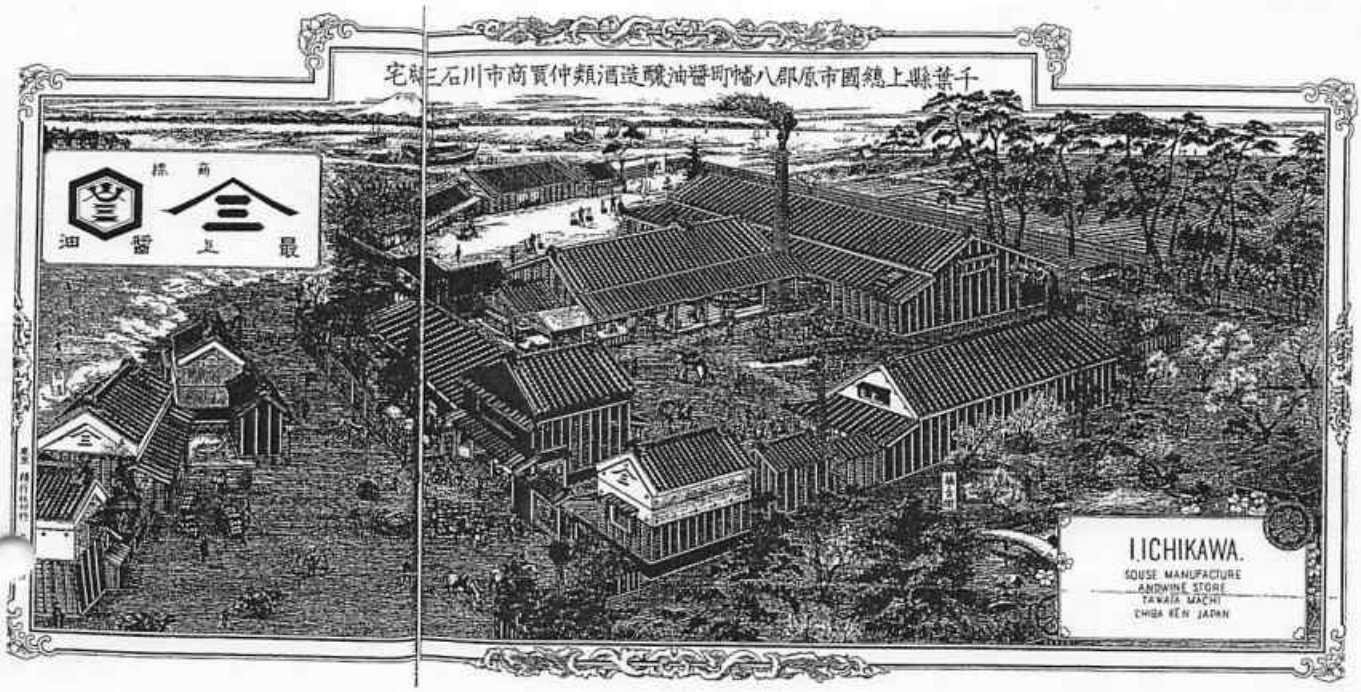
現在の地図に八幡港を示す



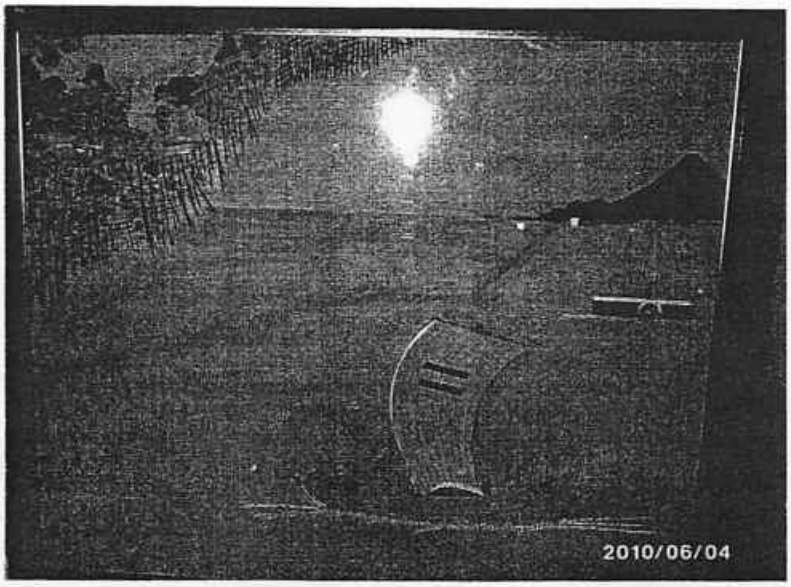
五大力船の八幡港（縦澪横澪）

『千葉県博覧図』より　昭和61年9月10日発行

『千葉県博覧図』より　明治61年9月10日発行



奉納　大正四年九月□一日



飯香岡八幡宮絵馬「五大力船と蒸気船」

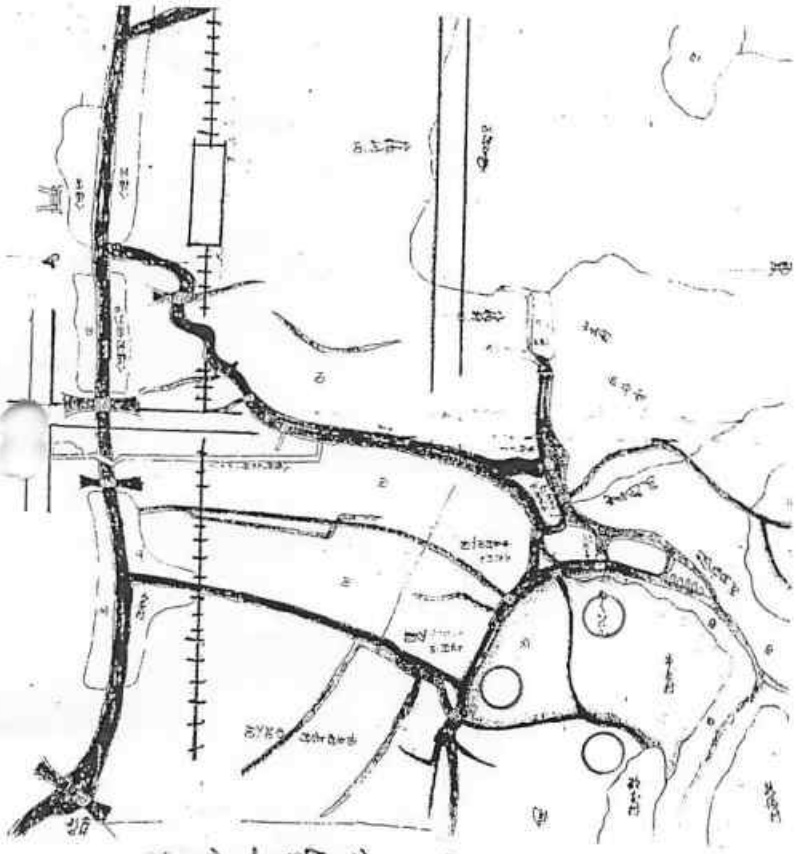
八幡公民館主催事業「八幡史学館」

平成２２－１１－９

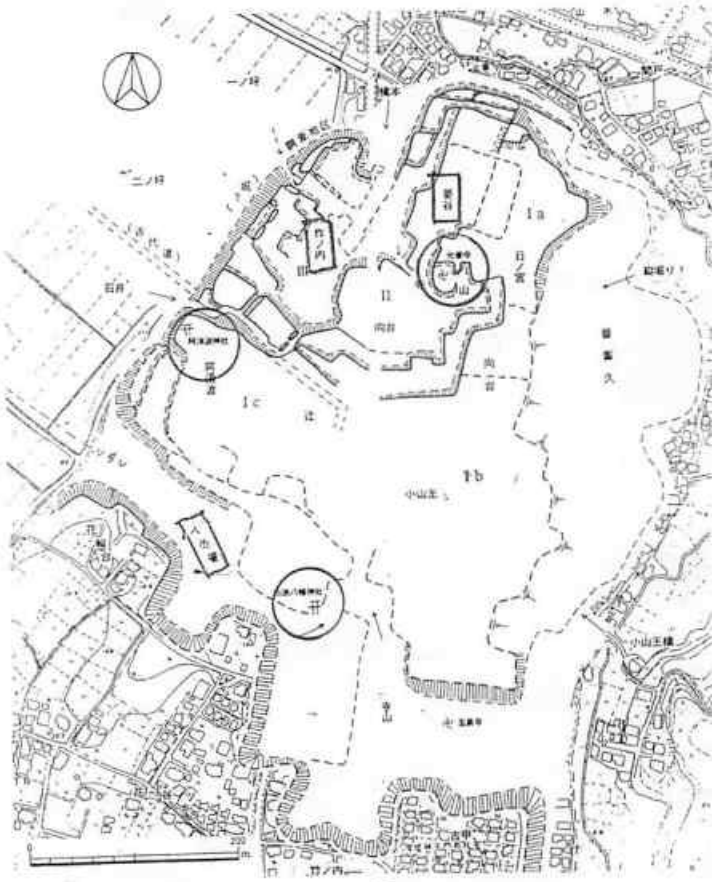
山岸弘明＋佐倉東雄

第４回講座資料

現地巡検「柳楯神事の里」を歩く



江戸中期 宝永9年の周辺図



戦国後期の「市原城」

９時３０分～１０時５０分　八幡公民館視聴覚室「教室講座」
①飯香岡八幡宮「柳楯神事」
②きょうのご案内コースとみどころ

１１時００分～　昼食休憩＝
弁当持参、コンビニ購入者は飯香岡八幡宮境内などで
雨天＝公民館の「調理室」食堂テーブルを用意しています

１１時５７分発　八幡宿駅東口バス停集合、辰巳団地行き乗車（１７０円）

１２時０２分着　山木坂下降車
①山木坂、白船城、能満川の堰、市原城
②柳楯司家森俊夫家（柳楯調整、市原城土塁、空堀、櫓台）

１２時４５分～　③光善寺、市原町民館（山越国臣先生担当）トイレ

１３時４５分～　④大多喜街道、柳楯司家山越均家、八幡神社、阿須波神社、万葉句碑、条里制遺跡・柳楯巡行コース遠望

１５時ころ　解散（希望者は柳楯巡行コースへ）
市原坂下バス停（１５時１０分）または
山木坂下バス停（２０分間隔＝コンビニトイレ利用可能）

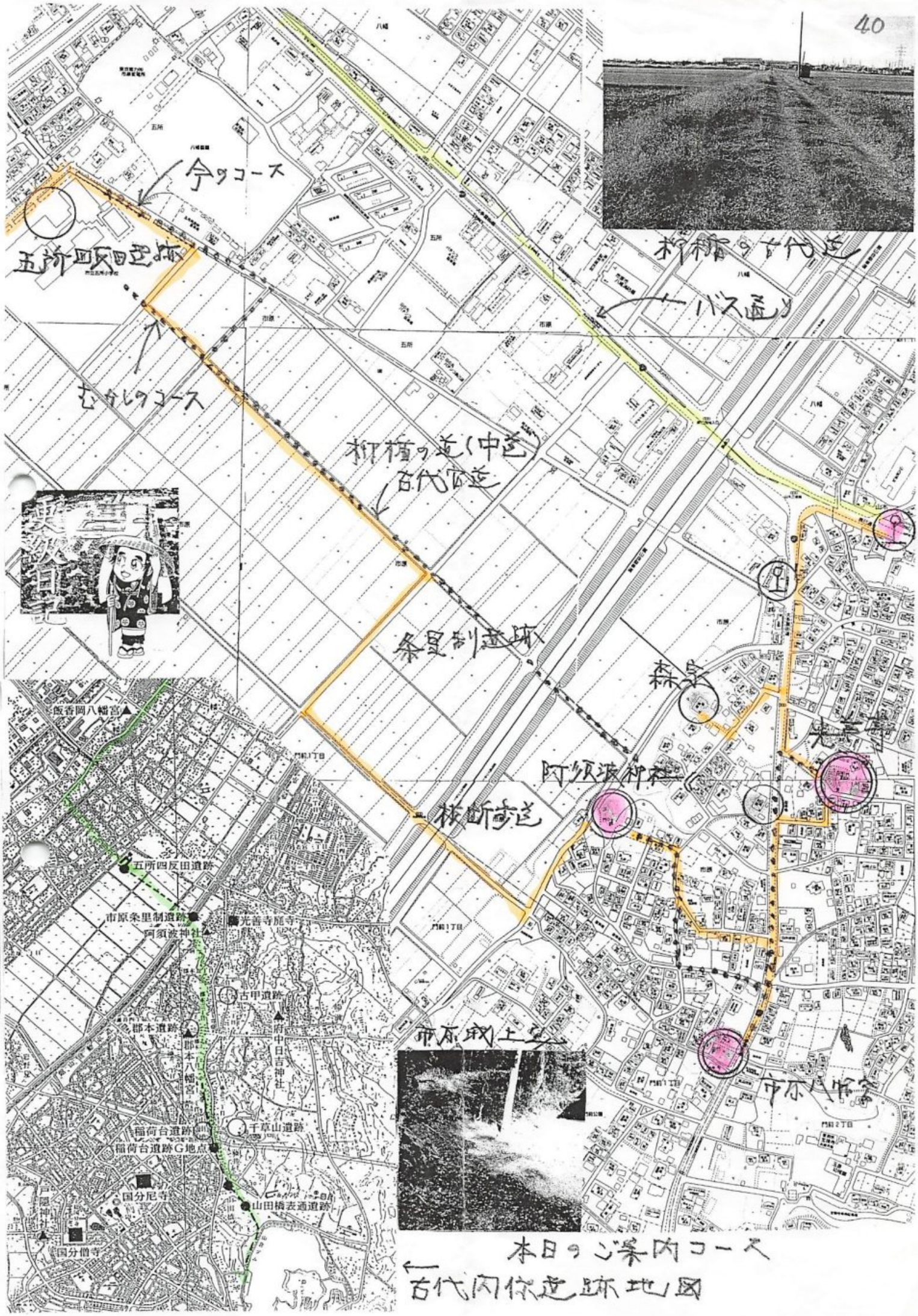
１５時すぎ　八幡宿駅東口着。お気を付けてお帰りください。

＊希望者で柳楯巡行コース（およそ５０分＝五所からバス）
たんぼ道（中道）、五所小学校（トイレ）、五所バス停
五所からバス乗車（八幡宿駅行き１００円）
なお元気な方は八幡公民館まで（およそ１５分）歩いていただいても結構です。
＊悪天候の場合＝１１時３０分まで講座を延ばし、午後の現地巡見を中止または縮小します。実施可否決定は午前の講座中に行ないます

＊光善寺ご案内講師・山越国臣先生＝市原里づくりの会・地域活性化プランナー
万葉集、更級日記ゆかりの地、豊かな地域づくりをめざして
フォトジャーナリスト、農業経営、元千葉日報論説委員

阿須波神社を行く参加者

古代官道をすすむ



本日のご案内コース

←古代関係遺跡地図

飯香岡八幡宮「柳楯神事」

1）ことしの飯香岡八幡宮柳楯神事ＶＴＲ（３０分）

①「伝統の柳楯神事＝飯香岡八幡宮秋期大祭」

９月２１日（火）　柳楯神事の調整

〃　２２日（水）　〃　　巡行

〃　２３日（祭日）秋期大祭、みこし渡御

＊古来、大祭は旧暦８月15日の仲秋に行われたが、近年では直近の日曜日があてられている。本年は「千葉国体」開催のため「秋分の日」に変更、これまで大祭前日に行われた柳楯の調整と巡行は２日間に分けられた

②「柳楯」は柳の枝と青竹を縄で結んで作った神事のための楯をいう。
八幡宮の南後背地にあたる市原地区の氏子によって調整され、大祭前日に五所地区の氏子に引き継がれ、大祭日の早朝八幡宮の神前に奉尊される。もし到着しなければみこしの出御ができない。

＊柳楯は司家が交互に調整していたが近年は森俊夫家で行われている

2）残念だが飯香岡八幡宮の旧地は不詳 —— 創設神話

①「国府総社飯香岡八幡宮のしおり」（同社の公式案内書）による創設は白鳳４年「一国一社の八幡宮として勧請」、また一説は天平宝字３年全国放生の地に勧請された「国府八幡宮」との２説を併記している。

②国府近く「産土神（うぶすながみ）」として成立、平安時代は石清水八幡宮の「上総国市原別宮」、鎌倉から室町時代にかけて「市原庄八幡宮」として朝武の崇敬を集めたことが知られている。

＊鎌倉時代の飯香岡社の実態は不詳だが、市原八幡宮を基盤としたことは確実で、国役普請（１国規模の課役を命じた普請工事）により、壮大な社殿規模を誇った。残念ながら旧地の特定はできない。候補地に現市原八幡宮、若宮八幡宮、郡本八幡宮地などがある

飯香岡八幡宮に到着した柳楯

柳楯を19宮の前に奉尊

600年の伝統支える「司家」

市原・飯香岡八幡宮の「柳楯」神事

約六百年の伝統を誇る壮麗な神事「御楯（おたて）神事」が市原市八幡の飯香岡八幡宮の秋の大祭で、今年も行われた。県無形民俗文化財に指定されている御楯神事を支える御楯司家の人々を通して、「御楯神事」をルポしてみた。（市原支局）

市原市のＪＲ八幡駅の南、「武神」であることから御楯の森家がある。森敬一さん（七七）、森俊史さん（三七）の二軒、「御楯」を調整する「御楯司家」の司家が交代で調整する。

「御楯」は、ヤナギの小枝を若干二本、左右十三本の計二十五本を縦に並べ、五本の青竹を横にして荒縄で結んだ「ヤナギの楯」。ヤナギは神聖な霊木で八幡神が「武神」であることから御楯作業。数十本の中から太くて良いものを二十五本選び、無駄なく、長さの揃う（約七十センチから八十センチ）

御楯神事の一日目、大祭前日の朝から司家の二人が調整を始める。まず、青竹を割り、二枚に分けて結んでゆく。近所に出荷した御楯は市原地区の氏子の神前にまつられた後、司家の森家自宅、市役所の氏子総代らによって市原八幡神社（阿蘇神社）の「御三家」と呼ばれる五所地区の年番の家に受け渡される。

二日目。生所地区の氏子総代ら、町役らに迎えられ出発。途中で出発地の「神」から神社で草やいだ御楯に変わってゆく。神社に到着

【御楯と「司家」の森敬一さん（左）と森俊史さん（右）】

一二軒の森家交代で台風の日も休まず

千葉日報（平成1～10）

3）「行基」が八幡神の後ろを柳楯で覆う ―― 「柳楯」の起こり

柳楯の起こりについての古文書が八幡宮文書に存在する。

①上総国市原郡市東荘八幡宮御縁起」＝古伝書、寛文８年写し

（天平年中、行基が天下を巡行の時この地に経歴し説法した）時に戴冠の異人あり、来たりて石上に座したまう。僧正謹みて君はいず地より渡らせたまうと問い奉りけるに、異人答えていわく、われはこのわたりなる広幡八幡麻呂なり、師の説法の殊勝なるに感じ正に如来の本誓に力を添えんがためなりとなん。これにおいて僧正驚かせたまい、急に柳樹を削りて楯のごとく成したまい神の御後ろを覆いたまえば異人莞爾（かんじ＝にっこ）と笑わせたまい須臾（しゅい）にかき消すごとく失せたまえり、土人恭敬しすなわちまた勧請奉る。このかん接待に麦の飯を供す＜いま郡本八幡宮、市原八幡宮はこの時の安置なり、いま市原村に麦飯田の畑あるはこの故なり＞僧正の柳楯を作り献ぜしは大神の武を掌（つかさど）らせたまうをもってなり。爾来祭祀に柳楯を備えるを例とす＜いま藤井村守公山楊柳寺神主院司の寺号その義を留めるなり＞大神の影向石今現に市原村薬師堂前にあり、おもうに行基は本（もと）和泉国薬師寺僧なり、故に後人薬師堂において安置（したる）ものか。

＊藤井村神主院は浄土宗、能満釈蔵院の末寺、隠居寺で、郡本八幡宮別当寺を兼ねたが明治維新の「神仏分離令」と「廃仏毀釈」を受け廃寺、住職は離村した

「寺院本末帳、新義真言五、四十六、上総国新義真言宗本末帳」＝寛政７年

市原郡府中釈蔵院、本寺醍醐三宝院、御朱印八石一斗寺領、

末寺（省略）、門徒＝市原郡府中神王院、御朱印六石二斗余社領

山木村常徳院、市原村光善寺、郡本村多聞寺、藤井村神主院、五所村明照寺、満蔵寺、平田村長福寺、神光寺

②「市原邑（村）光善寺薬師如来縁起」（伝釈蔵院文書）＝神亀元年、文治２年、元禄13年写し

（行基が光善寺の宮殿御堂を建て御本尊を安置し、説法を続けたところ大石に座した戴冠の異人が現れた。行基が問うと）われは八幡菩薩なり（中略）如来の本誓に力を添えんが故毎朝この石上に来ると宣（のたま）う。行基きこしめし感じたまいて、さてこそ麦の飯に柳の箸添えて奉る。それより所の氏子ども八幡の祭礼には柳楯と名付け、八幡へ奉棒、かの石をば影向石と号し誠にまことにあらたかなる瑞石と万民これを貴びたまうなり

＊柳楯との関係について、①は八幡神が武人のためとするが②は無記。

③「神名考証帳」や八幡宮縁起などの創設神話や地元伝承によると

白鳳年間五所（市原ともいう）の人が都（伊勢、筑前）のさる神社から神像（仏像、お面、御幣）を奪い海中に投げ入れたのが五所（市原台下、石塚）に流れつき、神託にしたがい八幡社を建立したとされる。

④「大正十五年六月千葉県史料展覧会出品、上総八幡町八幡宮伝記（川上規矩印＝同年後筆包書）」（元中島家文書＝天平宝字７年、大永３年？写し

古老伝えていわく。（白鳳２年、中郵、浅埜、中島の３人が筑前箱崎八幡宮に詣でた時、夢の神告により神前の太玉籤と楊（やなぎ）の神楯を授かる）すなわち柳を筏となし、神宝を遷しまいらせ、こいねがわくば東国総州市西県袖ヶ浦手長の磯に着かせ

八幡宮御縁起

光善寺縁起

麦飯石

柳楯

たまえと心念祈願をこめ流しける。（後略）中村典膳、麻野権藤治、中嶋要人、（天平宝字年月日）右伝記古来より伝えるところ、年古く破損におよびよって今般書き換え写し置くものなり。中嶋要人丁（よぼろ）弘堯末孫、執事中嶋三郎治。時に（大永年月日）

＊伝承は細部に諸説がある。「房総の祭＝今井福太郎」によると時代の経過とともに様々な要素が付着、脱落することはむしろ当たり前で、そうした経過を辿ることが、信仰、習俗、伝説などの時代性と展開が窺えて興味深いという

4）柳楯は室町以前から始まる？ —— 八幡宮文書に残る

①柳楯が市原で作られるようになったのはいつ、その訳はなぜか

「上総惣社飯香岡八幡宮由緒本記」（八幡宮文書、市川本店写本）＝古伝書、元禄10年、元文３年写し

（至徳元年、足利義満みこし奉献）ただし柳楯役の儀は氏子市原村へ申し付け伐り採り、楯に造り立て、同村村役人警固にて氏子当番役へ渡り、当役ならびに市原村役人警固にて当神前へ献じ奉り、社家受け取り、御みこしへこれを献じ、右警固役の者へ神酒頂戴致さす。また馬役の儀、氏子市原村御馬谷ならびに八郷にてこれを勤める。

（天正19年、徳川家康社領安堵）柳楯の儀、先例のとおり市原村にて造立、村役人警固五所村当番役へ着、右役人、市原役人一同警固にて当社へ献上、社家受け取り、御みこしへ備え奉り、御みこし幸行の時は市原村役人警固す。馬役は市原村ならびに八郷村々よりこれを取る。

＊八郷は天正19年豊臣秀吉禁制の上総国市原庄

八幡郷、総社、菊間、村上、山木、五井、府中（能満）、五所をさすと考えられる

②「当社年中神祭行事」（八幡宮文書）＝文政２年

（当社務式法記録、８月14日）社家、刑部、五所村年番へ出役の上、柳楯の行事終わりて同村柳楯掛り、中村孫四郎、浅野清次郎、内出（中島＝屋号内出）弥惣八警固、宰領として神前まで来る。右柳楯、御神酒一荷、一の宮へ備え奉る

（同日張り紙）そもそも柳楯は氏子市原庄市原村定役五兵衛、左次兵衛両人勤役、遊海（要谷）山麓字柳沢にて刈り取り、右を組み立て、藤井村社官警固致し、五所村年番へ十三日に渡す右行道の古例これあり

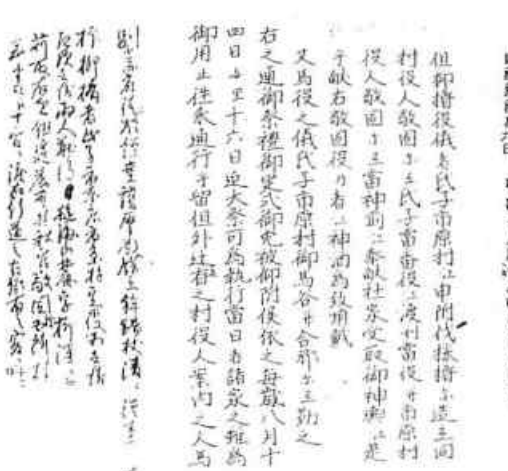
（15日大祭みこし御幸順番、１番太鼓、２番榊、３番四神）第四番柳楯、市原村、氏子人足二人、右宰領、市原村役人二人、麻上下、脇差しにて出役、（５番みこし＝以下省略）

＊五兵衛は柳楯司家の森家、古老たちはいまも屋号「ごへいドン」と呼ぶ。家の下まで迫っていた海岸に漂着した「弊束」に由来するという。もう１軒の司家左次兵衛は現在は山越家に引き継がれている

＊五所の中村、浅野、中島家を「御三家」という。中島家は地元を離れ、残り２家も現在は直接柳楯神事にかかわっていない

←飯香岡八幡宮

→五所御三家



年中祭行事　由緒本記　神社考証帳

5）引き継がれる伝統 —— 県の無形文化財

現在柳楯神事はおおむね次のように行われている。

①第１日

＊午前８時司家で町会長、氏子総代など一同神拝、終わって柳楯調整に入る。作業はおおむね午前中で終わり、司家出振る舞い（でぶるまい＝祝膳）になる

＊午後１時ころ柳楯は光善寺（市原町会館＝昔は区長宅）に向かう。正面に「飯香岡八幡宮」の掛け軸、お供えは神酒、洗米、塩、鯛、果物、すすき。礼拝して町会の出振る舞い。仕出しや持ち寄った家庭料理がずらり。町会長以下30人ほどが集まる

＊３時30分ころ出御、司家２人は上下、氏子総代３人は紋服袴、柳楯のかつぎ手２人は白衣、昨21年からハッピ姿の先導が付いた。町会の人たちも見送りのためしたがう。

＊途中、市原八幡宮、阿須波神社に立ち寄る。神前に柳楯を飾り全員で礼拝、神社裏の坂から台地下に降りて五所へ向かう。 500mほど続くあぜ道は条里制遺跡の古道、伝統行事の舞台にふさわしい巡行最大のハイライトでもある。

＊やや陽も落ちかけた４時30分ころ、五所小学校前（昔は村境）で五所側の出迎えを受ける。かつて紋付き袴の御三家であったが現在は町会長や氏子総代などに代わった。

＊ほどなく紅白の幕に飾られた五所公民館（昔は年番御三家宅）に到着、ここにも「飯香岡八幡宮」の掛け軸が掛けられている。２の宮のこどもみこしの前に柳楯が安置され、神酒、塩、洗米、魚、野菜、果物の神餞が供えられる。５時少し前くらいから引き渡し式、向かって左側に市原側、右側に五所側が着座、受け渡しのあいさつがあり玉串奉奠、二拝二拍手一礼、改めて参列者が紹介される。

＊会場を２階に移し、５時すぎから直会（宴会）となる。引き継ぎの祝い席で奉尊してきた市原の人たちが上座に座る。

②第２日

＊午前８時五所公民館で一夜を過ごした柳楯の前に浴衣姿の参列者が並ぶ。礼拝の後、祭典長のあいさつでお神酒を乾杯、隊列が整ったところで柳楯が出御となる。

＊先導の若い衆を軽参という。カルサンは股引きの元形で、当日の衣装に由来する。八幡宮の神使いである鶴を花笠に飾り、男子一世一代の身祝いとして順番にあたる。先頭２人が拍子木を打ち、４人が錫杖を突く。その後を白衣の２人に担がれた柳楯が続く。一文字笠に上下姿の警固役６人が供奉し、こどもみこしを加えた一行は 100人をこえる。

＊八幡宮近くの新宿橋上（昔は村境の北川）で八幡から出迎えに来た人たちとあう。紋付き袴が５人、軽参が２人、一の宮の氏子総代、町会長らが勤める。

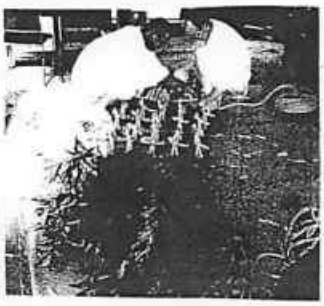
＊拍手に迎えられて境内に到着。祭りばやしが始まり、拝殿のたいこに導かれて昇殿、柳楯は一の宮のみこしの前に奉尊されてこれより祭事が始まり、みこし渡御となる。

＊渡御はまず殿内よりたいこ、榊、柳楯の順に出て、一の宮のみこしが宮出しされる。順次宮出しが終わると柳楯はみこしの先頭にたって町内を一巡し、いったん御旅所に還御した後祭り途中で本殿に納められる。

柳楯司家・株家

→

柳楯の調整



＊その後の柳楯

本殿に安置された柳楯は１月14日の御飾り焚き（ドンド焼き）の神事で焼却される。

②柳楯の道順（台地→五所→八幡）に神社の移動をあてる説がある。創建地に市原説があり、五所には元宮とされる若宮神社がある

③柳楯が神社に到着しないと祭りは開始できない。

＊祭りの開始にあたって、神社に関係深いものが到着しない始められないという例は各地にある。柳楯はよりしろであり、神霊が到着して始めて祭りとなる

＊柳は神降臨の斎木（ゆのき）とされ、全国にまつわる伝説が多い

④多少の差はあるが神事はほぼ昔どおり継承されている。

⑤市原八幡宮、阿須波神社はともに江戸時代、飯香岡八幡宮末社で、八幡宮への立ち寄りは旧鎮座地との伝承によるという。阿須波社は明治維新までの慣例で、一時途絶したのを復活した。

＊「上（たてまつる＝菊間藩あて神社由緒など取り調べ差し出し帳）」明治３年

神官もし他社兼勤これあらば、本社にてはその職、他社にてはその職などの別。当社神主兼勤、上総国市原郡市原村鎮座、八幡太神（祭神誉田別尊）、阿須波社（祭神阿須波之神、波比岐神）、日の宮社（祭神天照太神）

⑥貴重な特殊神事として昭和41年「千葉県無形文化財」に指定された。

６）２５本の柳の枝を青竹で固定する ―― 柳楯の調整

現在、司家の森俊夫、山越均氏２人による柳楯の作り方は、おおむね

①まっすぐな柳の枝先端２ｍほどを30本ほど採取する

＊昔は光善寺近くの柳沢（新市原町会周辺）に自生する柳を採取したが、宅地化で柳がなくなったので、現在は業者に委託している

②柳の枝の末端の葉を残して幹に方の皮を剥ぐ

③25本を揃えて並べ、わら縄で５段に結ぶ

＊25は平年の月数12と閏年の月数13のたし算

④60㎝ほどの青竹５本を２つに割り、１段ごとに柳枝を挟みこむように結ぶ

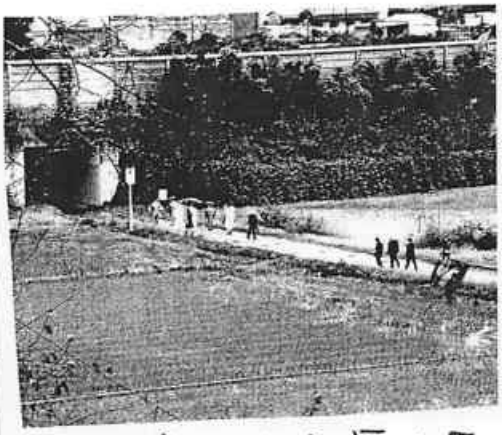
⑤柳枝の上部を右12本、左13本にわけてくくり、先端の葉の部分を横にたばねて結ぶ

⑥１段目と２段目の真ん中１本を切断し長めの青竹を通す

⑦全体の形を整える

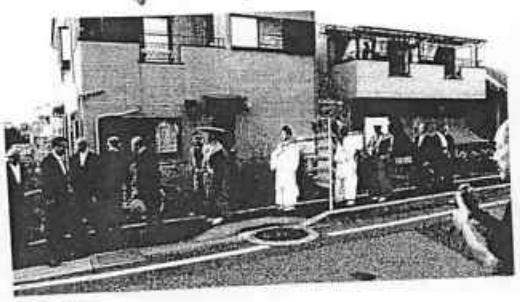
で、先祖からの伝承技術を引き継いでいるとのことであった。

→阿須波神社



↓五所の出迎えとふ継ぎ↓ ↑柳楯巡行

出ふるまい



現地巡検「柳楯神事の里」を歩く

1）市原市「市原」は上総国府の有力候補地 —— 市原の地名を考える

①伝承による市原の地名は「いちい」の木の繁る地という。ブナ科の常緑高木で高さ30mにも達する、実は食用となり、材は硬く強靭、クワの柄や大工土木用具などに用いるという。現在、市原地区にいちいの木は現存していない。
一方、全国に点在する市原（一原）の多くは「広い原」をあてる。市原台地下に広がる条里制遺跡や台地上の平地も広い原とみえないわけではない。

②市原郡は古代から見える。狭義の「市原」は市原、能満、郡本一帯か

③市原郷、市原荘、市原郡、市原市に見られる地名「市原」の発祥地＝中心地であったことを地名が証明している。

④諸説入り交じる国府所在地の有力候補地。

＊国府所在地としては能満説、郡本説、市原説、惣社説、村上説などのほか、郡本市原合同説、国府変遷説などがある

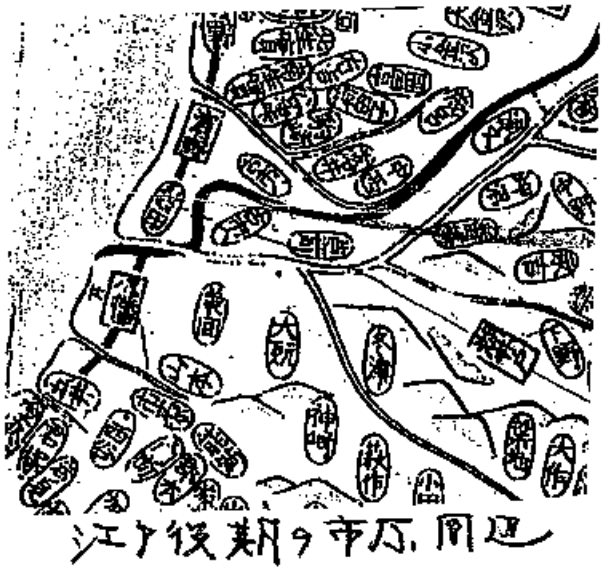
2）五所は「小弓御所伝説」に由来 —— きょう回る４地区

①八幡（旧八幡村、八幡宿、八幡町）＝海通りに面した古い往還の町、日本武尊伝説、源頼朝伝説、上総本一揆の八幡陣、菅原孝標の女「更級日記」いまたちの有力候補地でもある。村名は飯香岡八幡宮に由来、町域形成は室町中期とされるが鎌倉以前にさかのぼる可能性もある。戦国時代は千葉、里見両総決戦の争奪地で、後期は後北条氏が支配、江戸時代は徳川譜代大名、旗本の相給となった。村高1,400石余、家数350、人口1,500 、房総往還の駅場、津出し港として栄えた。明治７年八幡宿と改称、22年五所金杉村、山木村と合併八幡町、戦後の町村合併で市原町、市原市の大字となった。

②山木（旧山木村）＝八幡の内陸部に立地、大厩、菊間、市原に隣接する。江戸時代は旗本曽根氏領、家数50、人口160 、村高は 350石ほどであった。明治22年八幡町、昭和30年市原町、38年市原市の大字となった。昭和期の校区は八幡小学校で、昭和24年山木分校を開設、37年閉鎖、低学年児童が学んだ。昭和30年代、八幡海岸埋め立てにともない住宅化が進み、46年一部に若宮団地が誕生した。

③市原（旧市原村、市原町）＝村田川の菊間古墳群と養老川の西広古墳群中間、台地上に立地、「万葉集」に古代の市原郡や阿須波神社がみえる。国府跡有力候補の１つで、光善寺廃寺から古代瓦が出土、台地下たんぼは条里制遺跡で古代官道が発掘されている。戦国後期は市原城で、江戸時代は旗本酒井氏領、村高340石余、戸数30、人口120、明治22年能満、門前、郡本、西野谷、藤井、山田橋、西広、惣社、根田、加茂の10か村と合併、旧村名を継承、のち市原市大字市原の現在地名となった。

④五所（旧五所村）＝戦国時代足利義明の御所が置かれたことにちなむとされる。近年小弓入城以前の御所説は否定されたが、江戸時代に義明旧城除地があるなど何らかの施設が置かれた可能性は高い。江戸時代は八幡、五井宿の間宿（あいじゅく）、穀物商売、居酒屋煮売り、ボテフリなどの農間あきないが目立った。旗本白須ほか２給、村高580石余、家数100、人口440、明治７年合併で五所金杉村、22年市原町となった。



→明治最初の測量図

3）八幡と久々津、潤井戸を結ぶ急坂の間道 —— 山木坂と辰巳団地

①バス停「山木坂下」で降車

山木坂＝（前略）山木地先にあるこの坂道は辰巳地区への正面に位置しとくに起状の激しい坂道で以前より「山木の坂」と通称されていたことから平成２年３月に名称としました（坂途中の案内表示板から）

②辰巳（団地）は旧大厩村の一部で方位の南東に由来する。周辺を平坦地に囲まれた山林で、昭和34年から臨海部に進出しはじめた大企業の社員団地として造成された。江戸時代潤井戸方面からの正式な往還は草刈村、古市場村を経由して浜野を迂回する伊南大多喜街道だが、山坂は多いが近道の辰巳の間道を利用する人が多かった。

③旧道は辰巳通りに併走し、山木坂上で右折して山倉に通じた。いまも雰囲気を伝える。

4）房総往還を睨む市原城の外郭 —— 白船城

①戦国後期カ、土の城。「市原郡誌」は上杉管領方、市原備前守真高居城とし、文明３年古河公方方に属した千葉宗家胤持軍と八幡近くで戦って勝利したとする。

②西の房総往還をにらむ。隣接する市原城、能満城の最前線外郭または砦。

③城台地の前後は水田湿地帯。前面を切岸で急崖とし、細長い尾根地を削平した主郭部を３本の堀切で４つの郭に分けた。直線連郭式で最南をⅠ郭（本丸相当）とする。堀切、空堀、土塁、土橋、虎口、腰曲輪などが確認できる。

5）八幡や五所の水田を潤した灌漑用水路 —— 能満川の堰

①能満の水留め堰や周辺の雨水を集めた。能満川また下って新田川ともいう。
かつて灌漑用水として八幡の南部、市原と五所の水田を潤した。

②ゆうがい山下の樋跡＝当時は分水のために竹松の樋をかけた。いまもゴーゴーと流れ落ちる堰が当時の雰囲気を残している。

③寛文９年に起こった「五所村、市原村と八幡村水論のこと」幕府評定所（老中、町奉行、勘定奉行などが協議する最高裁判所）での裁許状と裁許絵図が飯香岡八幡宮文書に現存。江戸時代各地に水争いが頻発した。

6）信仰はコミニケーションの場 —— 名品揃いの石仏たち

時間あればコースにある石仏にも目を通す。

①山木三叉路

＊馬頭観音（３面６ぴ）立像＝八幡十郎兵衛作、（１、２字欠落判読不能）八幡村、市原、山木、神崎、荻野谷、小田部、羽地、滝野口、勝間、大作、郡本、能満、元文二丁巳四月吉日。新発見の秀作（移築カ＝旧地など伝承不詳）

②市原坂下バス停前

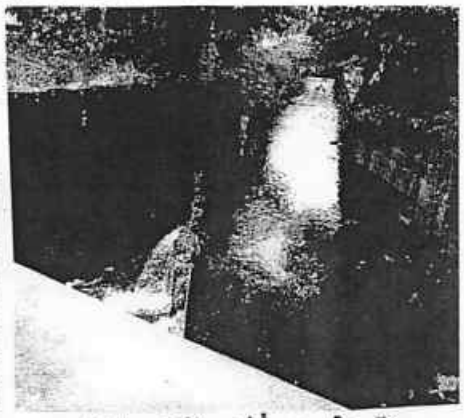
＊庚申塔（３猿、頭部など削落）＝奉拝庚申待、成就供養所、一結衆安全、殊郷内繁茂。山越七右衛門、同七左衛門（ほか６名）、万治四年辛丑二月日、敬白、石や喜左右門。庚申信仰。近年まで市原で最古とされた。残念ながら３猿は故意に削り取られている

③光善寺と坂入り口

＊御題目塔兼巡拝塔（寛政９年）＝南無遍照金剛。讃州出釈迦寺移、七十三番、光善寺。

山木坂下

白船城



能満川ヶ七甲

施主当村男女講中。四国八十八か寺の移し。天明３年釈蔵院住職らが巡礼できない庶民のため郡内に模擬の四国88か寺を作った。出釈迦寺は香川県の古義真言宗。
＊回国塔２基（日本回国供養＝文化３年、安永７年）＝市原村行者与七、行者四郎兵衛
＊馬頭観音（合掌＝享保８年）

7）柳楯を調整した柳楯司家 —— 森俊夫さん宅

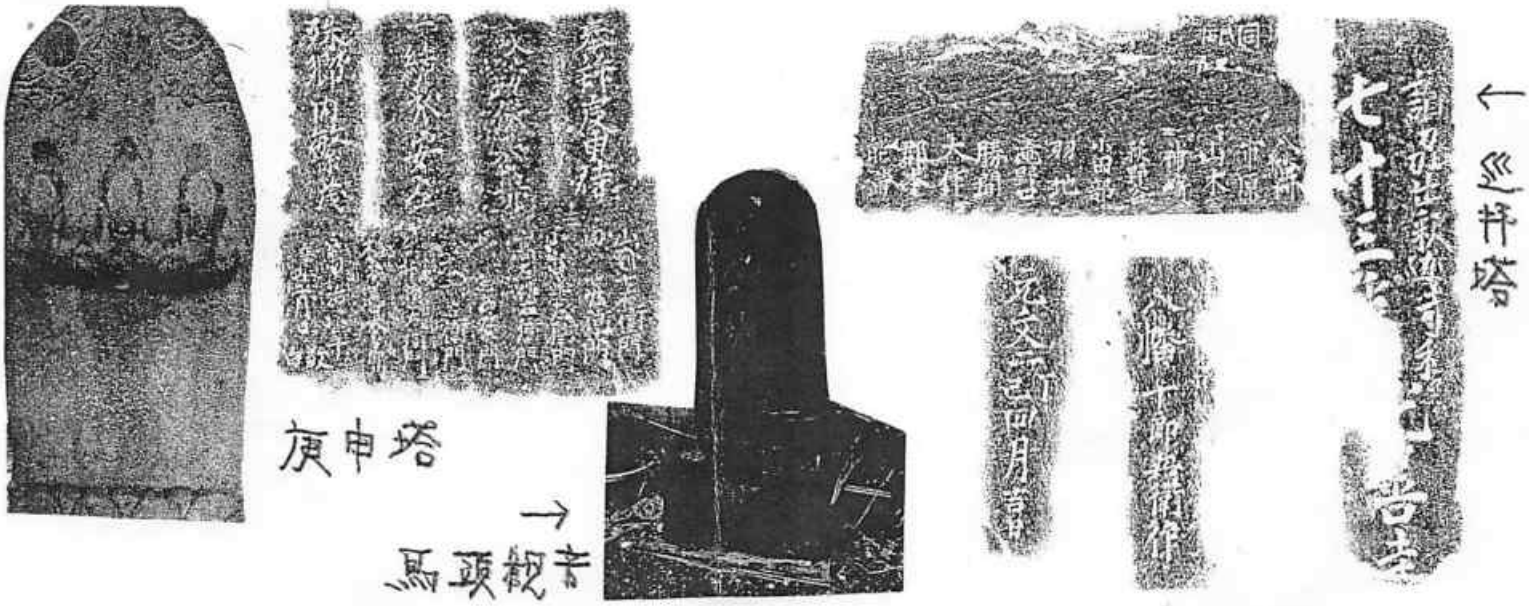
①県の無形文化財にも登録された柳楯神事の伝統を守る司家。ことしの柳楯も森家の庭で調整された。現在は無住、森さんは新市原町会に移転された。
②家裏に後出市原城の土塁、櫓台、空堀。後北条流二重土塁の可能性窺わせる部分も。

8）伝承や遺跡も少ない謎の城 —— 市原城

①忍丹波守居城跡史跡杭、薬師堂御手洗井戸
②戦国後期の丘城、関東に多い土の城
③「総州久留里軍記」は芦野丹波守、「房総通史」は天文23年忍丹波守、弟民部小輔、「光善寺縁起」は蘇我太郎光善とする。いずれも伝説の域を出ない。
④房総往還を眼下に見下ろす市原台地、舌状台地先端に立地する。東西、南北 500mのほぼ方形。街道と千葉側を意識、直近の能満城は反対の東面と南面を正面に構えている。防御体制を補完しており同時期の兄弟城といえる。遺構は改変が激しく、縄張りは不明瞭、Ｉ郭（本丸相当）は光善寺または最高地の日の宮地区と考えられ、魚のうろこ状に小郭を連ねる。おおむね戦国後期の造りだが、後北条系の特徴が確認できず不明点の多い謎の城といえる。
＊戦国時代の八幡は上総、下総国境に立地した争奪の地にあたる。上総方の「境めの城」は周囲に支援体制がなく難点が多い。後北条時代千葉、原氏の小弓城支城としての街道抑えと考えたい
⑤各所に大堀切、空堀、竪堀、土塁、櫓台、井戸跡などの遺構が現存する。
発掘調査で１か所にまとめられた頭部多数も出土している。

9）国分寺より古い古代寺院 —— 光善寺廃寺と現在の光善寺（山越先生案内）

①光善寺廃寺（現在の光善寺周辺一帯）＝国府推定地一角に所在する古代寺院。周辺で布目など古代瓦多数が出土、軒先瓦の文様などから国分寺、尼寺より50年ほど古い、奈良時代、７世紀末から始まり８世紀前半が最盛期と考えられるという。
＊倭各類聚抄＝上総の国府は市原郡にあり
②国衙（こくが）は未確認だが、近くの古甲遺跡などは郡衙に関係するとみられている。光善寺は国衙（または郡衙）に付属した「国（郡）寺」と考えられる。
＊国府近傍の寺院として国分寺創建以前の国家的仏教行事を執行する場としての役割を期待されても不思議ではない（市原市歴史と文化財シリーズ⑤）



③「更級日記」の作者・菅原孝標のむすめは寛仁元年（1017）からの３年間、上総国府で暮らした。薬師如来を信仰した彼女は光善寺廃寺も日常的に参拝したといえる。

③現在の光善寺（廃寺跡地に再建）＝「光善寺薬師如来縁起」は蘇我太郎光善創建とし、柳楯神事とのかかわりを記す。再建年代は不詳だが、室町時代カ。江戸時代（前出）は新義真言宗府中釈蔵院の門徒で、市原八幡宮別当という。現在は五所万蔵寺の末寺になっている。

＊本尊「薬師三尊像」は室町時代15世紀作、「厨子」は室町時代の禅宗建築技法を伝え、石とうろうは室町時代の古式とされる。再建起源を探る有力な状況証拠といえる。

④麦飯石＝創建神話に登場する八幡神の石、「源頼朝伝説」が知られる。また、故大川氏の光善寺廃寺礎石説は説得力がある。

＊解説板（薬師堂縁起）＝当薬師堂は元禄十三年庚辰年までに九百七十年の古き建物なり。光善寺薬師如来は昔□天王四十九代聖武天皇の治世、神亀元年甲子秋九月十二日行基菩薩一夜の作りたまうと伝えらる。当地建立の縁起は古城市原領主曽我の稲月末葉上総の介光重の一子曽我の上総の太郎光善の（と）申（す）人の御建立なり。

東路に我□移せ市原や　屋敷たつ沢山のほとりに　光善歌　（□＝判読不能）

⑤応永型石とうろう（市指定文化財）＝安山岩およそ２ｍ、初期の単基型で基段は６角形、古い形の返り花を刻んでいる。

＊解説板（光善寺石とうろう）＝紀年銘はありませんが細部の造形の特徴が温水春日神社の応永二十四年銘を持つ石とうろうに類似することから、形態的に室町時代前期の作とみられ、千葉県内の石とうろうではもっとも古いものと考えられます。

⑥八幡村の人寄進手水鉢（安永４年）＝御宝前、願主、八幡村、松原氏、伊勢屋市兵衛

⑦薬師堂御厨子＝東京文化財研究所教授らの調査で室町時代の作りと鑑定された。

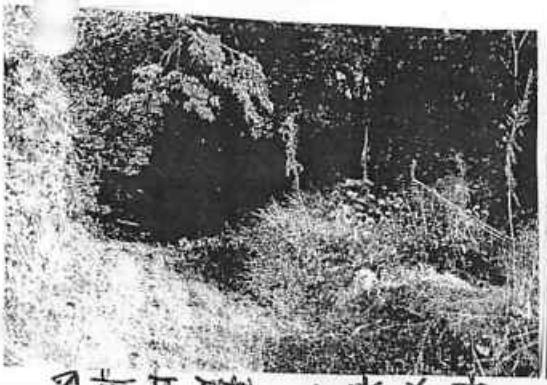
＊鑑定した伊藤教授の千葉日報談話＝室町時代の禅宗建築の様式を忠実に残している建物。ただ修復部分も多く（中略）年代の特定は難しいが桃山時代のものではないか。いずれにしても室町の本格的な技法を残しており、大事に保存してもらいたい。

⑧薬師三尊像（薬師、日光、月光＝室町時代作。秘仏。毎年８月８日公開。

＊市原市内仏像彫刻所在調査報告書＝宋風をこの地で受け継いだ室町時代15世紀の作。台座を含めて一具の三尊が揃う優作である。

⑨薬師如来立像（室町時代）、十二神将立像、阿弥陀如来立像、大日如来坐像、地蔵菩薩立像、弘法大師坐像（いずれも江戸時代）ほか

⑩光善寺兼市原町民会館＝柳楯神事の会場。関係資料も。トイレをお借りしてください



↗市原城　↓光善寺　↓薬師堂縁起　↑麦飯石　↑薬師堂　↓石とうろう

１０）「柳楯神事」の小路を進む ―― 市原八幡宮

①以下柳楯神事巡行の古道を辿る。
②柳楯司・山越均さん宅前。もう１軒の司家。
③大多喜街道（現 297号線）＝八幡から海土有木、ほぼ小湊線をすすみ大多喜に通じる。
　戦国時代の市原城時代は山下を迂回、江戸中期図も山下の方が太く描かれている。
④辻＝古地名。古道が交差した盛り場か。
⑤市原八幡宮＝一説に飯香岡八幡宮旧地ともいい、神事で柳楯が立ち寄る。
⑥人市場＝市原八幡宮地先谷津地の古地名、古代の人身売買の名残か、六斉市の一日市とする説もある。
⑦古道＝小路を進む。時間あれば「これより九尺道」碑（天保９年）

１１）庭中の阿須波の神に小柴さし ―― 万葉の里阿須波神社と句碑

別紙参照

紫日報（日刊）　2003年（平成15年）1月30日（木曜日）

室町時代の建築を継承

見事な光背や薬師堂厨子

古建築の伊藤教授が鑑定

市原市市原

市原市市原の光観寺薬師堂内に保存されている厨子（ずし）と富津市鎌田に現存する江戸時代の吉良家墓二十九日までに、東京文化財研究所の工学博士、伊藤延男教授が相次いで訪れ、詳しい鑑定を行った。市原市の建築士で、文化財の研究・保存に取り組んでいる鎌倉平八氏らが昨年中に所在を確認、正式な鑑定を進めていたもので、共に両寺を代表する優れた建築様式を残す貴重な建物と同明した。（関連記事15面）

光（市）観寺は国指定の薬師堂で、もともと広大な寺域を有した地域の中心地と推定されている。上総国分寺・国府寺にも近く、未発掘な部分も多く、未発掘的な発掘調査は行われていないものの国分寺より五十年ほど古い、奈良時代（七世紀末～八世紀初め）のカワラなどが見つかっている。

薬師堂は現在の寺院の開基地に現存、何度も修復されているが、もともとは鎌倉から室町時代ごろに建てられたものとみられる。堂内の厨子ずしの一基は中心部が六角形で、市文化財審議委員の安藤哲氏らの調査で室町時代の貴重なものと確認された。

今回は本尊の薬師如来を安置する堂内の厨子が調査の対象となった。伊藤教授のほか鎌本、安藤氏、市教委の相当者、住職、檀家関係者の立ち会いで行われた。同住職らによると年に一度、八月八日の縁日に開帳される。

さらに管理する市川光盛氏の提案で、厨子に施された彫刻や装飾が強いられた厨子の建築様式が以前から鎌本氏ら関係者の関心を集めていた。

伊藤教授は外観から内部、照明木（おおきなる き）の構造、細工が施された欄間、さらに厨子が置かれている須弥壇（しゅみだん）など細部にわたって調査。「室町時代の禅宗建築の様式を忠実に残している建物。ただ修復部分も多く、証拠となるようなものもないため年代の特定は難しいが、桃山時代のものではないか。いずれにしても歴史的な技法を残しており、大事に保存してもらいたい」と推定した。

ており、仏像とともに装飾が強いられた厨子の建築様式が以前から鎌本氏ら関係者の関心を集めていた。

厨子とともに本尊が安置されている光観寺の薬師堂＝市原市市原

43 地蔵菩薩立像　一軀
像高　四二・〇
木造　玉眼　彩色
江戸時代

42 大日如来坐像　一軀
像高　三四・八
木造　玉眼　金泥
江戸時代

41 阿弥陀如来立像　一軀
像高　七六・〇
木造　玉眼　彩色
江戸時代

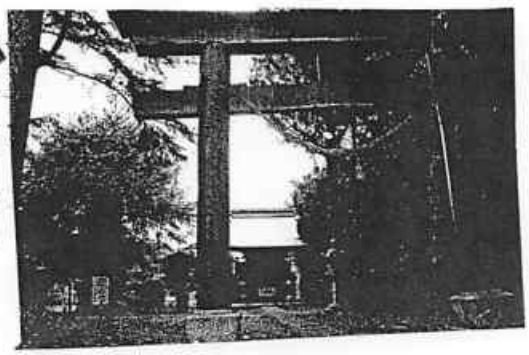
46 薬師三尊像　三軀
像高（薬師）三八・三
（日光）四〇・〇
（月光）四〇・八
木造　玉眼　彩色
室町時代

光観寺の仏像

仏像

←柳楯司の山越宅

←市原八幡宮の周辺



１２）五所小学校へ一直線に伸びる ―― 条里制遺跡、古代官道と柳楯巡行コース

阿須波神社から条里制遺跡、古代官道と柳楯巡行コースを遠望。

①条里制＝古代に行われた地割り制度。土地を６町（ 654㎡）に区切って里と呼び、東西に並べて条という。里を36等分した 106m四方を坪（１町歩）、さらに10等分した区画を１段（反）歩とした。土地を碁盤目に区画し、何条何里何坪というふうに耕地の所在地が示された。「大化の改新」（ 645）以後施行８世紀ころまで。

＊条里制の当時の姿を残す遺跡はあまりない。関東ではとくに少なく貴重

②古代官道＝国府と国府を結ぶ官道で古代の国道にあたる。市原の多くは未解明だが、山倉ダム脇から藤井まで、阿須波神社から五所小学校までの２か所が判明、この結果直進して旧房総往還に接続したことはほぼ確実といえる。菅原孝標のむすめらは八幡を経由して両総境川に向かった。

＊五所四反田遺跡看板＝発掘調査は校舎および体育館、プールの部分について行われました。この調査により幅約６ｍで両側に溝を持つ道路跡や幅10m程度の溝の跡が発見されました。とくに道路跡はいまから千年以上前に作られたもので都と上総地方を結ぶ重要な道路であろうと考えられています。また、。溝の跡からはいまから千五百年くらい前の古墳時代の中頃に作られた木製の農具であるスキやクワ、キヌタ、武器の弓などが発見されました。

③柳楯巡行は古代官道を通って１直線に五所小学校へ進む。
地元は「中道」と伝承、史書は「大道」とするものが多い。

阿須波神社で解散

ここで「バスで八幡へ帰るグループ」と「柳楯の道を歩くグループ」に分かれる

１３）およそ１時間かけて「柳楯神事」の道を歩く ―― 希望者で

①条里制遺跡の古代官道を進む。かつて「更級日記」の菅原孝標のむすめは父に連れられ、れん車（牛車に似た手持ち　こし）で京都への旅の一歩を踏み出した。

②たんぼの中の一本道、好天なら快適、田園風景を楽しみながら五所めざす

＊途中、館山高速道側道ほかで横断歩道まで大迂回する

③五所小学校で「五所四反田遺跡看板」「古代官道史跡杭」
（小休止＝トイレをお借りできます）

④五所御三家、五所町民館

⑤柳楯はこの後、昔は旧道バス通りを進み「魚虎」横にあった参道から飯香岡八幡宮に、現在は白金通りをすすんで正面参道から八幡宮に入る。

⑥五所バス停で小湊路線バス乗車、八幡宿駅、八幡公民館へ（１００円）
どうしてもという方は公民館まで徒歩１５分程度です。

＊バスダイヤ＝毎時０４分、２４分、４４分発

以上

五所小学校へ一直線

柳楯が行く

平成22年度　主催・共催事業一覧表

区分	事業名	部屋名・対象・人数	募集開始	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高齢者	中高年のためのすこやかカレッジ (全6回) 9:30～11:30	体育室・視聴覚室・館外 40名	3/18	地球温暖化 20日 (火)	「歌おう」 18日 (火)	筋力トレーニング 15 (火)	人権講話 20 (火)	地震対策 17 (火)		バス研修 6日 (水)					
高齢者	高齢者支援スポーツ教室 (全12回) 9:30～11:30	体育室 各40名	当日公民館へ	11 (日)	9 (日)	13 (日)	11 (日)	8 (日)	12 (日)	17 (日)	14 (日)	12 (日)	16 (日)	13 (日)	13 (日)
高齢者	シルバー歌謡教室 9:30～11:30	視聴覚室 各40名	5/18 9/18			21 (月)				4 (月)					
高齢者	健康体操(全２回) 13:30～１５：３０	体育室 50名	4/18		12, 26 (水)										
一般成人	緊急／救命教室 (全2回) ９：３０～１１：３０	和室 20名	4/18 9/18		7 (金)					8 (金)					
一般成人	お菓子教室 (全6回) ９：３０～１３：００	調理室 24名	4/18		20 (木)	3 (木)	1 (木)		2 (木)	7 (木)	4 (木)				
一般成人	大人の書道入門 (全6回) 9:30～11:30	研修室、会議室 24名	5/18		31 (月)	14 (月)	5, 12 (月)	2, 23 (月)							
一般成人	楽しい料理教室 プロから学ぶ中華料理 9:30～13:00	調理室 24名	8/18						24 (金)						
一般成人	楽しい料理教室 シェフから学ぶクリスマスのとっておきレシピ 9:30～13:00	調理室 24名	11/18									11 (土)			
一般成人	健康クッキング[全3回]9：30～13：00	調理室 24名	5/18			23 (水)	28 (水)	25 (水)							
一般成人	歴史散策 (全2回) ９：３０～１１：３０	視聴覚室 館外 40名	5/18			25, 29 (金)(火) ←29日はバス研修									
一般成人	太極拳体験(全6回) 9:30～11:30	体育室 50名	8/18						6, 27 (月)		8, 22, 29 (月)	6 (月)			
一般成人	古典文学教室 (全6回) 9:30～11:30	視聴覚室 42名	9/18							19 (火)	16 (火)	14 (火)	18 (火)	15 (火)	15 (火)
一般成人	郷土の歴史訪問 (全2回) 9:30～11:30	視聴覚室・館外 40名	9/18							27 (水)	バス研修、1日(月)				
一般成人	七宝焼体験 9:00～11:30	研修室 20名	1/18											21 (月)	

◎講師及びその他の都合により変更になる場合があります。
◎詳しい内容につきましては、広報「いちはら」毎月15日号、ホームページ、辰巳公民館内掲示板または窓口でご確認ください。

辰巳公民館　７４－８５２１

市教辰公　第１４－２４号
平成２２年　３月　１日

山岸　弘明　様

市原市立辰巳公民館
館長　　石井　武

平成２２年度辰巳公民館主催事業について（　依頼　）

早春の候、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
平成２１年度主催事業につきましては、熱心かつ丁寧なご指導を賜り、誠にありがとうございました。
　さて、本年度の主催事業を下記の通りに計画いたしました。
つきましては、公私ご多忙の折誠に恐縮に存じますが、主催事業の講師としてご指導くださいますようお願い申し上げます。

記

１　事業名　　歴史散策
　日時　　・平成２２年６月２５日（金）　視聴覚室で講義
　場所　　午前９時３０分～１１時３０分

　　・平成２２年６月２９日（火）　バス研修
　　午前８時３０分～１６時３０分
　内容　　江戸・東京歴史散策
　対象　　一般成人　４０名

２　事業名　　中高年のためのすこやかカレッジ
　日時　　・平成２２年１０月６日（水）バス研修
　　午前８時３０分～１６時３０分
　対象　　高齢者　４０名
　内容　　楽しいバスの旅

担当　　篠原　茂子　（７４－８５２１）

辰巳公民館主催事業　　歴　史　散　策

江戸・東京歴史散策

平成２２年６月２９日（火）　　バス研修

１．日程

辰巳公民館集合―辰巳公民館発―蘇我 I. C-湾岸市川 P. A―

8:35　　8:45　　トイレ休憩

首都高呉服橋 I. C―貨幣博物館―北の丸公園・皇居東御苑（昼食）―

10:30～11:30　　11:45～15:00

神田橋 I. C―湾岸幕張 P. A―蘇我 I. C―辰巳公民館着

トイレ休憩　　16:45

２．持ち物

飲み物、弁当、歩くのでその日の天候に注意して持ち物を考えてください。

昼食は、近くに科学技術館レストランもあります。

３．その他

参加できなくなったら、

早めに欠席することを公民館に知らせてください。

辰巳公民館　　７４－８５２１

※費用は、約５００円前後（公民館でバスから降りた所でいただきます。）

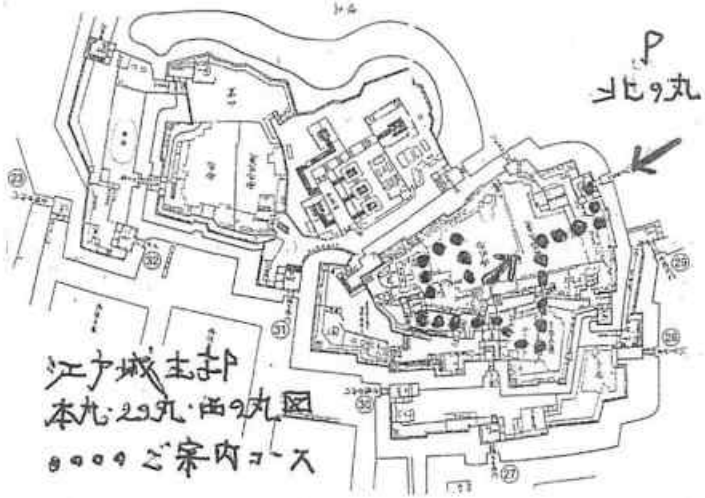
1－2

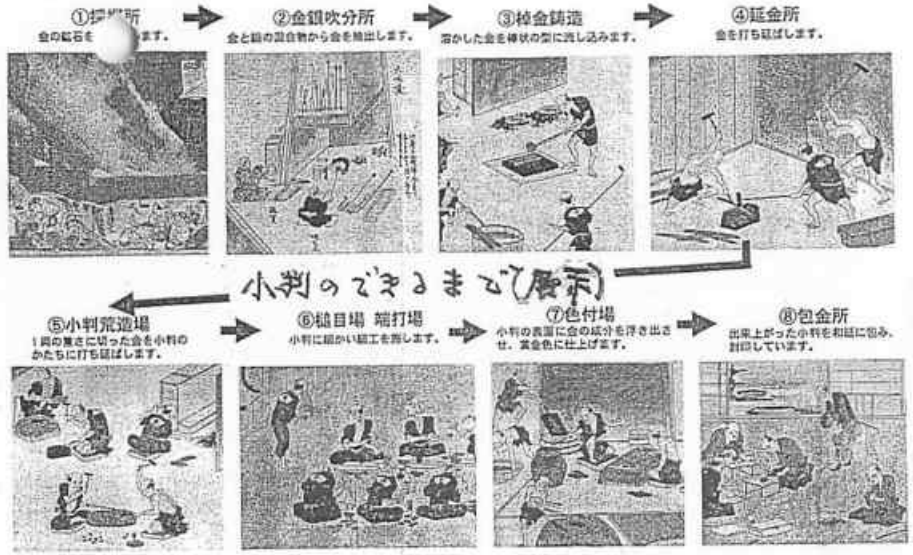
辰巳公民館主催事業「江戸・東京歴史散歩」
②バス研修＝貨幣博物館と江戸城を歩く

平成２２－６－２９

山岸弘明

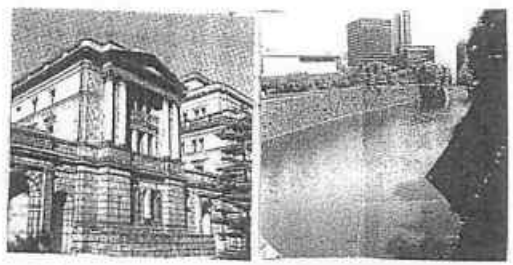
徳川幕府２６５年、将軍家とともに歴史を刻んだ日本最大の城「江戸城」

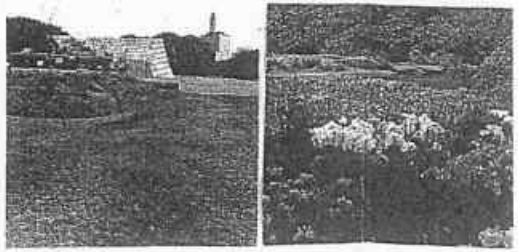


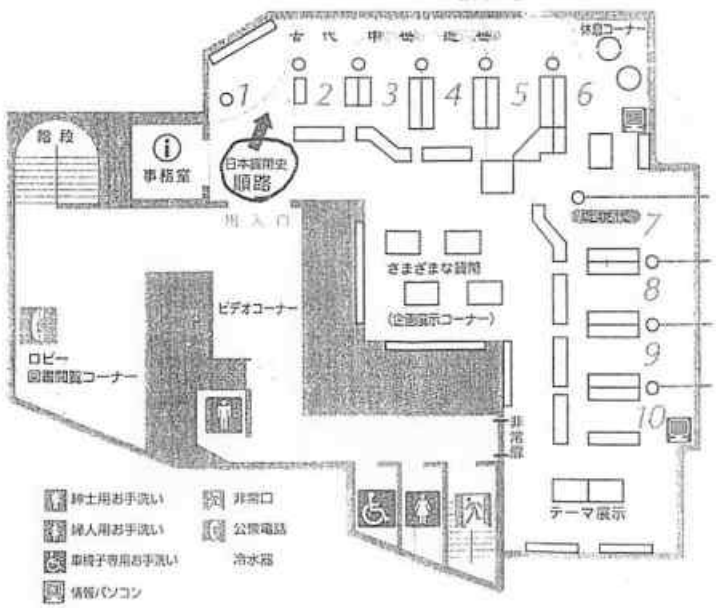


展示品から

辰巳公民館　８時４５分出発
蘇我インター、湾岸市川ＰＡ
首都高呉服橋ＩＣ
貨幣博物館　１０時３０分着、１１時３０分発
江戸城内堀沿いに移動
北の丸公園　１１時４５分着
昼食　　４５分間程度
江戸城北の丸清水御門
江戸城本丸、２の丸
北の丸公園　１５時００分発　　天候などによりコースと時間
辰巳公民館　１６時４５分着　　を変更することがあります







30分間
自由見学
←
貨幣博物館
配置図

昼食場所＝
弁当持参者（北の丸公園内の休憩所＝トイレ、自販機）
持参しない人（科学技術館レストラン）

本日のキーポイント
①ルネッサンス様式の洋館、明治を代表する傑作
②金座は小判を造り、銀座は銀貨を鋳造した
③大手は厳格・戦いの顔、からめ手は柔和・憩いの山里
④濠水は橋台の堰でオーバーフローして下へ下へ
⑤伊豆黒石と小豆島白石が石船で運ばれた
⑥石垣技術の頂点、江戸と大坂徳川城に極まる
⑦将軍以外男子禁制、お鈴廊下の先は３千人ハーレム

日本３名城＝①大きさの江戸城、②堅固さの大坂城、③美しさの姫路城

貨幣博物館とその周辺

1）金座跡に建つ重厚な明治洋館 —— 日本銀行本館

① バスは日本銀行本店で降車。ここでは日本銀行（外観だけ）と貨幣博物館を見学し、江戸城外堀の追手口・常盤橋御門と駿河町の三越本店、三井本館を遠望する。

② 日本銀行本館＝明治29年建造。赤坂迎賓館とならぶ明治中期洋館建築の傑作。「日本建築界の父」辰野金吾が設計したルネサンス様式＋ネオバロック様式建築で、明治の活気を伝える重厚な建築物として昭和49年重要文化財に指定された。

＊辰野金吾（1854－1919）＝工部大学校（現東大工学部）第１期生としてイギリス人技師コンドルに学んだ。海外留学後東大教授となり、明治の建築界の開拓、指導に大きな足跡を残した。代表作は日本銀行のほか東京駅、旧国技館など

＊ルネサンス様式＝14世紀の建築様式で宗教的意味の強いゴシック様式（高い塔など）を見直し、ギリシャ・ローマ様式を「再生」させた。その特徴は華美な装飾を廃した幾何学的なシンプルさで、直線、平面、正円が多様された

＊ネオバロック様式＝16世紀中期、宗教改革はかげりをみせ、ヨーロッパ各地で国王勢力が興隆すると、権力にふさわしい豪華で装飾的な新しい様式が求められた

③ 一見総石垣造り。地震や予算から断念、レンガ造りに瀬戸内海産の御影石を張る。

④ 正面は大障壁、高い壁に覆われて玄関は見えない。堅固な守りは城を彷彿させる。

⑤ 障壁の内側、石張りの中庭に面して旧館玄関がある。要予約だが、内部を一般公開しているので別の機会にどうぞ。

2）貨幣と金座の歴史が一堂に —— 日本銀行貨幣博物館

① 金座跡＝江戸幕府の金貨を独占的に製造した江戸の金座が日本銀行の本店にあった。

② 代々、御金改め役後藤家が管轄。金貨の製造、改鋳や検定、極印、包装を行った。

＊勘定奉行支配、江戸の本局のほか京都と佐渡に出張所を置いた

＊慶応４年、幕府崩壊にともない明治新政府に、明治２年造幣局に引き継がれた

③ 貨幣博物館では「日本の貨幣史」。貨幣の誕生、わが国最初の貨幣、戦国武将の貨幣、江戸時代の３貨制度、明治の円、日本銀行の誕生など。

＊見どころは和同開珎、天正大判、分銅、江戸時代の大判小判、枝銭、藩札など

さまざまな貨幣コーナーでは石貨や多角形の貨幣、１億円の重さ体験なども

＊自由見学３０分。時間厳守してください

3）惣構え外郭と丸内をわける石垣白壁が続いた —— 江戸城常盤御門跡（遠望）

① 太田道灌時代、江戸湊の中心で平川（日本橋川）河口、奥州道中口であった。

② 天正18年（1590）徳川家康の江戸入府時に架橋された江戸古橋の１つではじめ大橋、浅草橋ともいい、大手門に対する追手口とされた。

③ 寛永６年（1629）升形渡櫓門を築き明治６年撤去、石橋は明治10年の再建。周辺升形石垣一部が現存し、国の史跡に指定されている。

④ 日本橋川は元外堀で石垣は慶長11年にはじまる第１期工事で築いた。その後数次にわたって石の積み替えられたが一部は現存している。

＊現在の日本橋川は高速環状線に沿って左折するが、江戸時代は東京駅前を直進する外堀と皇居前に通じる道三濠と変形交差する４差水路になっていた。

⑤ 日本橋川と外堀通りは石垣上に城壁が連なり、丸の内と一線を画した。

＊外堀通りには水濠と高さ５ｍほどの石垣白壁が有楽町まで続いた

4）日本最初の百貨店とコリント列柱のアメリカ式銀行ビル —— 駿河町建造物群

① 三越本店と三井本館間の通りを駿河町といい、江戸城越しに富士山が望めたという。

② もと越後屋の三越＝伊勢松阪出身の三井八郎右衛門高利が天和３年（1683）この地で呉服店・越後屋を開き「現金かけ値なし」の新商法で大当たりをとった。のち金融業に進出、三井コンツェルンの基を築いた。屋号は先祖の越後守にちなむとする。

③ 三越本店＝大正３年日本最初の百貨店建築として誕生、わが国最初のエスカレーターと吹き抜け階段が話題を呼び「今日は帝劇、明日は三越」の流行語を生んだ。関東大震災で焼失。現在の建物は昭和２年。入り口の「ライオン像」と中央ホールなど見どころが多い。国重要文化財。欧州古典建築を範にした過剰ぎみの装飾も楽しい。

④ 三井本館＝昭和４年、ニューヨークの建築会社が設計、施工した本格的アメリカ式の銀行建築。１、２階通しのコリント式列柱は重厚。内装もみごとだが外観だけ。

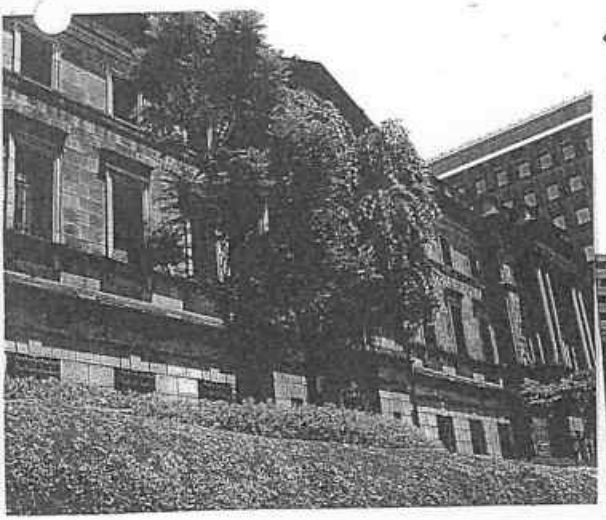
5）江戸城大手濠の石垣を眺めながら内堀沿いに北の丸公園へ

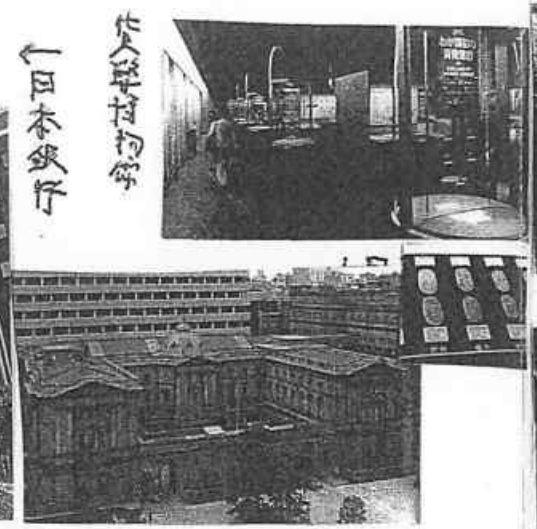
① バス乗車、大手町から江戸城内堀の大手濠へ出る。かつて重臣邸が続いた。

＊三井物産＝酒井雅楽頭邸跡（６人の大老を出した＝いまはカルガモで有名）

＊気象庁、丸紅本社＝御三卿・徳川一ツ橋邸跡（最後の将軍・慶喜）

③ 大手濠は石垣が連なる。表面（大手側）は厳しい戦いの城、一方の裏面（からめ手）は柔和、緑いっぱいの土の城。変化に注目。





3）「四神相応」の都市計画 —— 関東支配地としての江戸城

① 天正18年（1590）豊臣秀吉の小田原攻略で北条氏を滅亡、関東の250万石は徳川家康に与えられた。家康の江戸入りから「江戸開府」までの江戸城は関東支配地としての城作りで、家康はここに「四神相応」の都市計画原理を進める。

＊秀吉の狙いは勢力削減にあったが、家康はむしろ新しい支配体制を築く好機と前向きに捕らえていた。その立地に加え、江戸が海運の拠点港として芽生え、経済の中心地に成長しようとしてもいた。家康の先見性が際立ったといえる

＊城の前面は海（日比谷入り江）、銀座に江戸前島という半島が突き出していた。一帯は葦の生え茂る海岸沿いの１寒村であった

＊「いかにも粗相」、石垣はなく芝土居は木や竹が茂るなど荒廃していた（石川正西聞見記）、すでに道灌時代の面影はなかった

② 当時、安土城、大坂城など水濠、石垣、天守の近世巨大城郭技術が定着していた。家康は当面「土の小城」に甘んじる一方、胸中に１大城造り構想があった。

＊家康は以前に浜松城と駿府城を築城、駿府は改変が激しいが、浜松は実戦的な遺構を伝えている。天守は家康が上げ、現存天守台は幕末に積み直された

4）日本の城造り技術を結集 —— 「天下普請」で覇城が完成

① 幕府首府としての江戸城＝
慶長５年（1600）関が原の合戦勝利。８年征夷大将軍に就任、江戸幕府成立
家康はこの機を待っていたかのように大規模な江戸城工事に着手。

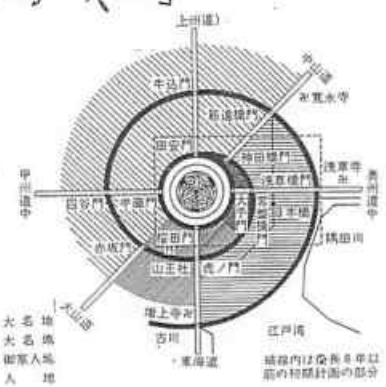
②、「四神相応」の原理を「のの字の拡張」に修正。

＊「の」の字のように渦巻き状に堀を発展させること
世界を例をみない拡大のスパイラルフロー

③ 「天下普請」による第１次江戸城工事（慶長９年～11年）＝
日比谷入り江を埋め立て、城地と城下を拡大。
本丸、２の丸、３の丸、西の丸、北の丸（吹上を含む）、西の丸下、大手郭、丸の内（大名小路）の縄張りを確定し、総石垣造り（当初は低い石積み）とする。

＊石垣工事は池田輝政、福島正則、加藤清正、毛利秀就、加藤嘉明、蜂須賀家政、細川忠興、黒田長政、浅野幸長、鍋島勝茂、山内一豊ら28家、それぞれ10万石に付き 100人持ち石 1,120こ、この時集められた石材は合計59,360こ（東京市史稿）

家康の江戸城工事



家康入府時の江戸

譜代大名地
外様大名地
旗本・御家人地
町人地

（後藤四八郎社蔵）

＊角石12、長さ８[illegible]り７寸の間、幅厚さ３尺、角脇石12、長さ５尺、６尺の内外、幅厚さ３尺、幅は２尺５寸にても苦しからず（黒田長政家文書）

＊伊豆東海岸に独自の石切り丁場を作り、石船で江戸へ運んだ。後に一部を瀬戸内の小豆島からも運んだ、大石が取れ天守台や中の門などに現存している

＊本丸、２の丸、３の丸、西の丸御殿などを建造。天守閣、各種櫓を造営

＊大名に「人質」のため邸地を与え参勤を促す。

④ 以降毎年のように天下普請による江戸城工事を繰り返す

⑤ ３代将軍家光による江戸城総構え工事（寛永13年）＝30年がかりで江戸城が完成
「武家諸法度」を強化、鎖国、幕府基盤（幕藩体制）を確立。

＊大規模な修復工事、外堀を築き、諸門を升形門に整備、天守閣の建て直しなど

5）石積み技術の傑作 —— 算木組やソリ、打ち込みから切り込み積みへ

① 江戸城最大のみどころは城を取り囲む幅広い水濠と大手側堅固な石垣、からめ手側の芝土居にあるといってもよいだろう。

＊今回見学地の牛が淵の緑や、北はね橋高石垣の景観には感動的な美しさがある

＊城は防御のために築いた軍事上の構造物をいい、石垣は最強の防御設備だが、高々と連なる石垣に接する度に、高度な築造技術に圧倒される

② 石垣技術の歴史は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と３人の「天下人」に引き継がれた「天下普請」の技術コンクールにあった。

＊天下普請は諸大名に命じた助役（すけやく）をいう。小刻みの受け持ち作業は、担当大名のメンツと「穴太（あのう）衆」（石積み職人）の激しい技術競争心を産み、石切り、石材の輸送（海陸）、石積みなどの技術革新とその共有化が進んだ

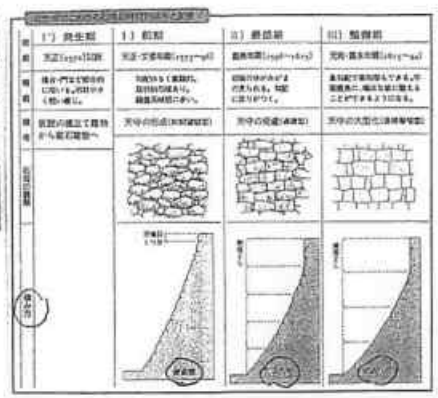
＊慶長元年「慶長の役」勝利を信じた秀吉が民皇帝の使者を迎えるため建築中だった伏見城が直下型大地震で崩壊、反省の上にコーナー部の算木組、石垣勾配のソリが誕生。城郭史上の一大転機になった

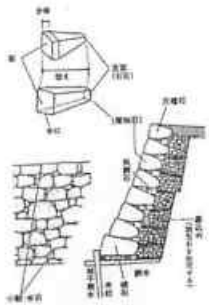
③ 江戸城石垣は徳川大坂城、名古屋城とともに石垣技術の最高峰といえる。
江戸城や大坂、名古屋城など「天下普請の城」の大半は藤堂高虎が縄張りを担当した。

＊高虎は柴田勝家と「信長の両腕」とされた築城の名手・丹羽長秀のシンパとノウハウを継承。豊臣包囲網、徳川家とその一門の城を相次いで築いた

＊高虎の縄張りは単純明快な平城、壮大な方形輪郭式に作る。火縄銃を意識して水濠を広げ高石垣を連ねて天守や櫓をあげ、大手は厳粛な升形櫓門を配した

↑藤堂高虎
（藤堂高正氏蔵）
城の縄張にかけて当時の第一人者。家康に乞われて江戸城の縄張も手がける。





石垣

算木組

「石垣の図」（『慶長史料編』より）

（加藤清正ゆかりの図）（『加藤清正ゆかりの図』）

熊本城石垣　加藤清正が作った橋台

6）天守は家康と秀忠、家光が築き、２つは台だけに終わった ―― 吉宗の現存天守台

① 天守は城の象徴で、姫路城や松本城、彦根城、犬山城の国宝天守に人気が集まる。
かつて江戸城にも天守閣があった。

② 慶長度天守（家康、秀忠＝層塔型）天守台20m、総高80m。史上最大の天守閣。
元和度天守（秀忠＝〃　）天守台13m、総高70m。本丸拡大のため現在地に建造
寛永度天守（家光＝〃　）天守台13m、総高64m。華麗に作り替え
明暦度天守台（家綱）　　将軍後見役松平正之の反対で天守建造に至らず

③ 享保度天守台（吉宗＝現存）高さ12.7m。小豆島白御影石、加賀前田家。
吉宗自らが進めた「享保の改革」で言いだせず、天守の建造を見送った。

④ 家光の天守は、５重６階、小天守付き、連立式。銅瓦葺き入母屋屋根、シャチ、飾り破風多数、江戸城下を睥睨（へいげい）したが、明暦の大火で焼失。

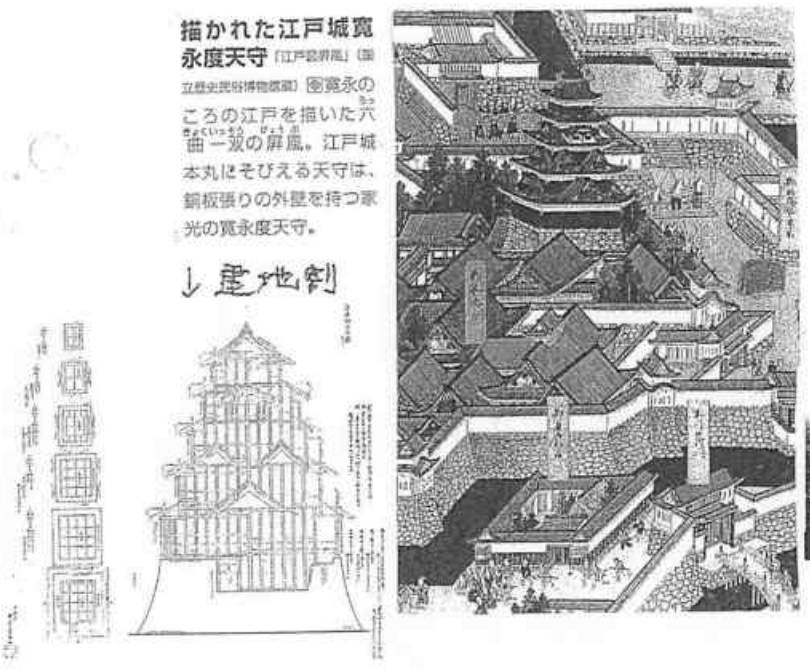
⑤ 層塔型＝寺院の五重塔が原型で大きくした。
江戸時代「家康天下普請」の主流、石垣技術の向上と銅瓦使用による軽量化。
一定の低減率で上に行くほど狭まる。高層が容易で外観が美しい。白漆喰も可能に。
＊豊臣時代の望楼型黒に対し、徳川の白い城（天守）という

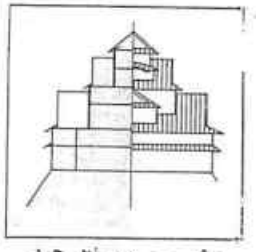
⑥ 望楼型＝入母屋作りの母屋の上に望楼をのせる。城主の居住区を持つものをとくに「古式望楼型」という。（前出太田道灌江戸城参考図参照）
＊一般に信長の安土城を第１号とする。現存では丸岡城が最古で天正４年、国宝の犬山城は慶長６年に建造されている。

7）本丸御殿は５度燃え７度建てた ―― 江戸城の歴史は「火事の記録」

① 慶長建造の第１次本丸殿舎は寛永16年大雨の日に出火、梁上に燃えあがった火の粉は必死の掛け水をあざ笑うように殿中に広がった。
＊本丸御殿は玄関、台所、大広間、白書院、黒書院、中奥、大奥と大建築が連なったので、いったん火災になると歯止めなく類焼した

② 寛永17年贅をきわめた「寛永度殿舎」を竣工させるが「明暦大火」で焼失。
「万治度殿舎」は 187年間焼けなかったので綱吉以下の９将軍が居住した。





③ 江戸後期は不審火多かった。「弘化度殿舎」は安政６年、最後の「万延度殿舎」も３年後の文久３年、２の丸御殿とともに燃えた。幕末幕府政治コントンの時代、付け火のウワサがとんで将軍の食事は紀伊からしたがった老女が作った。当時、３の丸、西の丸殿舎はなく、清水、田安邸を転々とした後、西の丸に仮御殿を築いて本丸機能を移した。以後、本丸御殿が再建されることはなかった。
＊弘化度殿舎建設費＝１万１千坪 175万両。坪単価 159両

④ 明治元年５月江戸城は無血開城、明治天皇を迎えて旧西の丸が皇居となった。

貨幣博物館とその周辺

1）巨大な町人町を取り込んだ城 ―― 総構え、外郭の町割り

① 「総構え」は町人町を城内に取り込んだ縄張りをいう。
防御上の地形によるが、籠城時の自給自足対策ともいえる。
＊総構えは小田原、佐倉、土浦、岩槻など関東地方にも多くみられる

② 江戸城外郭にあたる中央区が総構えで、日本橋を中心とした「５街道」に沿って町家が作られた。

③ 町割りは京間（１間２ｍ）60間四方の正方形街区を碁盤目に区画し、３等分した道路側を町家に、残った20間四方を会所地（入り会い、共有地）とした。
町名は街区ではなく道路の両側の町屋敷とした。
＊江戸は「八百八町」どころか最大 1,719町、人口 130万人をかぞえた（江戸総数）
＊会所地ははじめ排水場やゴミ捨て場であったが、のち私有化が進んで「裏長屋」が建った。享保以降「裏長屋」は庶民の町として定着した
＊寛永図で、町割りと会所地を確認。昨年の講座は裏長屋を中心とした

2）お江戸日本橋七つ立ち ―― 日本橋の繁栄と歩み

① 徳川家康入府当時の日本橋周辺は日比谷入江海岸砂浜でアシが茂る湿地帯であった。

② 慶長８年（1603）徳川幕府が成立すると、幕府は江戸城の第１期工事の資材輸送路として平川を延長した掘割り（運河）を築いて木橋をかけた。だれゆうとなく日本橋、掘割りを日本橋川と呼んだ。

③ 翌9年幕府は日本橋を「5街道」の基点と定め、街道沿い1里 に一里塚を設けた。
④ 日本橋は「お江戸日本橋七つ（午前4時ころ）立ち」で知られるように、朝早くから旅立つ人や参勤交代の江戸立ち、江戸入りの地として江戸随一の賑わいをみせた。
＊日本橋の中央に「日本国道路元標」が埋め込まれている
⑤ 橋の東側一帯は「日本橋魚河岸跡」で 100mほど離れた江戸橋袂に「木更津河岸」もあった。家康の「大坂の陣」に協力した木更津漁師が特権を認められていた。

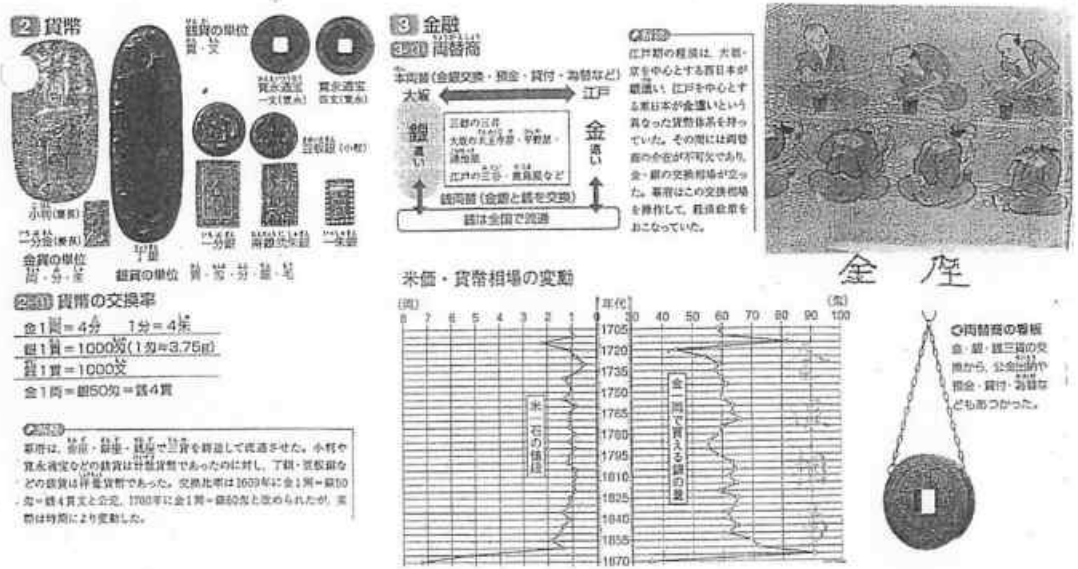
3）現金掛け値なし —— 駿河町、両替町の繁栄

① 次回バス研修地の日本銀行本店は「幕府金座跡」で江戸時代は本両替町、駿河町、本町1丁目、室町2、3丁目など、江戸の経済の中心地であった。
＊駿河町の名は富士山がみえる景勝の地に因んだ。その景色は安藤広重の錦絵などに伝わる。江戸時代西側の本両替町とともに両替町とも呼ばれた
③ 三越本館の一画に江戸の代表的呉服商三井越後屋があった。
伊勢松阪出身の三井高利が天和3年（1683）この地で呉服屋「越後屋」を開き、「現銀（金）懸け値なし」の新商法で急速の発展した。貞享4年（1687）幕府呉服所となり、両替商を営むなど経営を多角化してのちに三井コンツェルンの基を築いた。

4）大判や小判を鋳造した —— 金座はいま日本銀行本店に

① 「金座」は江戸時代、大判、小判、二分金などの金貨、銀座は銀貨の鋳造所をいう。
＊幕府の貨幣制度は金銀複本位制で銭貨を含めた「三貨制度」であった
東日本は主として金遣い（金貨）が、西日本や日本海側では銀遣いが主流を占めた
② 慶長6年後藤庄三郎が「金座役」を命ぜられ、後藤家が代々元締めを勤めた。
＊金座は勘定奉行支配下で、金貨の鋳造や検定、極印、包装を行なった
③ 江戸中期以降、金銀の採掘量が減少と、経済規模の拡大、幕府財政の困窮に対応するため貨幣改鋳を繰り返した。
＊改鋳はそれまでの貨幣を回収し、新たな貨幣に作り変えることだが、現実には金銀の含有量を減らし、出目を得ることで幕府財政に充てた。たび重なる改悪は貨幣としての信用を失い、庶民はインフレに泣いた
④ 金座周辺には幕府公金の為替、出納、一般の預金、貸し付けを行なう両替商が軒を並べた。

以上

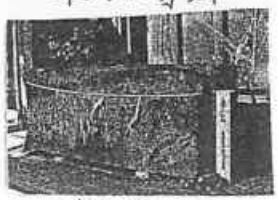


大坂城石垣石切丁場跡（江戸城）

【香川県小豆島町】

No. 43

修復用の巨石 海路を運搬 西国大名が負担



早川丁場跡

夏の陣の後で

船路からのフェリーが、小豆島の東玄関、福田港に近づくと、正面に大きな山が迫ってくる。やがて緑の山の中腹が、縦横百メートル以上もえぐられ、地肌を白く晒しているのがわかる。採石場である。映画「二十四の瞳」やオリーブで知られる小豆島は、じつは古くから石材の産地でもある。

港から国道沿いの国道を南に七キロ、切り立った山がそのまま海に落ち込むような、険しい絶壁地帯となる。小豆島町の岩谷地区だ。ここには江戸時代初期、大坂城の石垣用の石を切り出した丁場と呼ん[illegible]作業場がそのまま現存し史跡になっている。

一六一五（元和元）年の大坂夏の陣。徳川方の攻撃で大坂城は[illegible]の陣。徳川方の攻撃で大坂城は徹底的に破壊された。戦後、幕府はその修復のため石垣用の石の調達を西国大名に命令。工期は元和から寛永年間の[illegible]は十年に及んだ。大坂城の石垣の石は、一説によると五十万個。徳川周辺の生駒や六甲とともに、瀬戸内の島々から調達された。ことに小豆島は天領で良質な花崗岩に恵まれ、海路の運搬に便利だった。全島ではか地区に丁場跡があり、それぞれ伊藤大名が管轄した。

岩谷地区には六つの丁場がある。その一つ、天狗谷丁場。急な小道を登ると切り取られた、高さが一メートル、長さが数いもある花崗岩が散在する。最終的に加工する前の粗石だ。その角には石切用の鏨の跡が切り口深く残る。

さらに登ると、五、六メートル以上もある巨岩が立ちはだかる。天狗岩だ。その先に幅十数メートル以上はありそうな岩が横たわる。中央部にまっすぐ鏨で切り込んだ跡が残る。

国道のすぐ海寄りにある八人石丁場。高さ四メートル、長さ六・五メートルの巨石があり、そばにはほぼ同じ石が立つ。切り出し作業中に巨石が真っ二つに割れ、八人の石工が下敷きになり圧死したと伝えられる。いまだに鏨跡が生々しい。この巨石、八十トン以上と推定される。

多数の残石

切り出したものの大坂まで運ばれなかった残石も多数。この岩谷だけで千六百十二個を数える。岩谷の反対側、島の北西部にある土庄町小瀬。ここにも丁場があったが、防波堤上に五、六百の石が四十個ほど並ぶ。積み残されて放置されたもので、人々は「残念石」と呼ぶ。いまでは公園のモニュメントだ。残石の側面には丸や四角などの刻印がある。昔藩を担当した大名か、石工の納入印と見られ、岩谷では残石のうち二百一個に、四十種類の刻印がついている。

鏨の跡がはっきり残る天狗岩丁場の巨石

それにしても搬出、輸送は大変な作業だったに違いない。大坂まで直線でも百キロ以上の海路を、どのように何日かけて運んだのか。「筏に載せた」「筏の下に吊り下げた」「二隻の船に操舵をかけて運んだ」など諸説あるが、昔藩大名が機密として持ち帰ったためか、地元に記録が見当たらない。

元高校教師で郷土史に詳しい中村利夫氏は「筏ではなかなか進めないでしょう。田平船という底が浅く平らな船がよく使われたようです。当時、大坂・高松間は最速でも三昼夜かかったので、石ならそれ以上かかったでしょう」と見る。機械がない時代、知恵と労力が巨石を動かしたのである。

辰巳公民館主催事業「江戸・東京歴史散歩」

①6月２５日（金曜）＝江戸城とその城下
②6月２９日（火曜）＝バス研修＝貨幣博物館と江戸城を歩く

平成２２－６－２５

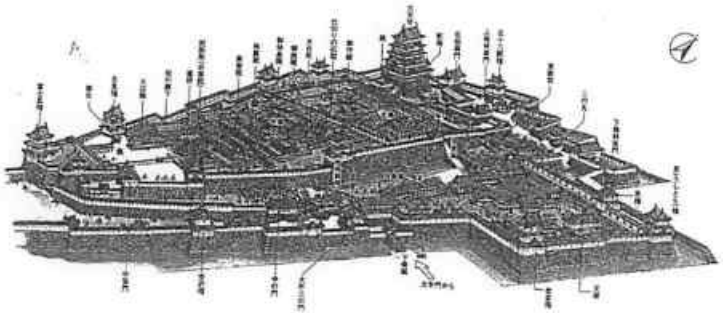
山岸弘明

江戸に幕府を開いた「天下人」徳川家康、「日本１の超巨 大城郭」江戸城址を歩く

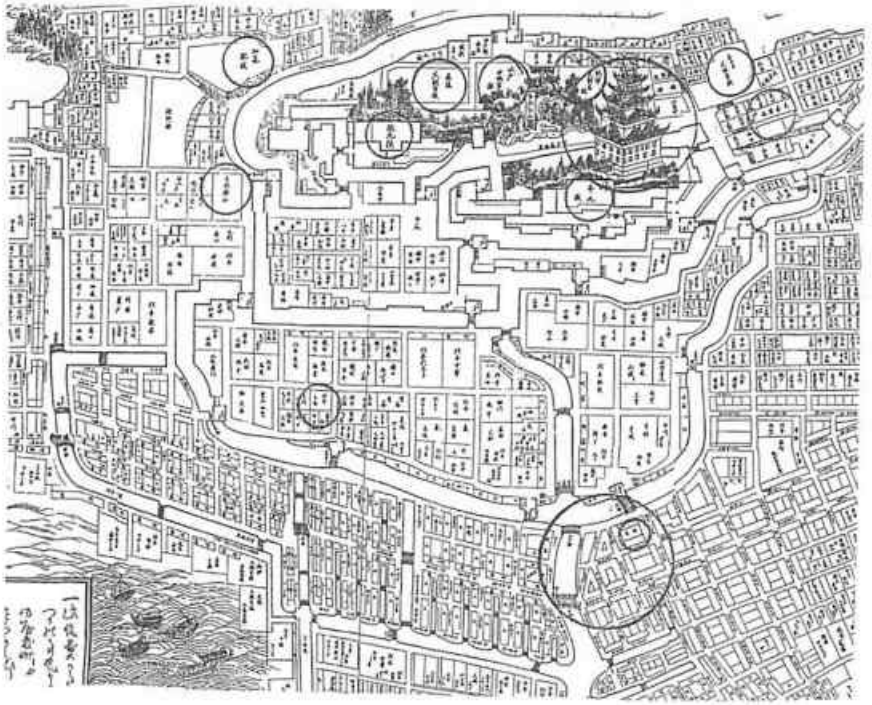
太田道灌

徳川家康

家光



寛永時代の江戸城



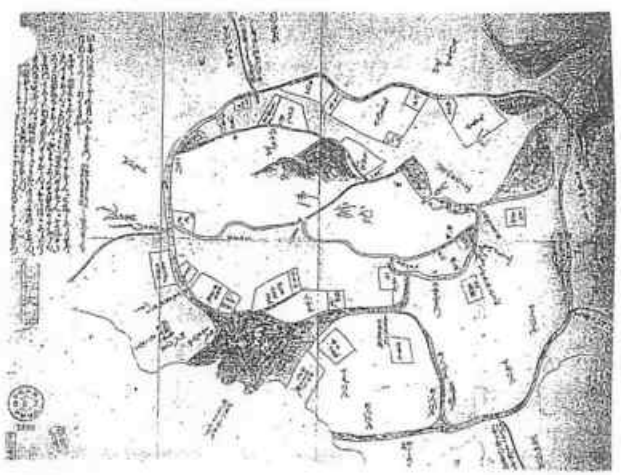
「城」は「土から成る」と書く。元々は地面を堀り、土を盛って囲んだ防御施設を云った。
戦乱の時代は「難攻不落」の山城が多かったが、豊臣秀吉の天下統一以後、政治、経済、文化の中心地としての平城が普及し、徳川家康が勝利した「関が原の合戦」後、「慶長の築城ラッシュ」が最盛期となった。城は絢爛きらびやかに飾られ、権威の象徴として全国に展開していった。

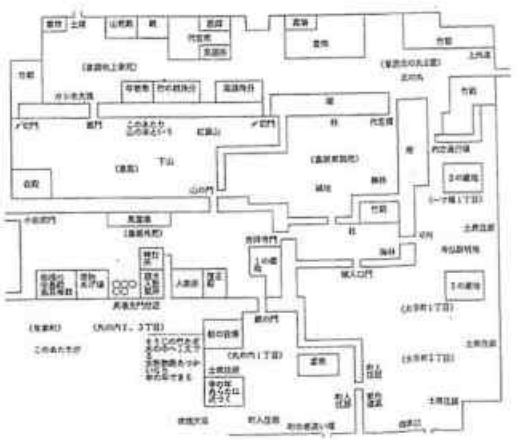
＊

江戸城は「天下人」となった徳川家康が諸大名に命じた「天下普請」で築城、日本の政治の中心地にふさわしい「日本一の名城」であった。黄金に輝く５重６階の巨大天守がさんぜんと輝き、１万１千坪におよぶ本丸御殿のほか、２の丸、西の丸などにも豪華な御殿建築を連ねた。
文字どおり「天下の覇城」、全国から集まった諸大名が「大広間」にひれ伏して、将軍に謁見した。

＊

家康、秀忠以下歴代将軍が居住した表御殿と中奥、篤姫や皇女和宮が起居した大奥、最後の江戸城本丸御殿が焼失した文久３年からおよそ 150年たったいま、跡地は皇居東御苑の洋風芝生庭園で、青い目の外国人観光客が目立つ。改めて家康と同じ土地を踏めしめながら江戸城の歴史を振り返るのも楽しいのではないだろうか。次回バス研修で巡る「江戸城」、本講座はその概要と見どころなどを探る。





「四神相応」から「の」の字に拡張した世界最大の「人口１００万都市」

華麗な元禄時代の「江戸大絵図」 ―― 江戸城と江戸を知るために

① 慶長７年（1602）江戸図＝東京都立中央図書館蔵書
徳川家康の江戸入府、関が原の合戦直後の江戸を描く。御城地は曲線で天然の要害を利用した中世の丘城縄張りが窺える。日比谷入り江や江戸前島、江戸城工事の石材輸送に利用された道三堀も描かれている。

② 寛永９年（1632）武州豊島郡江戸庄図＝東京都立中央図書館蔵書
江戸はじめ３代将軍家光代、本丸に天守閣、吹上御苑に御三家、北の丸公園に家光の実弟で切腹させられることになる徳川忠長、千姫、春日局邸などが描かれている。

③ 元禄２年（1687）江戸図鑑網図（複製＝掲示）版元・相模屋、作者・石川流宣
５代将軍綱吉代、江戸がもっとも輝いた時代の華麗な江戸図
天下太平の象徴「元禄文化」の頂点に立った綱吉は学問の奨励や幕政刷新を行なうが一方で「生類憐れみの令」を出して「犬公方」とも呼ばれた。支出増で幕府財政が破綻、庶民は悪法に苦しみ、物価高騰、富士山の大噴火などの天災、飢饉に泣いた。

④ 天保元年（1830）分間懐宝御江戸絵図（オリジナル＝掲示）＝須原屋茂兵衛
11代将軍家斉代（大御所時代）、側室16人、子女54人、政治を省みず大奥での奢侈生活を繰り広げた。

1）いまの千代田区と中央区全部が江戸城だった —— 昨年の復習

① 主郭部分（狭義の江戸城）

＊本丸（皇居東御苑＝将軍官邸。幕府政庁、将軍住居、家族住居）	0．19㎢
2の丸（〃　　＝将軍嫡子御殿、本丸予備邸）	0．12
3の丸（〃　　＝予備御殿、厩）	0．13
西の丸（皇居　　＝先代将軍隠居御殿）	0．33
吹上　（吹上御庭＝庭園）	0．69
北の丸（北の丸公園＝御三卿田安、清水家上屋敷）	0．34

② 内郭（準主郭）

＊西の丸下（皇居外苑＝幕閣官舎）
大手前（譜代重臣上屋敷）
丸の内（大名上屋敷）

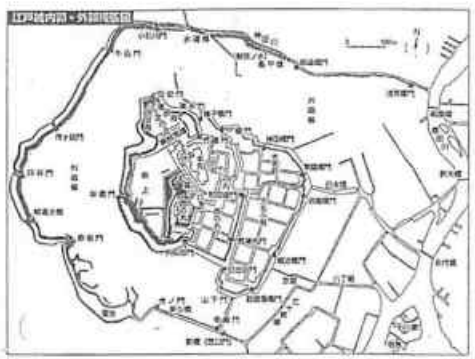
③ 外郭（惣構え）

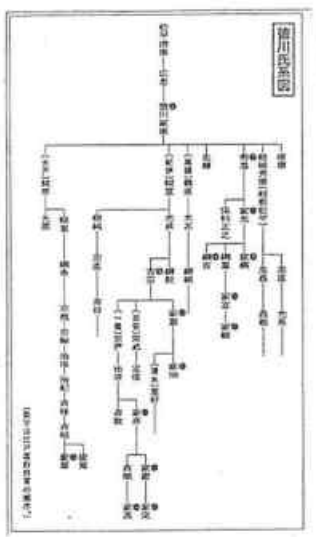
＊外桜田、霞が関、永田町（外様、譜代大名家上屋敷）
番町、九段（旗本家屋敷）
神田、日本橋、銀座、新橋（大名家屋敷、町家下町）

④ 江戸城の範囲

＊北はＪＲ中央線、浅草橋→秋葉原→水道橋→飯田橋→市ヶ谷→四谷
南は外堀通り、赤坂見附→溜め池→虎の門→新橋→浜離宮庭園まで
東は墨田川（江戸湾）まで千代田区、中央区すべて

⑤ 昨年は江戸城と庶民の生活「裏長屋」を中心とした。
今回は江戸城の詳細と経済の中心地日本橋周辺にスポットを当てる。





1 江戸関連略年表

1590	徳川家康、江戸に入府
1600	家康、金山で小判を鋳造させる
1603	家康、征夷大将軍に任じられる
1604	日本橋を起点に街道の整備が始まる
1612	銀座を駿府より江戸へ移す
1635	参勤交代制が定められる
1636	東海道の整備を開始
1654	玉川上水の完成
1657	明暦の大火（振袖火事）
1673	三井高利、呉服に兵庫店を開店
1682	八百屋お七の火事
1685	生類憐みの令が出る（～1709）
1690	湯島聖堂を建設
1694	千組飛脚が結成される
1701	浅野内匠頭が城中で刃傷におよぶ
1707	富士山噴火。江戸にも降灰
1717	大岡忠相、町奉行に任じられる
1718	防火隣が設置される
1719	相対替し令が出る
1721	目安箱が設置される
1722	小石川養生所が設置される
1783	浅間山噴火。江戸にも降灰
1787	打ちこわしが起こる
1789	寛政令が出る
1790	人足寄場が設置される
1793	昌平坂学問所が設置される
1818	御府内備考が作成
1841	株仲間が解散される
1853	ペリーが浦賀へ来航する
1855	蕃書調所が設置される
	講武所が設置される
1860	桜田門外の変
1866	打ちこわしが起こる
1867	大政奉還
1868（明治1）	官軍に江戸城を明け渡す 戊辰戦争、江戸を東京と改称

将軍宣下

登城

江戸城へ入る明治天皇（明治神宮聖徳記念絵画館）
一つのプロパガンダ（ストーリーを作ること）で、十分な効果を考えたものであったようにも思われる。

2）はじめに江戸氏と太田道灌あり —— 江戸城の徳川前史

① 江戸氏の江戸館＝江戸氏は桓武天皇の曾孫高望王からはじまる「板東八平氏」の分流。重継が12世紀半ば（平安末期→鎌倉はじめ）日比谷入り江の戸口にあたる江戸に居館を構えて江戸四郎を称した。

＊のちの江戸城本丸の地とされる。麹町台地平川側（舌状台地）先端部に立地、天然の要害でもあった。城郷張りは鎌倉時代の方形館と考えられるが不詳

＊江戸氏は14世紀中ごろ、南北朝の争いを契機に衰退する

② 太田道灌の江戸城＝鎌倉公方（古河公方）×関東管領家、室町幕府の対立は永享の乱（1438）、享徳の乱（1454）以降戦国時代となる。管領扇谷上杉方の道灌は豊島氏の所領江戸に侵略して長禄元年（1457）に江戸城を築いた。道灌は江戸を拠点に関東各地に戦って勝利し、居城・江戸城の名は関八州はもちろん、遠く京都になりひびいた。

＊関東は利根川（隅田川）を境に南が管領方、北は古河公方方に２分された

＊武蔵、相模、上野三州の安危は武の一州にかかり、武州の安危は江戸城にかかる
わが庵は松原つづき海近く　富士の高嶺を軒端にぞみる

＊道灌の活躍で扇谷家は管領山内上杉家をしのぐ勢いとなったが、文明18年（1486）讒言（ざんげん）に乗った主人上杉定正に謀殺された

③ 万里集九「静勝軒銘詩並序」のよる文明年間の江戸城＝
集九は京都五山の詩僧。応仁の乱後京都の混乱をさけ諸国を回り、江戸へ来る。

＊本丸「静勝軒」に滞在し、江戸城の詳細を記録。城は子城、中城、外城の３つの曲輪、20余の石門、飛橋、懸崖（切岸）、静勝軒や道灌の文業などを

＊静勝軒は３重、参考図は母屋に望楼を乗せた「望楼型天守」を記すが、時代としては苦しい。金閣、銀閣寺に代表される宝形造り楼閣（御亭）の城郭への利用と考えたい

④ 道灌の死後、山内、扇谷両家は対立し争闘に明け暮れる。

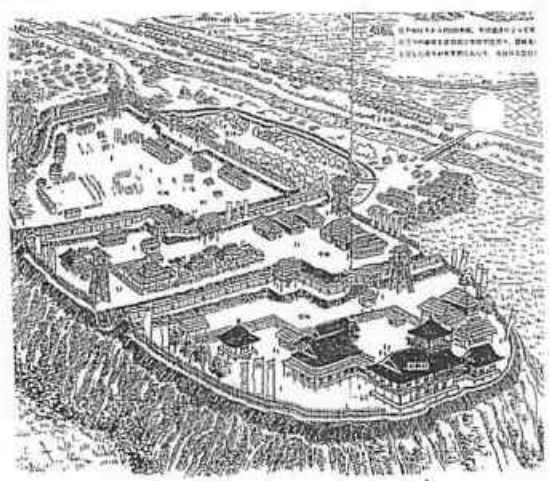
⑤ その間、西から関東へ進出した北条早雲の子氏綱が、大永４年（1524）扇谷家を破って江戸城に奪取、北条氏は遠山氏などを城代として守らせた。

＊北条氏は氏康、氏政と関東全域に勢力を延ばした。八幡、辰巳など市原市の多くは北条領で、千葉氏の重臣・小弓城原氏の支配下にあった

⑥ 天正18年（1890）豊臣秀吉の「小田原攻略」では主力部隊を小田原に集結し、江戸は戦闘体制が取れず戦うことなく開城。

＊小弓城や市原の諸城もほぼ無抵抗のまま開城された

城宮の中に燕室あり、静勝と曰ふ。西を含雪と為す。重々の窓櫺を秀貫して、戸は巧みと径り、三二尺の円窠を穿つ。円窠ノ中に千万仞の富士を望む（釈万里）



太田道灌の江戸城

北の丸公園と皇居東御苑

1）江戸城御三卿御殿跡で降車、昼食 —— 北の丸公園

① 北の丸は江戸城主郭の１つで本丸北側に立地する。

② 家康の江戸入府時は城外、慶長12年の第１次江戸城工事で、九段との間にあった千鳥が淵からの平川支流を掘り下げ水濠とし、石垣を築いて江戸城に組み入れた。

③ 御三卿徳川田安家御殿（上屋敷）跡（北の丸の西側半分13,841坪）
８代将軍吉宗の２男宗武を初代とする。９代を継承した兄家重病弱のため、心配した吉宗が田安、一つ橋、清水の御三卿を作り、将軍家の予備血統とした
＊御三卿は将軍家族待遇、10万石で家臣は旗本が任じられた
＊幕末の慶頼は13代家重、14代家茂を後見、明治維新の当主家達は、慶応４年鳥羽伏見の戦いに敗れた15代慶喜を継いで静岡70万石となった

④ 御三卿徳川清水家御殿（上屋敷）跡（北の丸の東側半分12,987坪）
９代将軍家重の２男重好からはじまる。
＊将軍家茂の養母として大奥にあった篤姫は文久３年の火災で一時２の丸から移る
＊明治維新江戸開城のとき、家茂御台所の皇女和宮も仮住居とした

2）江戸城からめ手の守り —— 重要文化財・江戸城清水御門

① 御三卿清水家正門。田安門、桜田門とともに国指定重要文化財。
＊寛永６年升形門を築き維新後に升形、渡櫓門を撤去、昭和38年旧材で復元

② 門上高台で「からめ手守り」を見下ろし、坂虎口から、升形門、橋台を回る
＊牛が淵、清水濠＝源泉は牛が淵の湧き水、橋台の堰でオーバーフローさせて下の濠へ。大手濠、和田倉濠をへて竜の口、外濠、江戸湾へ
＊渡櫓門＝石垣上に渡櫓、１階は通路で２階は射場、太い主柱と梁、釣り金具銘に注目

③ 牛が淵の景観＝濠水と土塁の緑、赤レンガの九段会館。みごとなコントラスト。周辺は桜の名所として賑わう。

3）いきなり息を飲む大迫力 —— 本丸内濠、北はね橋御門と周辺石垣（現存）

① 高石垣に深い濠底、思わず息を呑む大迫力。高さおよそ20m。江戸城でもっとも堅固な本丸からめ手の守り、壮大重厚、権力の象徴。庶民の血と汗がにじむ。
＊江戸入り当初は小川、慶長13年第１次江戸城工事で濠を刻み石垣を積む。刻印は担当者の目印。一見して10こ以上が判る。「天下普請」の象徴
＊打ち込みハギ（慶長技術）、切り込み算木組（寛永）、ソリありなしが混在 ←どう？
黒石は伊豆石、白石は瀬戸内小豆島石、交錯は積み替えの跡

＊張り出し（折り歪み）は強度と横矢、濠幅を広く火縄銃器戦を想定。狭間、銃座も

② 左側は平川濠で濠水は主郭部を時計回りに巡る。右側は乾濠で反時計回り、ここも源泉は天然のわき水。少なくなったがいまも枯れないという。

③ はね橋＝高麗門に引き上げの滑車金具。通常は開かずの門、緊急時に橋を架けた。
＊入って升形で壮大な渡櫓門があったが維新時に撤去

④ 銘々「入苑証」を受け取り、皇居東御苑に入る。ここからが本丸。

4）けんらん、日本最大の天守閣がそびえた —— 現存天守台

① シンボル天守閣を上げる天守台。天守台は５度築きうち天守は３度上がった。
現存天守台は享保年間に吉宗が構築、しかし上物が上がることはなかった。
＊台は白御影石（花崗岩）高さ12.7m。はるばる瀬戸内海の小豆島から運ばれた。

② よく加工された大きな切石を横目地を通して積み上げる。みごとな切り込み積み、表面ハツリ仕上げ、所どころの黒ずみ欠けは火被りの跡、巨石も火には弱かった。

③ 天守台に登る。低い方は連立式小天守台。いったん経由して穴蔵（地下１階）、初重へ。穴蔵は幕府金蔵の１つで「奥金蔵」とされた

④ 天端（てんば）は平ら、両端を高く。石台は雨が禁物、コーナー一杯に土台を回した

⑤ 最後の天守閣＝５重６階、高さ51m（総高64m）の層塔型で白。銅瓦葺き入母屋屋根シャチ、飾り破風多数。明暦元年の明暦大火で焼失、以降再建されることはなかった。
＊家康の天守は本丸中央部に築かれ、台は20m、天守総高80mとされる
＊五重塔の建築技術を生かした層塔型は慶長年間に石垣技術の高度化、軽量化で実現
＊天守台から本丸跡地、その先、東京都心のビル街を見渡す

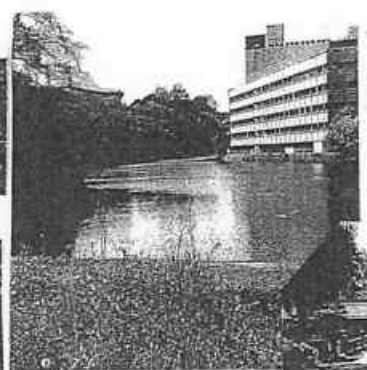
5）大奥３０００人、女たちの夢ものがたり —— いま洋風庭園と広場に

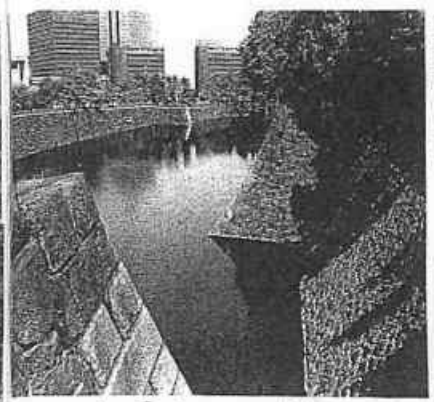
① 大奥＝本丸建物11,000坪の６割6,000坪を占める。
幕府経費のおよそ３分の２を消費、苦しい将軍家財政を圧迫した。

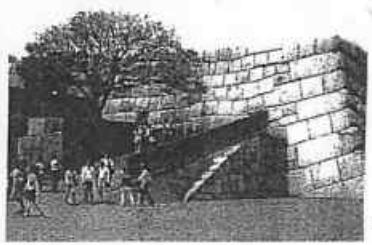
② 最後の本丸御殿は万延元年建造、４年後に焼失、放火や将軍毒殺の噂も流れ、将軍も枕を高く眠れない。幕府は再建をあきらめ西の丸仮御殿へ本丸機構を移した。

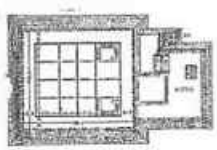
③ テレビ、映画にかかせない将軍家ハーレム。時に幕閣、諸大名を巻き込んだ後継争いが繰り替えされた。深慮策謀渦巻く「女の戦い」の舞台。
＊常時500人～3,000人の女性たちが起居、文字どおり「大奥」女の園。

④ 11代将軍家斉＝大奥での豪奢な生活を享楽、16人の側室に54人の子女を産ませたが過半数が夭逝、成人者にも身体や精神面でのやや異常者も多かった。
＊次の家慶も27人の子福者だったが18才に達した男子は13代を継ぐ家定１人だった。
血筋説や大奥乳母のおしろい鉛説がある



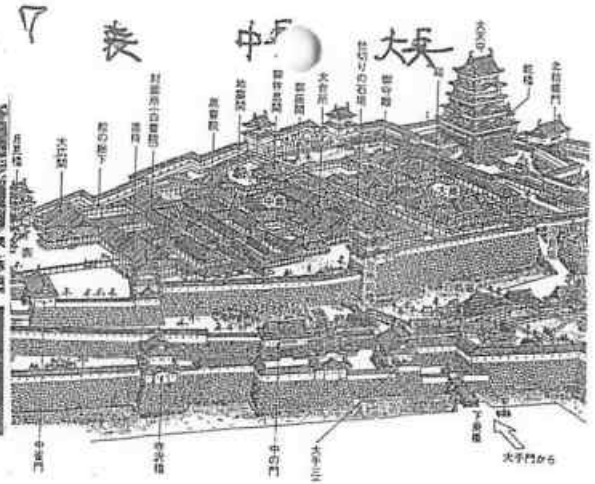


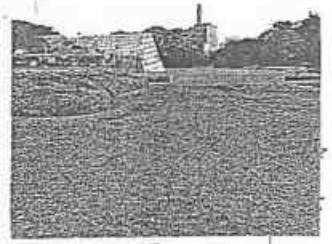




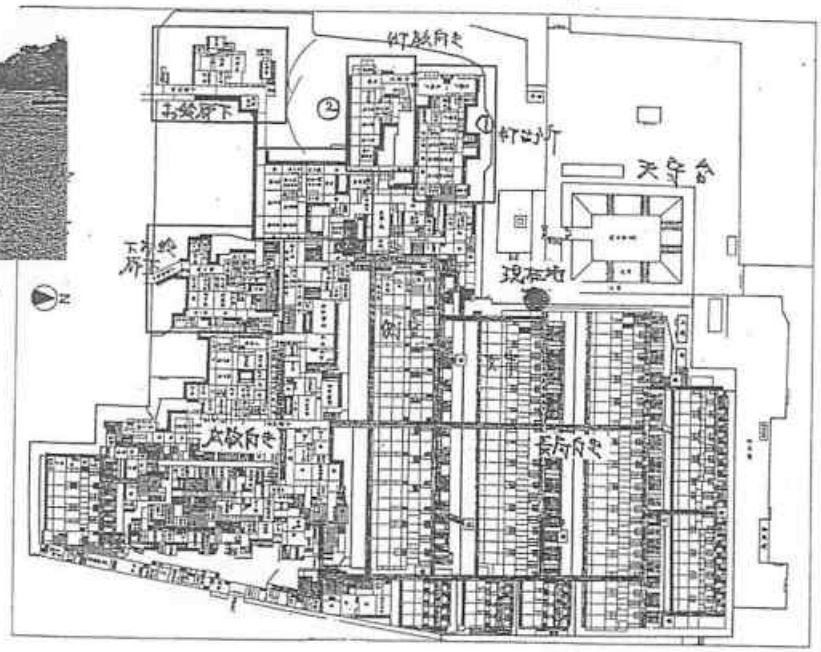
寛永度天守図
←現存天守台

本丸御殿跡





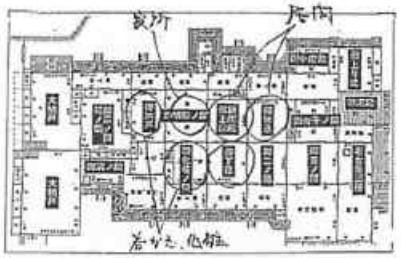
大奥跡



→ 大奥図

11代将軍家斉

お鈴廊下



御台所居所

6）お鈴廊下は将軍以外男子禁制 —— 篤姫と和宮、生活の跡

① 長局向き跡＝側室と大奥女中居住。1の側、2の側、3の側、4の側、横側
　1の側は側室、1のお部屋様、2のお部屋様……定員は部屋の数の9人

② 広敷向き跡＝大奥役人（ここだけは男）の執務所。
　＊篤姫と和宮の輿入れはいったん広敷向きを経由して、大奥に迎えられた

④ 下お鈴廊下跡＝予備の連絡通路、側室への輿入りの時利用ともいう。

⑤ 新座敷跡＝家定生母・本寿院、和宮の入輿後は篤姫が移り住む。上段の間が寝室兼居間、客座敷上段の間が将軍家茂夫妻との対面所、
　＊和宮との初対面で、席位置と座布団、みやげの敬称をめぐってひともん着があり「嫁しゅうとバトル」の発端となった。

⑥ お鈴廊下跡＝文字どおり将軍以外男子禁制の連絡通路。鈴の音を合図に開閉した。

⑦ 総ぶれ＝毎朝四つ（10時）、お目見え以上の大奥女性がお鈴廊下の畳廊下に居並ぶ中を将軍が通り抜ける。テレビ大奥の象徴的シーン。
　＊御台所は将軍を小座敷に迎え、夫妻は御仏前の間で先祖の位牌を拝礼した。

⑧ 奥泊まりは暮れ六つまでまでの予約制、思いつきはだめ。寝室は御小座敷上段の間。おねだりのないようお伽の者が監視、翌朝詳細を報告した。

7）小堀遠州の家光庭園を復元 —— 2の丸庭園

① 塩見坂を2の丸へ下りる。升形、坂虎口

② 左側は梅林門から平川門へ。周辺石垣に解体工事看板。
　石垣表面はスダレ仕上げが多い。

③ 2の丸＝将軍世子居城。ときに臨時本丸や別荘、一時「篤姫」も居住している。

④ 表御殿、奥御殿、庭園。2の丸御殿もたび重なる火災で6度建造された。
　最後は慶応元年再建、2年後に焼け、4か月後に江戸開城となった。

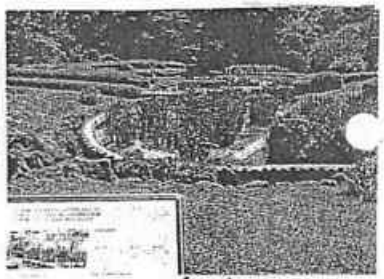
⑤ 現在の庭園は2の丸全盛期の寛永時代小堀遠州作庭を模し、昭和43年に復元された

⑥ 2の丸休憩所で小休止。元気な方は2の丸庭園を自由見学してください。
　＊池泉を反時計回りに1周。見どころは池、中島、洲浜、雪見灯籠、滝石と護岸石組み

お鈴廊下

すだれ仕上げ

← 塩見坂



2の丸庭園

天璋院

篤姫

① 2の丸

2の丸の池

8）江戸城最大の本丸高石垣を見上げる —— 本丸石垣と白鳥濠

① 白鳥濠＝江戸はじめはもっと広く、家光は濠の中に水舞台を作って能を楽しんだ。

② 本丸石垣＝高さ30m近い高石垣が続く。慶長11～13年の第１期工事で完成。

＊高石垣＝おおむね10m以上の石垣をいう。直線は強度的に難しい。
第１位は徳川大坂城本丸で32m、多段は丸亀城が３段の60m

＊打ち込みハギ＝あら加工した石材を積み上げ、間石を挟む。慶長～元和期の石組み

＊算木組＝コーナー部に長方形の角石（かどいし）を縦横交互に積み上げる。
２ツ石、２ツ半石。大坂城に３ツ石

③ 大手３の門＝諸大名登城コースはこの先の大手門から入城。本丸から３つ目（大手門から２つ目）の門。人別改め、以後は限られた人だけが入れる。

④ 百人番所＝３の門の大番所。城内最大の警固ポイント。甲賀、根来、伊賀、二十五騎組の４組、同心100人交代勤務。かつて石垣上に櫓、多聞が立ち並んで威圧した。

9）巨石を伊豆と瀬戸内小豆島から石船で運んだ —— 石材展示と中の御門跡

① 展示コーナー＝平成17年の解体修復工事の残石を展示

＊黒石（前出＝伊豆半島東海岸早川などの石切り丁場で採石したもの）

＊白石（前出＝江戸中期に香川県小豆島石切り丁場から採石したもの）

② 巨大な石垣は２の丸の間仕切り門。江戸城唯一升形でない。

③ 江戸城最大規模の石材。門下の石畳も当時のまま、柱穴摶（せん）も。
切込みハギ＝精密加工した石材を積み上げる。元和以降の石組方法。

10）１万両を盗み出して富山で御用 —— 幕府金蔵跡（遠望）

① 何百万両ともいわれた幕府の大判、小判、金塊を保管した金蔵跡。奥金蔵と２か所。

② 厳重な警固体制。破られることなどありえないはずの金蔵に盗賊が入る。
江戸後期安政２年、太平に安穏、警備も形骸化。２人組盗賊が未使用小判１万両を盗み出す。うち４千両城外、６千両は濠へ廃棄。犯人は２年後富山で捕縛された。

11）最後の門石も火災跡が生々しい —— 中雀御門跡

① 中の御門から内側は本丸帯曲輪、登り坂を進むと江戸城最後の城門、本丸正門に出る。

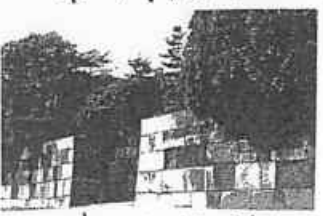
② 登り石段、高麗門、内枡形右折れ、渡櫓門（19×４間）、御書院櫓（２重）、書院出櫓（２重）、続き多聞櫓。古写真が当時の威容を伝える。

③ 火勢にあぶられ黒ずみ欠けた石垣。文久３年の本丸火災跡。

④ 書院番士ら出迎えの中を大名たちは玄関へ進む。一瞬、大名気分にしたる。

石材展示

中の御門古写真



中の御門跡

古写真

12）幕府権威の象徴、諸大名が平伏 —— 本丸殿舎、大広間は夢のまた夢

① 目前の広い芝生公園が本丸跡。１万１千坪宏壮な本丸殿舎が連なった。

＊表向き（政庁）３千坪、中奥（将軍官邸）２千坪、大奥（御台所、側室居所）６千坪

② 本丸殿舎＝江戸城の中心。初代家康から14代将軍家茂までの居城。

③ 玄関、遠侍、台所、大広間、白書院、黒書院、中奥、大奥などを廊下で結んだ。
火災起きたら全焼。工事図面が現存。毎回踏襲し変化少ない。

④ 大広間跡＝本丸碑。上段の間、中段の間、下段の間。権威の演出舞台でもあった。

13）歴代将軍が富士山や両国花火を眺めた —— 富士見櫓（一部現存材復元）

① 明暦大火で天守閣焼失後の代理天守閣。歴代将軍はこの櫓に登って、富士山や江戸湾、両国の花火などを眺めた。

② 慶長11年、石垣は加藤清正構築。３重櫓。維新後も残ったが関東大震災で倒壊。

＊江戸後期15櫓の１つ。最盛期は本丸だけで15、すべて30基もあった。

＊説明パネル写真は西の丸側櫓台下一般参賀のコースから。みえない裏側は飾り破風のない御三階櫓。表裏での違いを実感。

14）浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷 —— おなじみ松の大廊下跡

① 元禄14年３月14日、浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷した元禄赤穂浪士事件の発端。

② 大広間と白書院を結ぶ畳廊下。２間半巾、ぬれ縁。内側は中庭、外側は三家溜の間。
襖に松の絵を描いて廊下の名前に。

③ 刃傷事件＝過去に３件。いずれも即死、浅野内匠頭だけが失敗、しかし、成功していれば赤穂浪士も討入りできないことになる。

＊老中井上正就、大老堀田正俊、首席老中田沼意次の嫡男意知

15）本丸展望台から２の丸庭園と丸の内を遠望 —— 本丸休憩所で一休み

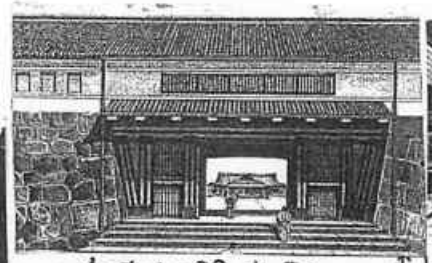
① 売店、休憩所で小休止。アイスクリームや飲み物、みやげなどを販売。

② 本丸展望台は台所櫓台跡。２の丸全景と丸の内を遠望。

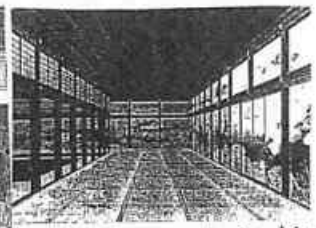
③ 芝生を踏みしめながら天守台をめざす。
途中、将軍が起居した中奥、再び大奥をへて北はね橋、北の丸公園へ戻る。

16）北の丸公園からバス乗車、市原をめざす

以上



本丸竹橋玄関



↑↓松の廊下 ↓展望台から

←富士見櫓

大広間

辰巳公民館主催事業

すこやかカレッジ　バス研修

「相撲と忠臣蔵の町両国を歩き、江戸東京博物館を見学する」

1．期日　　平成２２年１０月６日（水）

2．コース及び日程

辰巳公民館集合―辰巳公民館発―蘇我 I. C―湾岸幕張 P. A―
8:30　　8:45　　トイレ休憩

首都高浜町 I. C―江戸東京博物館駐車場着―※①両国を散策―
10:00　　10:20～11:45

国技館相撲博物館―江戸東京博物館３階休憩所・両国駅周辺（昼食）―
11:45～12:00　　12:00～13:00

江戸東京博物館（見学）―駐車場発―首都高錦糸町 I. C―湾岸幕張 P. A―
13:10～15:00　　15:10　　トイレ休憩

蘇我 I. C―辰巳公民館着
16:30

※①両国の主要行程

国技館前→隅田川→両国橋→回向院→吉良上野介屋敷跡→相撲部屋外観→両国駅前

※②水上バス希望者

12:00～12:30　水上バス「東京スカイツリーコース」
両国・浅草桜橋往復（個人払い４００円、浅草降船禁止）

12:30～13:00　昼食

3．持ち物

飲み物、弁当、筆記用具、歩くのでその日の天候に注意して持ち物を考えてください。

レストランは、江戸東京博物館内または両国駅周辺にあります。

4．費用　　１，０００円前後（江戸東京博物館入館料、高速代、駐車代）

江戸東京博物館（団体一般４８０円、６５歳以上２４０円）
朝受付時に集金します。

高速代、駐車代については、公民館でバスから降りた所で集金します。

5．その他

参加できなくなったら、早めに欠席することを公民館に知らせてください。

辰巳公民館　　７４－８５２１

「相撲」と「忠臣蔵」の町両国を歩き「江戸東京博物館」を見学する

辰巳公民館主催事業「すこやかカレッジ」バス研修　平成２２－１０－６　　山岸弘明

きょうの見どころ
①復権をめざす相撲協会 —— 国技館と相撲部屋を歩く
②主君の恨みはらさぜか —— 赤穂浪士討ち入りの地と引き上げ道を歩く
③建設急ピッチ —— 旬の東京スカイツリーを見上げる
④日本橋や江戸城松の大廊下を再現 —— 江戸東京博物館を楽しむ

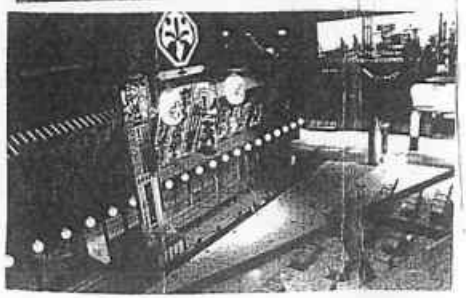
本日の主要コース

８：３０	辰巳公民館集合
８：４５	〃　出発
１０：００	江戸東京博物館駐車場着
１０：２０～１１：４５	両国の町を歩く
本隊	
１１：４５～１２：００	国技館相撲博物館
１２：００～１３：００	昼食（各自）
水上バス希望者（各自払い４００円＝天候や進行状況により実施できないことがあります）	
１２：００～１２：３０	東京スカイツリーコース
１２：３０～１３：~~００~~１５	昼食（各自）
合流　１３：~~００~~１５	３階江戸東京ひろば集合
１３：１０～１５：００	江戸東京博物館見学
１５：１０	〃　出発
１６：３０	辰巳公民館着

備考＝スカイツリーはバス車中、両国コースでもみえます

吉良邸討ち入り

江戸東京博物館



元禄１５年１２月１４日午前４時、赤穂浪士４７士残雪を踏みしめて吉良邸討ち入り

連絡および注意事項

①水上バス（オプション）＝両国→桜橋（浅草）→両国
浅草下船や乗り越しはできません。必ず両国で下りてください。
＊水上バス希望者の昼食時間は少ししかありません。持参者は船内または江戸東京博物館３階の休憩所をご利用ください。持参しなかった方は近くのコンビニか、１３時５０分からの自由見学時間、館内の食堂、レストランを利用ください。
②本隊の昼食＝
＊弁当持参者は江戸東京博物館３階の江戸東京ひろば（屋根あり）をご利用ください
＊弁当を持参しなかった人は、相撲レストラン「花の舞」をお勧めします
チャンコ、定食、そばなど。料金はおおむね大衆的です。
＊博物館にレストラン、茶房、館近くに食堂、ラーメン屋などもあります
③番号バッジは全行程を通じ、胸など見やすい箇所に取り付けてください。
④１３時１０分～およそ３０分間６階常設展示場をご案内し、１５時００分まで自由見学とします。希望者はボランティア説明制度を利用ください。
⑤途中での入退館は自由ですが、特別展には入場できません。
⑥集合時間は厳守してください。
午後の集合は１３時００分、江戸東京博物館３階の江戸東京ひろばまん中あたりです。
最終集合は１５時００分、博物館１階駐車場のバス車内です。
⑦万一の緊急連絡先は０４３６－７４－８５２１（辰巳公民館）です。
⑧進行にご協力ください。体調不良などの場合は早めに連絡ください。

「両国」を歩く

1）江戸東京博物館１階駐車場で降車（予定＝１０時ころ）

①忘れもののないよう降車（バスは移動しません）

＊最終集合場所と時間の確認（帰りは１５時００分＝１階駐車場から乗車）

＊トイレ（３階にもあります＝１２時までトイレ休憩はありません）
午後利用する「江戸東京博物館入場券」配付

②いったんエスカレーターで３階「江戸東京ひろば」へ。

＊午後の集合場所確認
いざ「相撲の町」「討ち入りの町」両国へ出発

③両国の玄関口＝レトロなＪＲ両国駅
明治23年両国停車場として創業。かつて房総方面への始発駅で蒸気機関車が走った。
駅舎は昭和５年建造、戦前の雰囲気が残っている。

2）「相撲の町＝両国」の象徴 —— まずは国技館横を通り抜ける

①相撲は神話、野見のすくねの「力くらべ」にはじまるという。江戸時代に職業相撲が起こり、18世紀後期明和ころから江戸相撲が興隆した。両国は晴天10日の勧進相撲以来の本拠地で、明治42年回向院に初代国技館を竣工した。

②両国国技館は国技・相撲の殿堂。昭和60年蔵前から復帰。現在は年６場所制のうち１、５、９月に本場所を開く。若・貴引退後は「外人の相撲レスラー」が全盛、現在は横綱白鵬はじめ上位陣を外人に独占され、日本力士の影が薄く成っている。

②近年、土俵内外で不祥事が続発、協会は現在、再生復権に取り組んでいる。

＊秋場所は横綱白鵬が４場所連続16度目の優勝を飾り、連勝記録が話題を呼んだ。
力士たちは現在、大阪場所をめざし稽古に励んでいる

③場所中は国技館の回りに人気力士の名前を染め抜いた「のぼり旗」が立ち、櫓太鼓が場所中であることを告げるが、行事のない日は閑散としている。

④後ほど、水上バス利用しない人だけで館内の相撲博物館（入場無料）を見学します。
相撲に関する資料が収蔵、展示されている。

江戸東京博物館

両国駅

両国国技館

白鵬

3）隅田川の遊歩道を歩く（進行状況により省略することがあります）

①隅田川＝家康江戸入府当初の利根川で、のち本流を東旋、江戸中後期は大川、隅田川、浅草川などといった。武蔵（江戸）と下総の境川、昔は６～８月が川開きで、江戸市民が夕涼みや船遊び、花火を楽しんだ。

＊両国の花火＝江戸中期享保年間から。飢饉と疫病コロリ犠牲者供養、悪病退散を祈願

②川の両側はテラスで遊歩道が続く。 300mほどを散策、川面を遊覧船や漁船、運搬船などが進む。しばらく美しい川の流れに目をやり、観光用の大看板で「両国の昔」と「相撲絵」を楽しむ。

③対岸は浅草橋、上流は蔵前、浅草。橋は蔵前橋で、その先に厩橋、駒形橋が続く。

＊水上バス（オプション）利用者は乗船場所も確認しておいてください。

4）江戸名所両国橋とにぎわった広小路元町

①両国橋跡＝「明暦大火」直後の万治２年（1659）架橋。10万人ともいわれる犠牲者を出した大被害にこりた幕府は、下総との境川に「両国橋」を架けて、本所地区も江戸に取り込んだ。江戸時代はいまの橋の50mほど下流に架けられていた。

＊首府江戸防衛のため隅田川には橋がなく、川に行く手を阻まれて被害が拡大した。江戸は超過密都市であり、大火を機に市街地の拡幅を進めた

②「広小路」は火除け地のこと。幕府は幹線の道路や橋、寺社周辺に広小路を設け緊急時の避難広場とした。

＊両国橋の西詰江戸側は「両国広小路」、東詰は「向こう両国」と呼ばれ、見せ物小屋、料理茶屋、飲食店、みやげもの屋が軒を連ねる繁華街となった

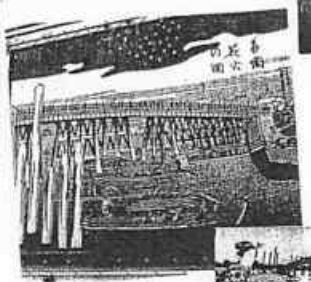
＊周辺を元町といい、回向院参道として賑わった

③元禄15年12月14日、めでたく主君浅野内匠頭の仇、吉良上野介を討ち取った大石内蔵助ら47士は高輪泉岳寺への引き上げの途中、この地で最初に休息した。

隅田川と両国橋

両国の花火
江戸名所百景

赤穂浪士の引き上げ


遊歩道の風景

5）駅周辺に相撲部屋が林立している —— 春日野部屋や時津風部屋前を通る

①両国には相撲部屋が集中している。きょうは春日野、時津風、大[illegible]3つの部屋前を通る。運がよければ窓から稽古場が覗けたり買い物途中のマゲ姿にも出会える

＊両国駅周辺の相撲部屋＝八角、錦戸部屋（高砂一門）、陸奥、井筒部屋（時津風）、出羽海、三保ケ関部屋（出羽海）、二所ノ関部屋（二所ノ関）（前出3部屋を省略）

②春日野部屋（出羽海一門）＝ビルの正面に格子窓や白漆喰、玄関に破風をあしらった伝統的造り。1階に土俵、残念ながら玄関外観だけ。

＊大正末期、27代横綱栃木山が出羽海部屋から独立、栃錦、大関栃東らを出した。現在の親方は元関脇栃の和歌、現役力士に栃煌山、栃ノ心、木村山、栃の洋がいる。

＊「ひげの伊之助」式守さん宅

③時津風部屋（時津風一門）＝第35代横綱双葉山が創設した「双葉山相撲道場」の後身。正面看板に注目。双葉山は年2場所制で優勝12回、69連勝の金字塔はいまも破れない。

＊横綱鏡里、大関大内山、北葉山、豊山。現役は時天空、土佐豊、霜鳳、豊ノ島ら。

④大島部屋（立浪一門）＝元大関旭国が独立。はじめてモンゴル力士を入門させた。

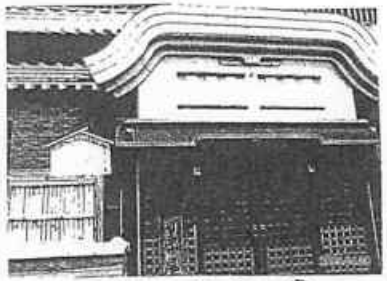
＊横綱旭富士、旭道山、旭鷲山、現役に旭天鵬、旭南海がいる。

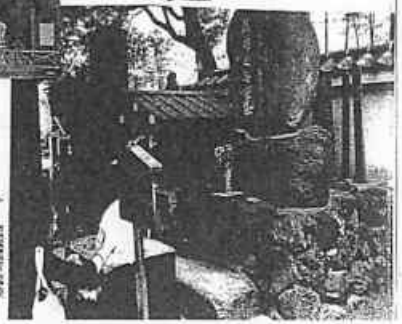
6）赤穂浪士が泉岳寺めざした道 —— 1の橋を遠望

①幕府は本所地区の開発にあたり、縦横に掘割をめぐらせた。隅田川に対して直角の大きな川が「竪川」で、最初の橋を「1の橋」といった。竪川周辺は全国から運ばれるさまざまな物品を扱う商家が立ち並んだ。

＊1の橋の次は2の橋、3の橋、4の橋、通りを4つ目通り、5つ目通りと呼んだ

②元禄15年の赤穂浪士引き上げの道でもあった。一行の引き上げルートはおよそ11㎞。当日は江戸城総登城日であったため、大名との無用な衝突を避けるため、両国橋を渡らず下流の永代橋を経由して泉岳寺をめざした。





7）国技発祥の地 —— 回向院の晴天10日勧進相撲に始まる

①回向院は「明暦の大火」後、犠牲者供養のため増上寺が創建。10万8千余の遺体を埋葬、以後事故や無縁、刑死者などを供養した。

②天明元年から回向院に葬った死者の霊供養のため年2回勧進相撲を開催、当時地方で盛んだった相撲が全国大会となった。国技相撲のいわれという。また、出開帳、富くじなどが人気を呼び、両国は江戸屈指の盛り場となった。

③明治42年ドーム型「両国国技館」を設立、戦後、米軍に接収されたため昭和25年から蔵前国技館に移った。

④「鼠小僧次郎吉」の墓＝江戸後期の盗賊、勝負ごと、入学に霊験あらたかという。銅製阿弥陀如来像（宝永3年）、明暦大火供養塔、力塚

＊赤穂浪士は討ち入り後境内で休息しようとしたが開門前のため立ち入りできなかった

8）赤穂浪士討ち入りの地 —— 吉良邸の1％が「松阪町公園」として残る

①討ち入りゆかりの本所松阪町碑＝昭和はじめの地名変更で「松阪町」の地名が消える。町会の記念碑に昭和20年3月10日の東京大空襲、被災跡が生々しい。

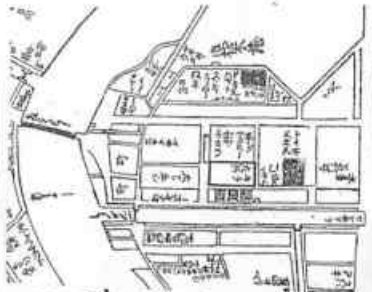
②土屋主税邸跡＝久留里土屋2万石の後裔。3代直樹が御家騒動で改易されたが、達直が旗本3千石で再興、たまたま吉良家の隣。討ち入りを知って境界に高提灯を並べて影ながら応援した。

③松阪町公園＝吉良邸敷地面積 2,557坪のうち86分の1を吉良邸記念公園として保存。玄関少し入った表向き北側、旗本本多邸に接した空き地部分で、当然仇敵を探す47士が駆けめぐったといえる。

④元禄14年3月14日江戸城松の大廊下で刃傷事件勃発。浅野内匠頭は即日切腹となるが、吉良上野介にお咎めはない。世評は吉良に厳しく、隠居した上野介に9月大手町呉服橋から本所松平登之助邸への屋敷替えが命令される。

⑤元禄15年12月14日（新暦16年1月30日、正確には31日午前4時ころ）赤穂浪士、大石内蔵之助ら47士が討ち入り

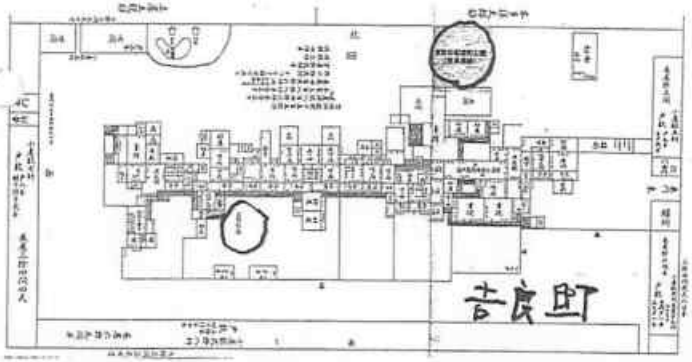
表門（長屋門カ）＝内蔵助ら24名、山鹿流陣太鼓なし、はしごかけ屋根を越え門を開く



裏門（棟門）＝大石主税ら23名、門扉を叩き割る
切り込み隊＝片岡源五左衛門、堀部安兵衛、赤恒源蔵ら突入
⑥吉良方戦闘要員＝当直22名、合計80から 100人
数こそ劣るが報復に燃える赤穂浪士の意気込みが圧倒、手向かう敵をなぎ倒して上野介めざす。
上野介＝炭部屋に潜むが間十次郎が槍、武林唯七が太刀で切り付け即死
吉良方被害＝死者17、負傷24名（諸説あり）、赤穂方は軽傷のみ、周到な準備で圧勝
戦闘はおよそ１時間、午前６時ころ引き上げ開始、10時ころ泉岳寺着
＊公園由来、松阪稲荷（上野介を奉る）、首洗いの井戸、吉良方忠臣の碑
＊正門前、上野介殺害の地、裏門前、相生町前原伊助らかくれが

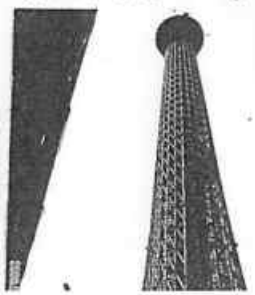
9）両国駅周辺のその他の見どころ —— 改めてチャレンジしてください
①きょうは駆け足でした。両国はみどころがいっぱいです。次回は駅前の観光案内所で無料の「両国マップ」を仕入れ、ゆっくりと町歩きを楽しんでください。
②駅５分圏のおすすめ
旧安田庭園（本荘氏大名庭園）、横網町公園（東京都慰霊堂、復興記念館）、横綱横町、芥川龍之助生育の地、文学碑、勝海舟生誕の地、大高源吾句碑（周辺工事中）
相撲部屋＝陸奥部屋、井筒部屋、出羽海部屋、二所ノ関部屋、八角部屋、錦戸部屋
食べ物店＝チャンコ（元力士経営も）、山くじら、どぜう屋など老舗、名店が多い

１０）相撲博物館と水上バス組にわかれる
①相撲博物館組＝両国国技館へ。自由見学１５分。昼食解散。
相撲レストラン、江戸東京博物館３階の江戸東京ひろば
②水上バス組＝東京水辺ライン両国発着場（国技館正面）から水上バス利用。
１２時００分両国発→桜橋（浅草）→両国着１２時３０分
乗船券は個人でお求めください（往復４００円）
＊東京スカイツリー＝地デジ対応のため東京タワーに変わるテレビ電波塔として墨田区押上１丁目に建設が進む。高さ 634mの内、現在およそ 450mが完成、平成24年竣工予定。デザインは法隆寺五重塔をイメージしているという



スカイツリー↓

水上バス



江戸東京博物館を見学する

1）高床式をイメージ —— 斬新デザインの「江戸東京博物館」
①１３時００分３階「江戸東京ひろば」に集合
②改めて「江戸東京博物館」を見上げる。デザインは高床式から。
高さ62m＝15階規模、江戸城天守と同じ。敷地面積３万㎡＝東京ドームの２倍半ある。
③江戸と東京の歴史文化を紹介。有料、団体入場。
④エスカレーターを乗り継ぎ６階受け付けへ。

2）５街道の出発点「お江戸日本橋」からスタート
①６階「江戸ゾーン」、いきなり「日本橋（復元）」が飛び込む。
博物館のシンボル。東海道、中山道といった５街道の出発点。江戸時代は市中最大の盛り場として賑わった。長さは本物の半分だが幅と高さは現物と同じになっている。
＊解説表示＝日本橋がはじめて架けられたのは1603（慶長８年）といわれ、翌年には諸街道の起点と定められた。日本橋一帯には魚河岸、米河岸、材木河岸などが作られ、また幕府の陸上輸送を担当する伝馬役所が橋の近くに設けられた。橋の規模は全長28間（約51m）である。ここでは北側（14間）を復元した。（以下省略）
＊お江戸日本橋七つ（午前４時ころ）立ち＝旅人たちは朝早く日本橋をたち、品川あたりで夜が明けた。１日およそ40㎞、第１日は保土ヶ谷あたりに泊まったという
＊日本橋のパフォーマンス＝有力諸大名の参勤交代、江戸入りは日本橋が晴れ舞台、千人をこす供揃いを従えた華麗なデモンストレーションを展開
②日本橋側（北詰）から銀座側へと進む。かつて橋手前左側は魚河岸（魚市場）、右手前は駿河町、本両替町で越後屋（現三越）や金座（現日本銀行本店）があった。
③橋中央から５階展示場（水位）を眺める。たいこ橋のため現在より随分高く感じる。
江戸は掘割、水路が発達し、中小の手こぎ船が行き来した。
＊市原の五大力船は海川両用の中小型帆船兼ろ船であったが、主に江戸湾沿岸＝隅田川河口の船問屋や商家と取引した。遠国から江戸に入る大型船はいったん積み荷を小型船に積み替えたりハシケ宿を通じて江戸市中に入った
④銀座側（南詰）右に高札場兼さらし場、橋の両側は荷揚げ場で左100m、木更津河岸があった。木更津船は大坂の陣で幕府に協力、特権が認められていた。

日本橋

←江戸の町並み

←日本橋
木更津河岸

→両国橋

都指定旧跡

吉良邸跡（本所松坂町公園）

両国小学校の少し西側、旧本所松坂町・現在の墨田区両国三丁目に、なまこ壁に囲まれた「吉良邸跡」があります。元禄十五年（一七〇二）十二月十四日、赤穂の四十七士が討入りしたところで、『忠臣蔵』で知られるところです。

吉良上野介の屋敷は、はじめ鍛治橋の屋敷を拝領していましたが、刃傷事件のあと、赤穂浪士が吉良屋敷に討入るという噂があり、周囲の大名屋敷から苦情が出て、元禄十四年八月御用地として幕府に召し上げられ、一時こどもの上杉弾正大弼の屋敷に身を寄せ、その後、同年九月、ここ本所松坂町の松平登之助の屋敷を拝領し移り住みました。江戸城近くの屋敷から比べれば、赤穂浪士の討入りは、格段に容易になったと世間でいわれました。

この吉良家上屋敷は、広大で東西七十三間（約一三四ｍ）南北三十四間（約六三ｍ）二千五百五十坪（約八四〇〇㎡）と記されています。吉良上野介がこの屋敷を拝領したのが、元禄十四年（一七〇一）九月三日、義士の討入りがあって没収されたのが元禄十六年二月四日と、前後一年半に満たない短期間でした。

屋敷の表門は東側、今の両国小学校に面した方にあり、裏門は西側で、東・西・南の三方は周囲に長屋があり、北側に本多孫太郎、土屋主税の屋敷と地続きになっていました。

建坪は、母屋が三百八十一坪（約一二八〇㎡）長屋は、四百二十六坪（約一四〇〇㎡）でありました。

現在吉良邸跡として残る本所松坂町公園は、二十九・五坪（約九八㎡）で当時の八十六分の一に過ぎません。これは昭和九年（一九三四）地元両国三丁目町会有志が発起人となって、邸内の「吉良の首洗い井戸」を中心に土地を購入し、同年三月に東京市に寄付し貴重な旧跡が維持されました。区への移管は昭和二十五年（一九五〇）九月です。

公園をとり囲む高家の格式を表す「なまこ壁」と黒塗りの門が、僅かに、当時の模様を偲ばせています。

毎年十二月十四日、義士討入りの日には、両国連合町会主催・墨田区後援の『義士祭』が行われ、十二月の第二または第三土曜日・日曜日には、両国三丁目松坂睦主催の『吉良祭』が催され、主君のために亡くなった吉良家家臣の冥福を祈っています。また、地元諸問屋出店の『元禄市』も開かれ、大変な賑いを見せています。

この園内に鎮座する『松坂稲荷』は、徳川氏入国後、現在の社地たる松坂町方面に御竹蔵が置かれた当時、その水門内に鎮座された「兼春稲荷」と、古くこの土地周辺に祀られていた「上野稲荷」の二社を合祀し、昭和十年当所に遷座されたものです。

首洗い井戸

園内にある錦絵・討入りをとげた四十七士（両国橋たもと）

吉良家、家臣二十士碑

吉良上野介追慕碑

3）華麗な江戸絵巻、寛永の繁栄 —— 国宝「江戸図屏風（複　）」と町人町

①歴博本・江戸図屏風＝寛永前期の江戸を描く。6曲1双。本間屏風。紙本金地著色
　制作年代、絵師など不詳

＊左隻＝江戸城中心。現在の皇居、丸の内、日本橋、銀座、新橋、永田町、芝など
　右隻＝中央線以北。水道橋、上野、板橋、川越など

＊江戸城には5重天守そびえる。本丸御殿、西の丸など、幕府権威を象徴
　有力外様大名、御三家、一門邸。瓦葺き櫓門、檜皮葺き玄関、遠侍、広間
　御成門と御成御殿は金色さんぜんと輝き、華麗な彫刻が飾られた

＊日本橋、京橋、新橋など町の賑わい。町家の形成

＊増上寺、寛永寺など寺社建築の粋と名所地

＊江戸の水運（掘割）、舟運と船揃い

＊武士や町人の髪形や服装など

②寛永の町人町＝日本橋の周辺の繁栄

4）金色さんぜんの武家屋敷を再現 —— 福井松平藩上屋敷

①江戸屋敷は慶長5年の関が原の合戦に先立って前田利長が母お松を人質として江戸へ差し出し、邸地を拝領したことに始まる。3代将軍家光は、寛永12年の「武家諸法度」で参勤交代を制度とし、妻子を江戸へ移させてからはすべての大名屋敷が江戸に立ち並ぶことになった。

＊大名家はそれぞれ上中下の3屋敷を拝領、不足を自前で買い足した
　上屋敷は藩主夫妻が居住する公邸。中屋敷は予備邸で世子が、下屋敷は隠居屋敷で別荘、蔵屋敷などとされた。江戸屋敷はおよそ 1,000邸、旗本屋敷もほぼ同数を数えた

＊幕府は土地を与え建物は大名が作った。幕閣や譜代名門家は江戸城近くに集められ、ひんぱんに屋敷替えも行われた

②慶長から寛永時代にかけて、豪華絢爛の大名屋敷が軒を連ねた。

＊加藤清正、福島正則、伊達政宗、浅野長政、前田利家らが威信をかけて競作

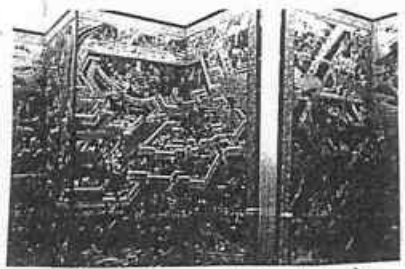
③将軍一門の松平福井藩上屋敷もその代表的な一例といえる。

④周囲を低い石垣と長屋塀で囲み、4隅に角櫓を上げる。

⑤門は2か所、櫓門（ここでは台所門になっている＝主人の専用門）と
　御成り門（将軍専用門＝日暮らし門）がある。

⑥屋敷の中心は御成御殿と数寄屋。大名屋敷でもっとも重要なことは将軍の御成りを迎える（将軍家と親密になる＝名誉、保身、出世）ことであった。

⑦明暦の大火以降、幕府は豪華な藩邸建造を禁止した。



江戸図びょうぶ

寛永江戸図

松平忠昌邸

新橋ステーション

↓馬車鉄道

5）上段の間かい　大名に謁見 —— 江戸城大広間と松の大廊下

①大広間＝江戸城御殿中最大の建物（ほぼ50×50m）。将軍謁見の間。権威の場。
　上々段の間（将軍）、上段の間（幕閣）、下段の間（諸大名）、2の間、3の間からなり、周囲を畳廊下と板廊下の入側（いりがわ）が囲んだ。

＊上々段の間は2重折り上げ格天井、正面に床の間、違い棚、左に腰障子、右に帳台構えを配した。障壁画は狩野派絵師、正面松に鶴、左右は竹と鶴、梅に鳥であった

＊大広間に隣接して能舞台があった。勅使下向や将軍宣下などで使用された

②松の大廊下＝大広間と白書院を結ぶL字の畳廊下。全長28間、幅2間半、外側が御三家溜まりで、内側は中庭であった。

＊元禄14年3月14日、赤穂5万石の城主・浅野内匠頭が吉良上野介に刃傷、「忠臣蔵」の発端となった

6）5階は自由見学 —— 時間は十分あります。ごゆっくりお楽しみください

①江戸ゾーン
＊棟割り長屋
＊両国橋
＊芝居と遊里

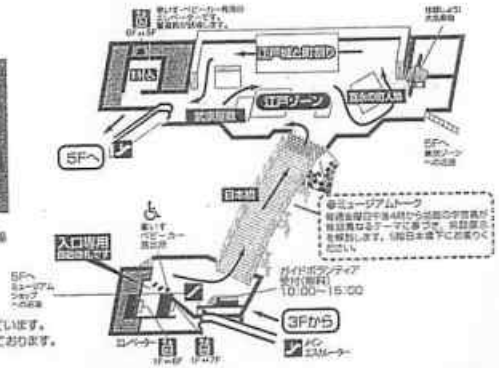
②東京ゾーン
＊鹿鳴館
＊ニコライ堂
＊朝野新聞社
＊関東大震災
＊ヤミ市

7）辰巳公民館めざして帰路へ

15時10分、人数を確認して出発、辰巳公民館をめざす。

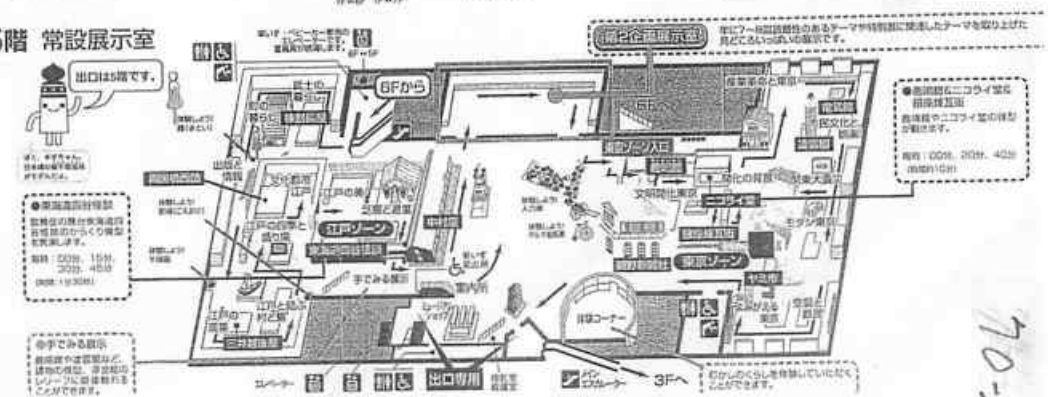
以上

6階 常設展示室



休憩所 3F

5階 常設展示室



70-2

両国駅からの
東京スカイツリー

どんどん伸びるぞ
背くらべ

たまたまこの日
千代大海引退相撲

9月3日 国技館
朝青龍も
惜しまれつつ去った

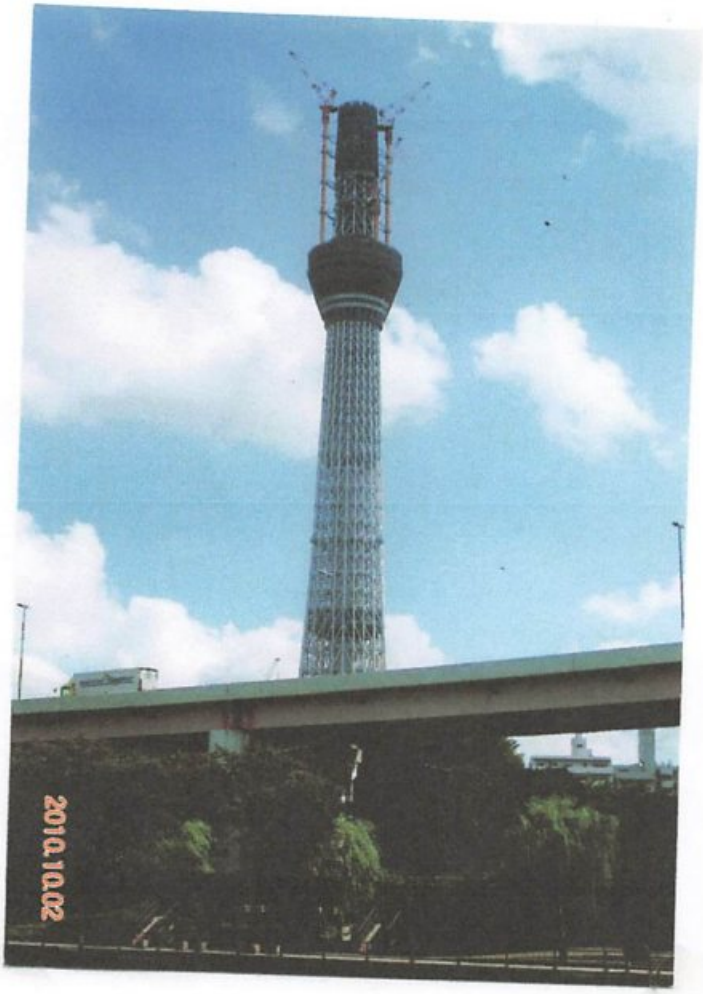
両国駅前

やっぱり
両国は相撲の町だ

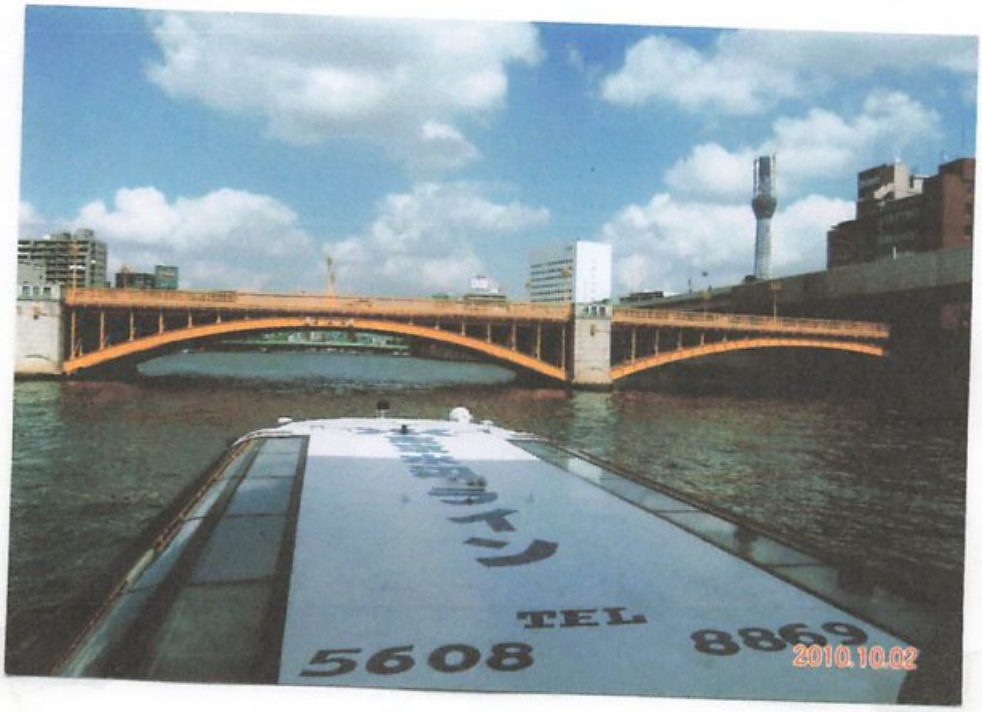
団体なら360円

隅田川に水上バスが行きかう

船内まばら 140人乗り



東京スカイツリーが
迫る



隅田川を
水上バスがすすむ

往復30分の小旅行

川風がここちよい

船上から見上げるツリー

移りかわる
景色はすべてシロウトチャンスだ